

令和 4 年度石岡市男女共同参画に関する  
市民意識調査結果

# 目次

<a href="#">I 調査の概要</a> .....	1
<a href="#">II 調査結果の分析</a> .....	2

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

石岡市では、平成30年3月に「第2次石岡市男女共同参画基本計画」に基づく前期実施計画（平成30年度～令和4年度）を作成し、市民がともにいきいきと個性や能力を發揮することができるまちづくりに向けた取組みを進めてきました。

「第2次石岡市男女共同参画基本計画」に基づく後期実施計画（令和5年度～令和9年度）を策定するにあたり、男女共同参画に関する市民の意見や意識を把握し、計画策定の基礎資料とするためアンケート調査を実施し、市の現状を分析評価することを目的としています。

## 2 調査方法

項目	内容
調査地域	石岡市内
調査対象	無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人
調査の方法	郵送またはインターネット回答
調査時期	令和4年5月9日(月)～令和4年5月25日(水)

## 3 回収結果

回収状況は、回答数999件、回収率33.3%となっています。

標本数	回収数	回収率
3000件	999件	33.3%

※調査精度：今回調査は、2.58%です。

調査精度とは、同じアンケートを100回実施した場合、統計学上95回までは調査結果（回答比率）の誤差が最大でも±2.58%（今回調査の場合）以内に収まるという精度の比率で、また、調査精度は、調査全体の精度で、男女別や年齢別での集計では精度が下がります。

## 4 集計について

- ・回答は質問ごとに各項目の回答者数を回答数で除し、百分率（%）で表示しています。
- ・算出された回答率は少数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、質問によっては、1人の回答者が1つだけ回答する場合（単数回答）でも、回答率の合計が100%ちょうどにならないものもあります。

## 5 表記について

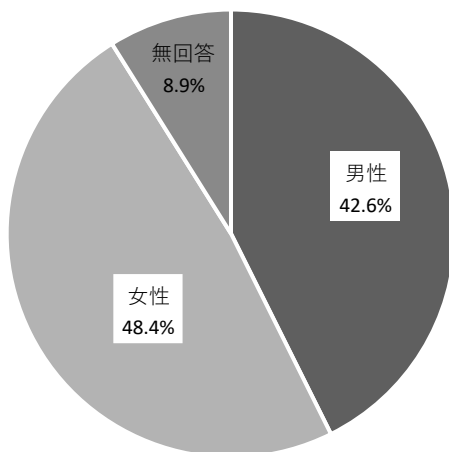
- ・表、グラフ中では、回答率（%）とともに、その設問に回答すべき数（回答者総数）も表示しています。ただし、スペースの都合により省略している場合もあります。
- ・表、グラフ、本文中において、回答選択肢の表記は、スペースの都合により簡略化している場合があります。

## Ⅱ 調査結果の分析

### 【あなたご自身について】

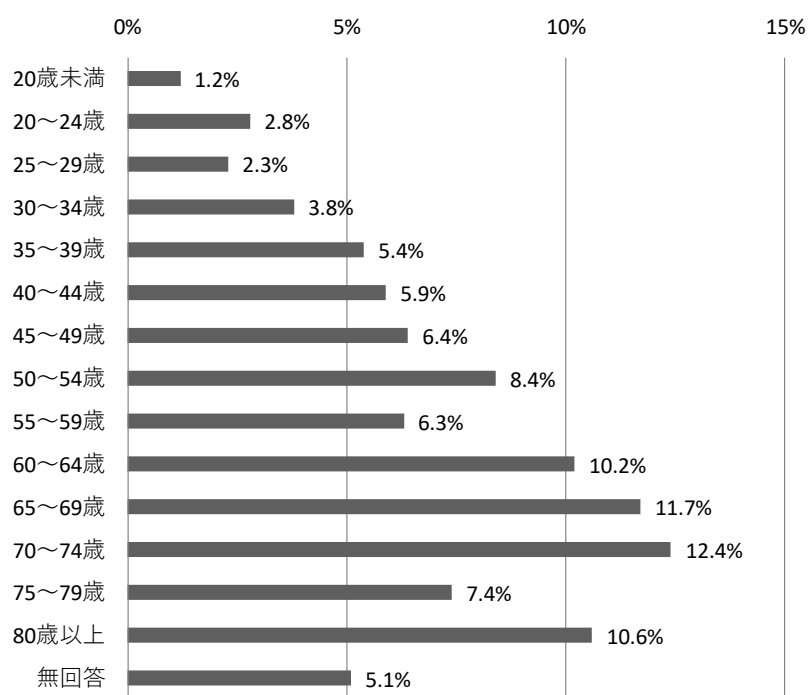
F1 自認する性別はどちらですか。(○は1つ) 答えたくない場合はF2へ

カテゴリ	回答数	構成比
男性	426	42.6%
女性	484	48.4%
無回答	89	8.9%
合計	999	100.0%



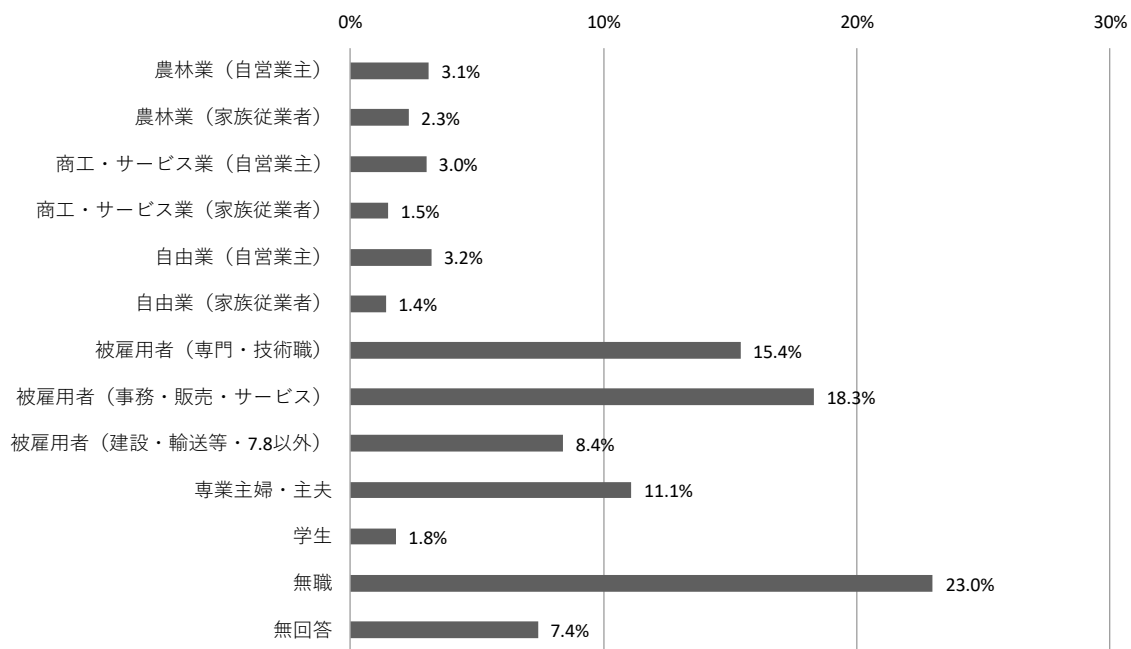
F2 あなたの年齢（令和4年5月1日現在）は次のどれに該当しますか。

項目	回答数	構成比
20歳未満	12	1.2%
20～24歳	28	2.8%
25～29歳	23	2.3%
30～34歳	38	3.8%
35～39歳	54	5.4%
40～44歳	59	5.9%
45～49歳	64	6.4%
50～54歳	84	8.4%
55～59歳	63	6.3%
60～64歳	102	10.2%
65～69歳	117	11.7%
70～74歳	124	12.4%
75～79歳	74	7.4%
80歳以上	106	10.6%
無回答	51	5.1%
合計	999	100.0%



F3-1 あなたの職業はどのような内容ですか。  
 (2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを一つ)

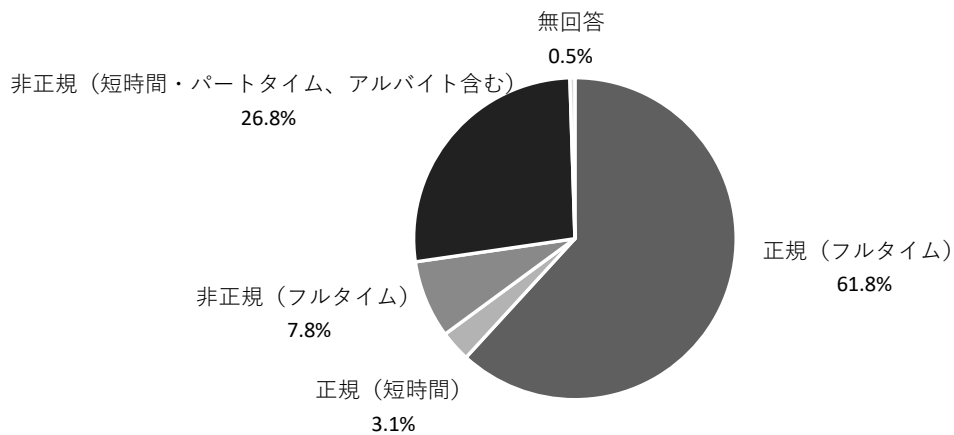
項目	回答数	構成比
農林業（自営業主）	31	3.1%
農林業（家族従業者）	23	2.3%
商工・サービス業（自営業主）	30	3.0%
商工・サービス業（家族従業者）	15	1.5%
自由業（自営業主）	32	3.2%
自由業（家族従業者）	14	1.4%
被雇用者（専門・技術職）	154	15.4%
被雇用者（事務・販売・サービス）	183	18.3%
被雇用者（建設・輸送等・7.8以外）	84	8.4%
専業主婦・主夫	111	11.1%
学生	18	1.8%
無職	230	23.0%
無回答	74	7.4%
合計	999	100.0%



3-2 上記F3-1で、7、8、9とお答えいただいた方にお伺いします。

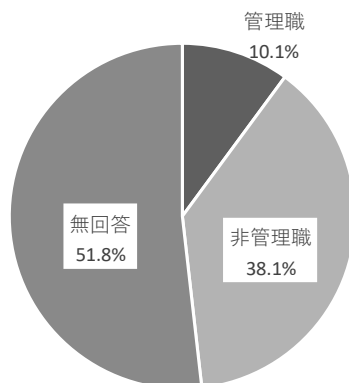
(1) そのお仕事の雇用形態を教えてください。(○は1つ)

項目	回答数	構成比
正規（フルタイム）	260	61.8%
正規（短時間）	13	3.1%
非正規（フルタイム）	33	7.8%
非正規（短時間・パートタイム、アルバイト含む）	113	26.8%
無回答	2	0.5%
合計	421	100.0%



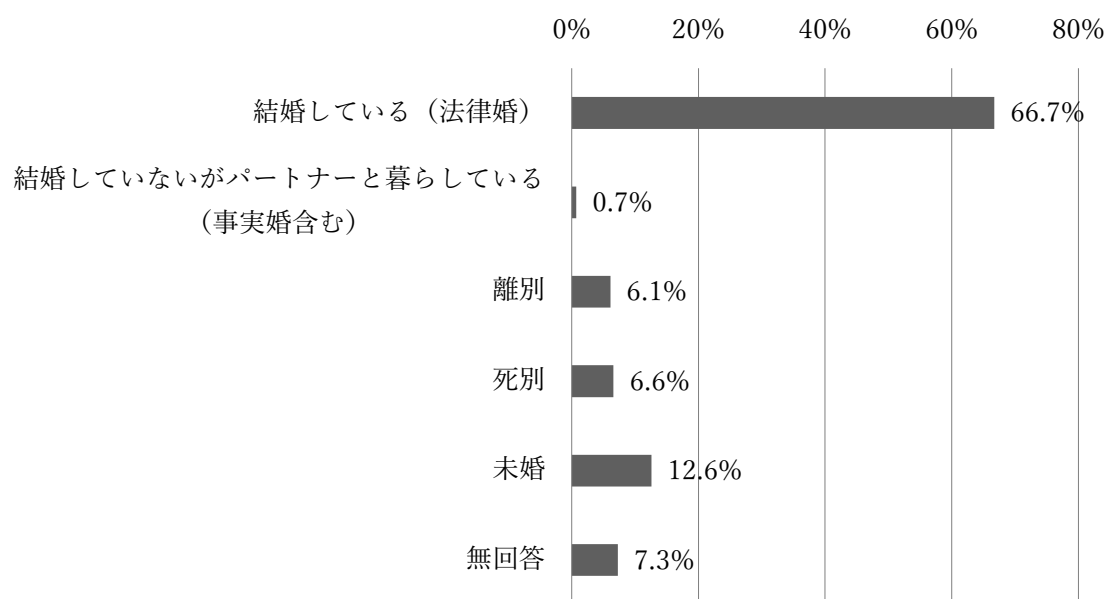
(2) あなたの職名は何ですか。(○は1つ)

項目	回答数	構成比
管理職	101	10.1%
非管理職	381	38.1%
無回答	517	51.8%
合計	999	100.0%



F4-1 あなたは結婚されていますか。

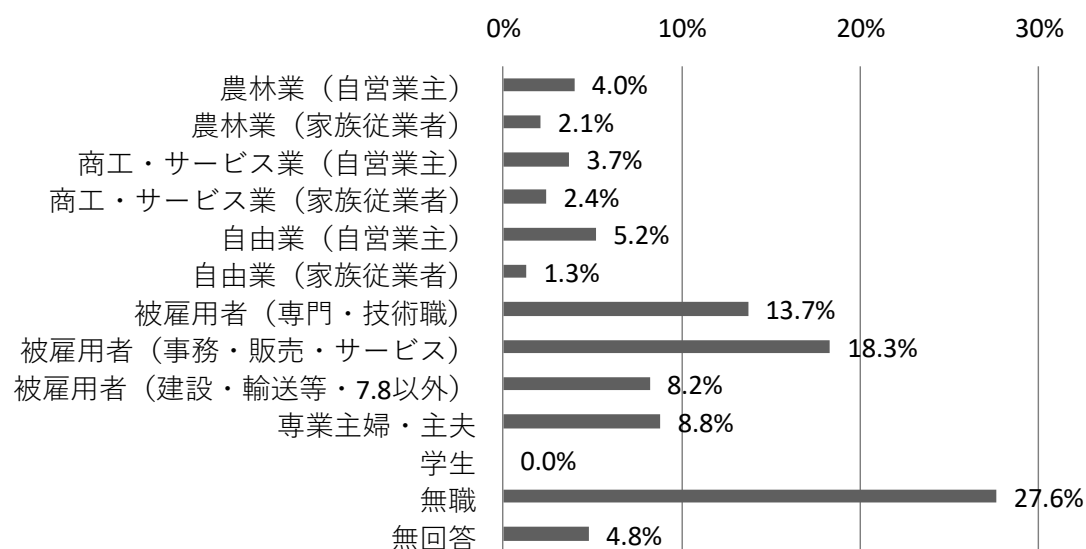
項目	回答数	構成比
結婚している（法律婚）	666	66.7%
結婚していないがパートナーと暮らしている （事実婚含む）	7	0.7%
離別	61	6.1%
死別	66	6.6%
未婚	126	12.6%
無回答	73	7.3%
合計	999	100.0%





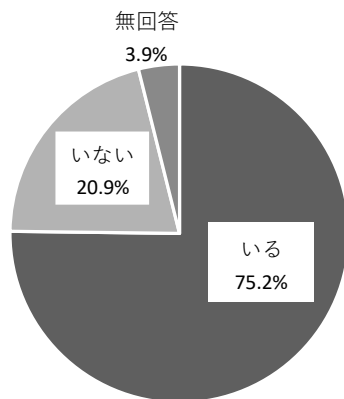
F 4-2 上記F 4-1で、1、2とお答えいただいた方にお伺いします。あなたの配偶者又はパートナーの方の職業はどのような内容ですか。(○は1つ)(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを一つ)

項目	回答数	構成比
農林業(自営業主)	27	4.0%
農林業(家族従業者)	14	2.1%
商工・サービス業(自営業主)	25	3.7%
商工・サービス業(家族従業者)	16	2.4%
自由業(自営業主)	35	5.2%
自由業(家族従業者)	9	1.3%
被雇用者(専門・技術職)	92	13.7%
被雇用者(事務・販売・サービス)	123	18.3%
被雇用者(建設・輸送等・7.8以外)	55	8.2%
専業主婦・主夫	59	8.8%
学生	0	0.0%
無職	186	27.6%
無回答	32	4.8%
合計	673	100.0%



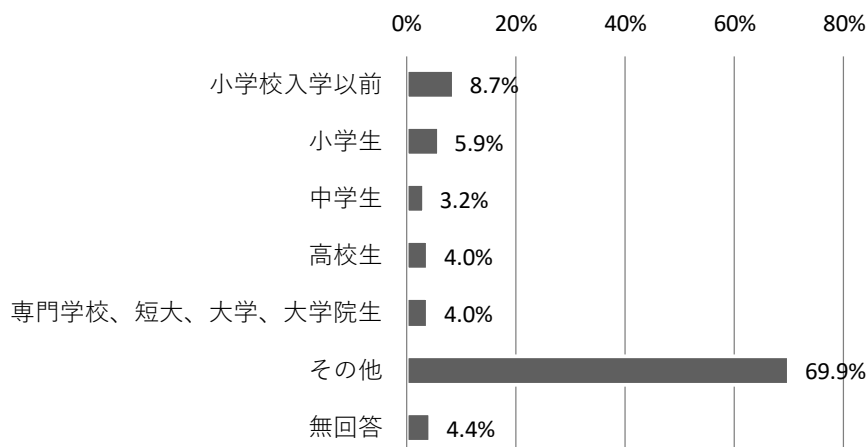
F 5-1 あなたにはお子さんがいますか。

項目	回答数	構成比
いる	751	75.2%
いない	209	20.9%
無回答	39	3.9%
合計	999	100.0%



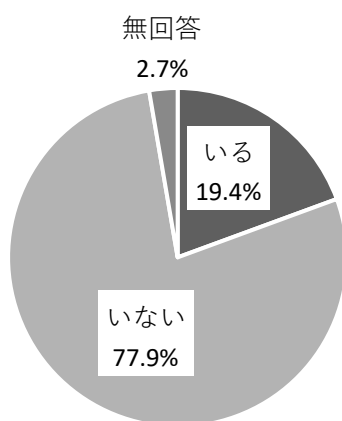
F 5-2 F 5-1 で、1の「いる」にお答えいただいた方にお伺いします。一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。(○は1つ)

項目	回答	構成比
小学校入学以前	65	8.7%
小学生	44	5.9%
中学生	24	3.2%
高校生	30	4.0%
専門学校、短大、大学、大学院生	30	4.0%
その他	525	69.9%
無回答	33	4.4%
合計	751	100.0%



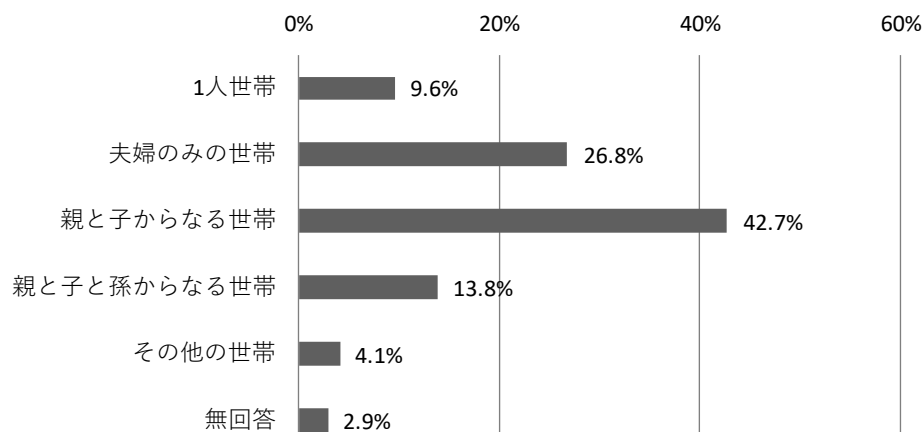
F 6 あなたには、現在介護を必要とするご家族はいますか。  
同居の有無に関わりなくお答えください。

項目	回答数	構成比
いる	194	19.4%
いない	778	77.9%
無回答	27	2.7%
合計	999	100.0%



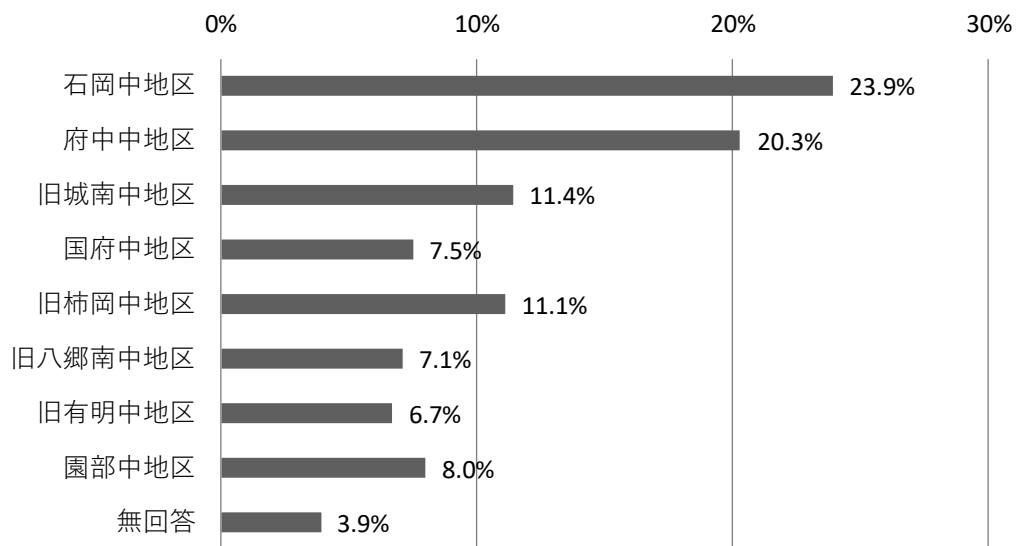
F 7 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。

カテゴリ	回答数	構成比
1人世帯	96	9.6%
夫婦のみの世帯	268	26.8%
親と子からなる世帯	427	42.7%
親と子と孫からなる世帯	138	13.8%
その他の世帯	41	4.1%
無回答	29	2.9%
合計	999	100.0%



F 8 あなたが現在お住まいの地区はどの中学校区になりますか。

項目	回答数	構成比
石岡中地区	239	23.9%
府中中地区	203	20.3%
旧城南中地区	114	11.4%
国府中地区	75	7.5%
旧柿岡中地区	111	11.1%
旧八郷南中地区	71	7.1%
旧有明中地区	67	6.7%
園部中地区	80	8.0%
無回答	39	3.9%
合計	999	100.0%



## 1【男女平等に関する意識について】

問1 あなたは、次に挙げる8つの分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)

### (1) 家庭生活（家事・育児など）

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く39.9%となっており、「男性の方が優遇されている」と合わせると、63.9%となっています。

### (2) 職場

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く42.4%となっており、「男性の方が優遇されている」と合わせると、61.5%となっています。

### (3) 学校教育の場

「平等である」が最も多く51.7%となっています。

### (4) 政治の場

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く38.1%となっており、「男性の方が優遇されている」と合わせると、75.2%となっています。

### (5) 町内会、自治体などの住民組織

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く37.0%となっており、「男性の方が優遇されている」と合わせると、59.2%となっています。

### (6) 地域活動

「平等である」が最も多く33.7%、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.3%となっています。

### (7) 社会通念、慣習、しきたりなど

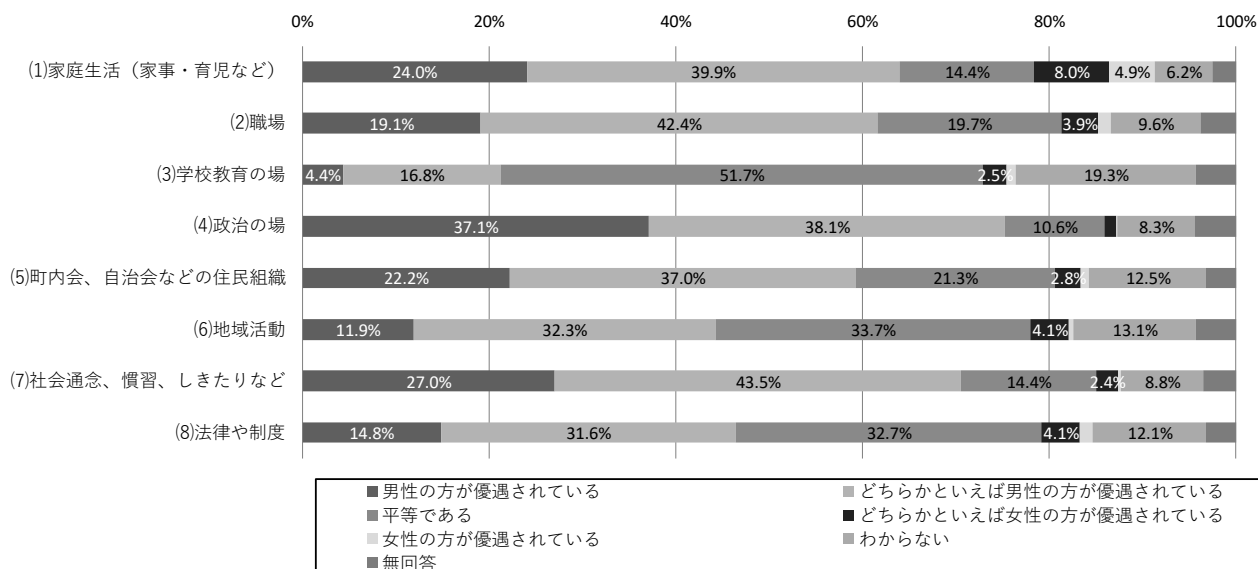
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く43.5%となっており、「男性の方が優遇されている」と合わせると、70.5%となっています。

### (8) 法律や制度

「平等である」が最も多く32.7%、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が31.6%となっています。

項目	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	合計
(1)家庭生活（家事・育児など）	240	399	144	80	49	62	25	999
(2)職場	191	424	197	39	14	96	38	999
(3)学校教育の場	44	168	516	25	10	193	43	999
(4)政治の場	371	381	106	13	1	83	44	999
(5)町内会、自治会などの住民組織	222	370	213	28	9	125	32	999
(6)地域活動	119	323	337	41	5	131	43	999
(7)社会通念、慣習、しきりなど	270	435	144	24	3	88	35	999
(8)法律や制度	148	316	327	41	14	121	32	999

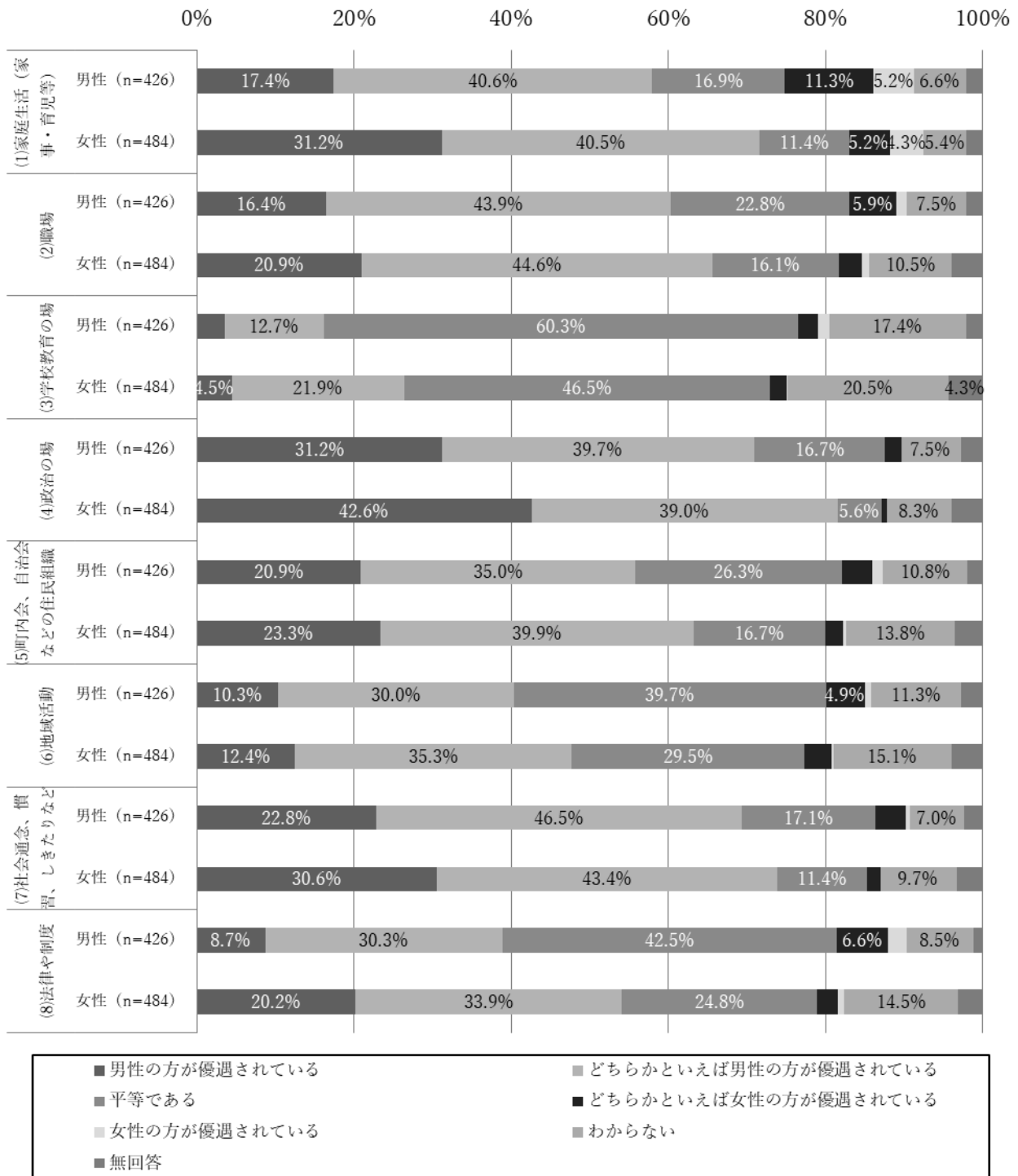
項目（構成比）	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	合計
(1)家庭生活（家事・育児など）	24.0%	39.9%	14.4%	8.0%	4.9%	6.2%	2.5%	100.0%
(2)職場	19.1%	42.4%	19.7%	3.9%	1.4%	9.6%	3.8%	100.0%
(3)学校教育の場	4.4%	16.8%	51.7%	2.5%	1.0%	19.3%	4.3%	100.0%
(4)政治の場	37.1%	38.1%	10.6%	1.3%	0.1%	8.3%	4.4%	100.0%
(5)町内会、自治会などの住民組織	22.2%	37.0%	21.3%	2.8%	0.9%	12.5%	3.2%	100.0%
(6)地域活動	11.9%	32.3%	33.7%	4.1%	0.5%	13.1%	4.3%	100.0%
(7)社会通念、慣習、しきりなど	27.0%	43.5%	14.4%	2.4%	0.3%	8.8%	3.5%	100.0%
(8)法律や制度	14.8%	31.6%	32.7%	4.1%	1.4%	12.1%	3.2%	100.0%



【性別クロス集計】

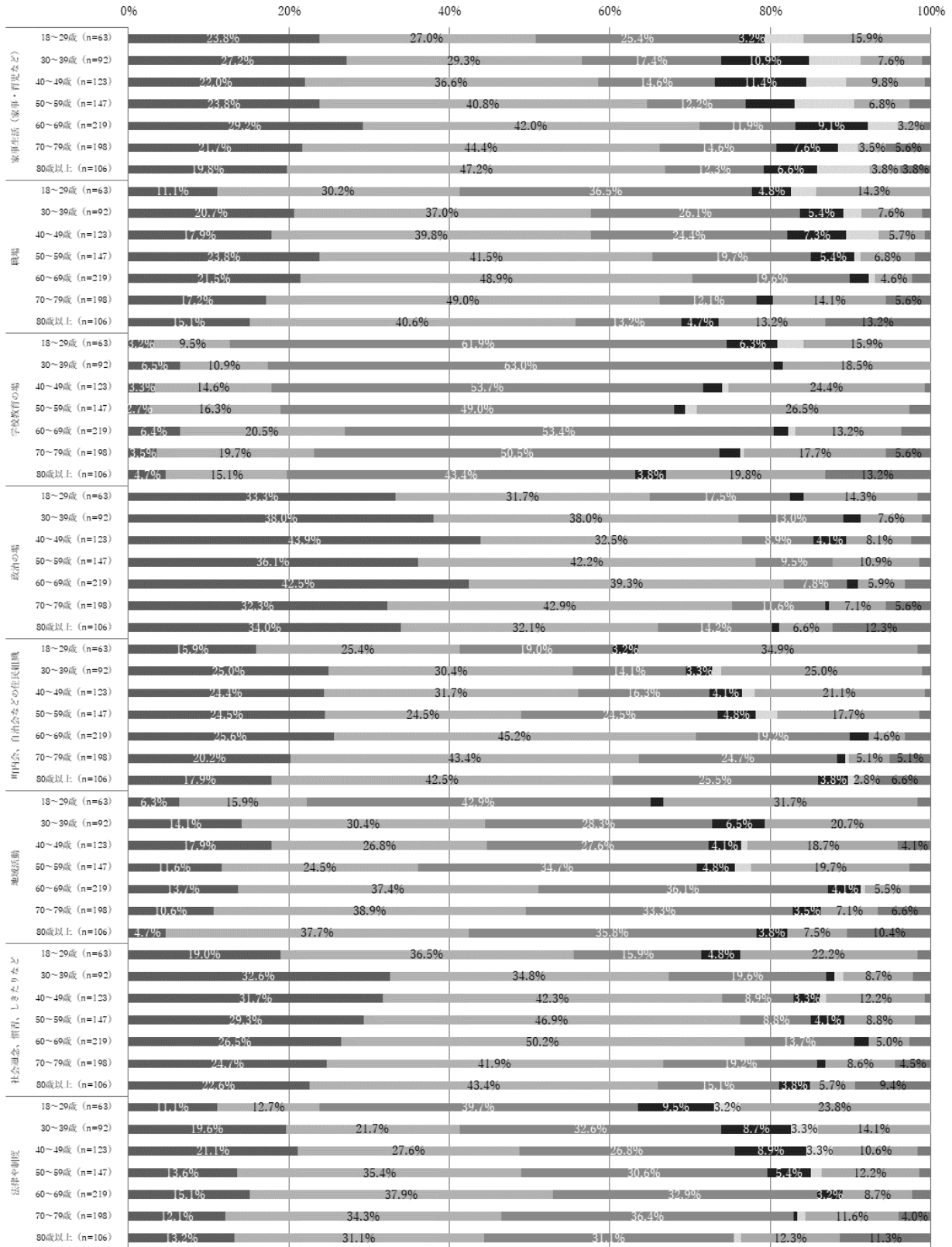
性別で比較すると、全ての項目において、男性よりも女性の方が「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっています。

特に、(1) 家庭生活（家事・育児など）では、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性では17.4%であるのに対し、女性では31.2%となっています。また、(8) 法律や制度では、男性が8.7%であるのに対し、女性は20.2%となっています。



## 【年代クロス集計】

年代で比較すると、ほとんどの項目で、高齢の人よりも若い人の方が「平等である」と回答した割合が高くなっています。

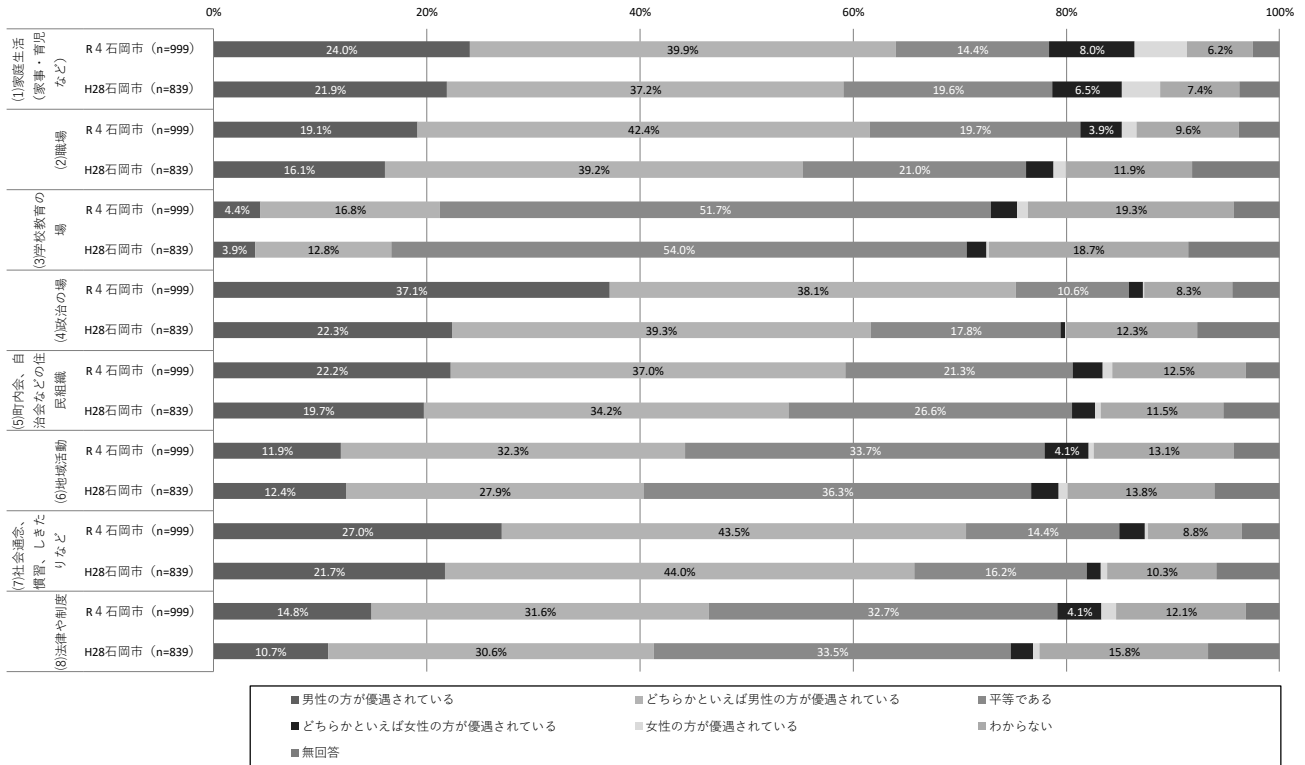


■ 男性の方が優遇されている      ■ どちらかといえば男性の方が優遇されている      ■ 平等である  
 ■ どちらかといえば女性の方が優遇されている      ■ 女性の方が優遇されている      ■ わからない  
 ■ 無回答



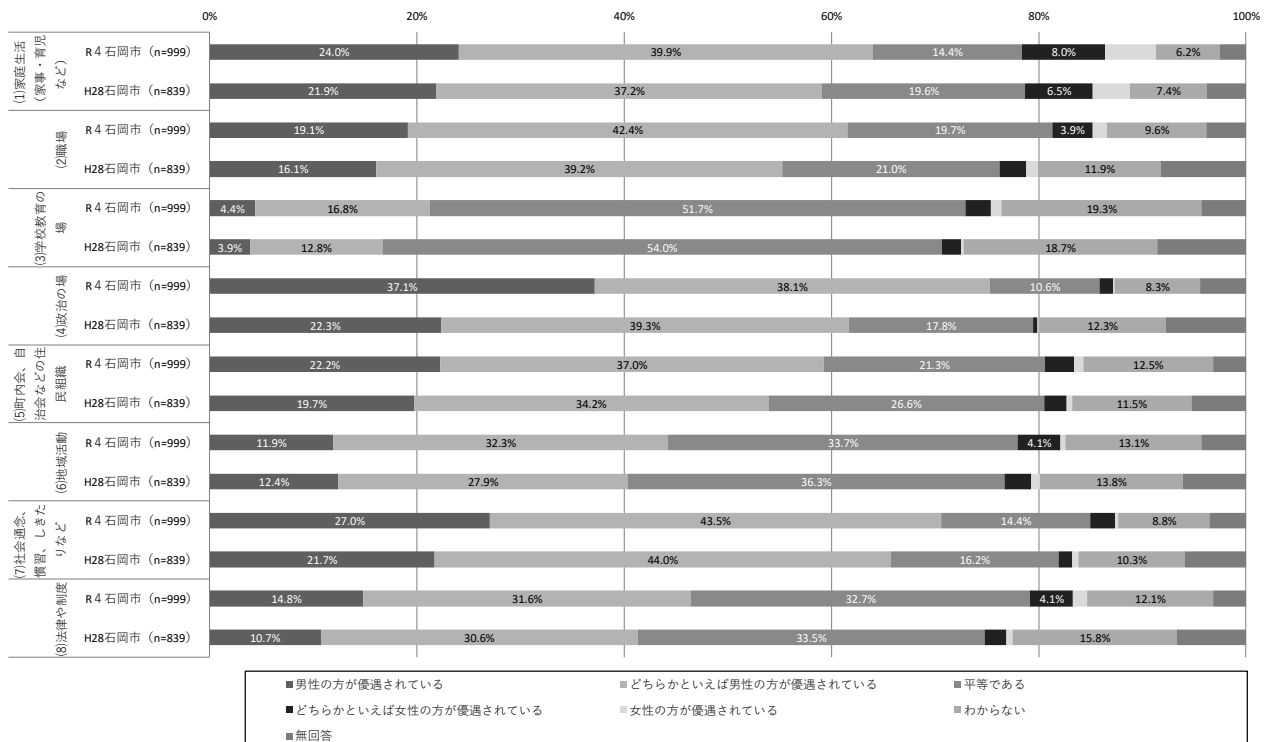
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、ほとんどの項目で、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が、前回よりも増加しています。



### 【茨城県クロス集計】

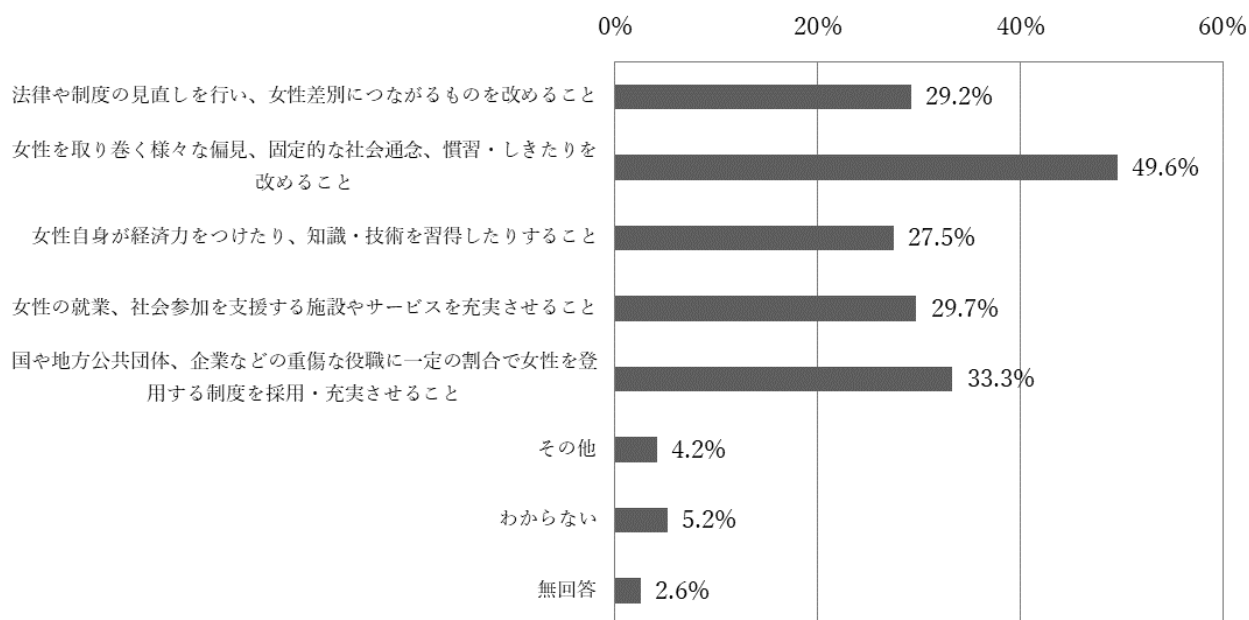
茨城県調査（H27）と比較すると、ほとんどの項目で、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が高くなっています。



問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要だと思うことは何でしょうか。(○は2つまで)

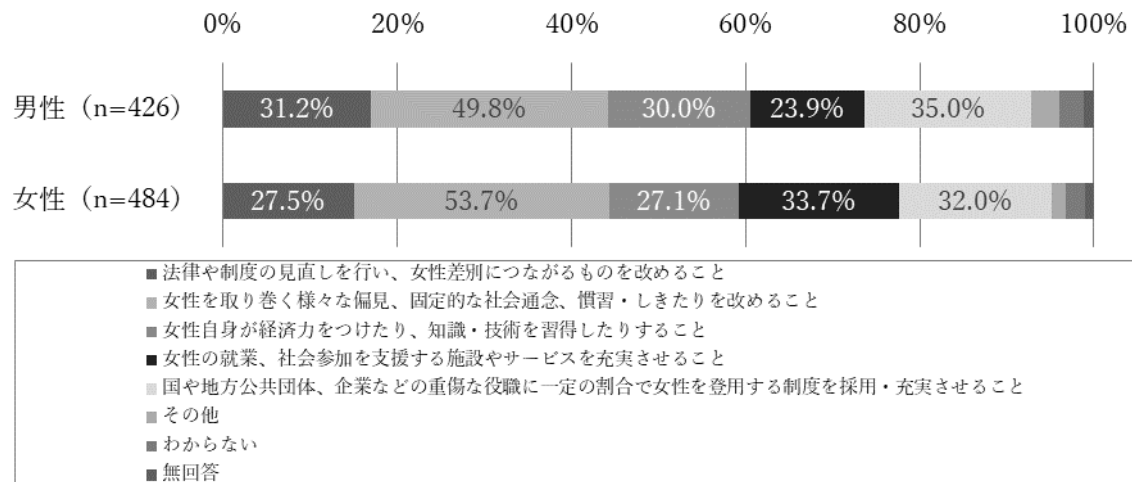
「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く49.6%、次いで「国や地方公共団体、企業などの重傷な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること」が33.3%となっています。

項目	回答数	構成比
法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	292	29.2%
女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	496	49.6%
女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりすること	275	27.5%
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させること	297	29.7%
国や地方公共団体、企業などの重傷な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること	333	33.3%
その他	42	4.2%
わからない	52	5.2%
無回答	26	2.6%
合計	999	



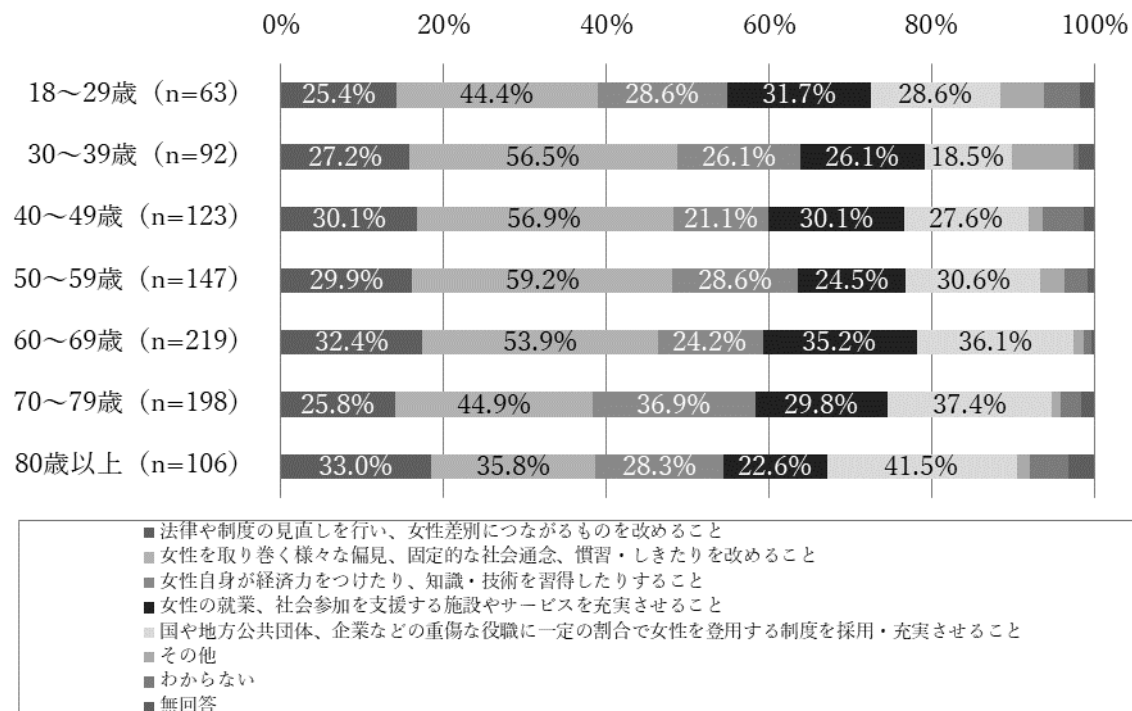
### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男性では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く 49.8%、次いで「国や地方公共団体、企業などの重傷な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること」が 35.0% となっています。女性では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く 53.7%、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させること」が 33.7% となっています。



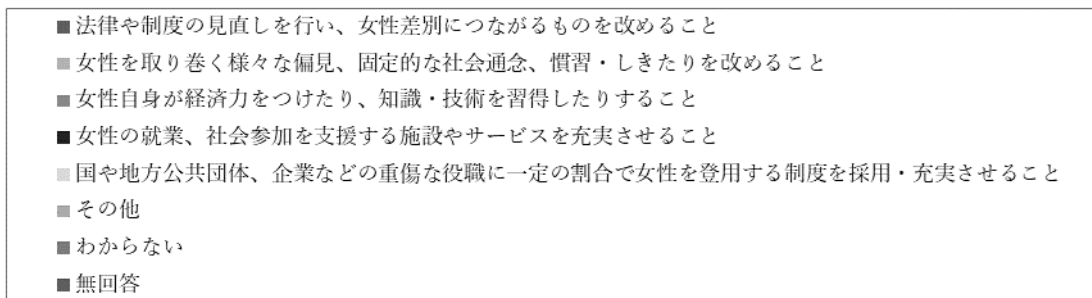
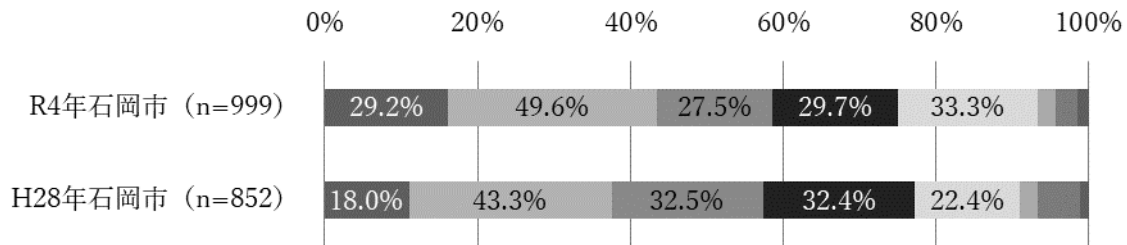
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、18～79歳未満の各年代では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と回答した割合が最も多いのに対し、80歳以上では「国や地方公共団体、企業などの重傷な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること」と回答した割合が最も多くなっています。



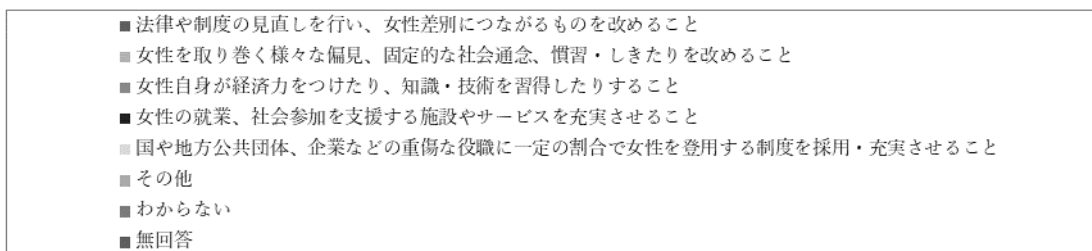
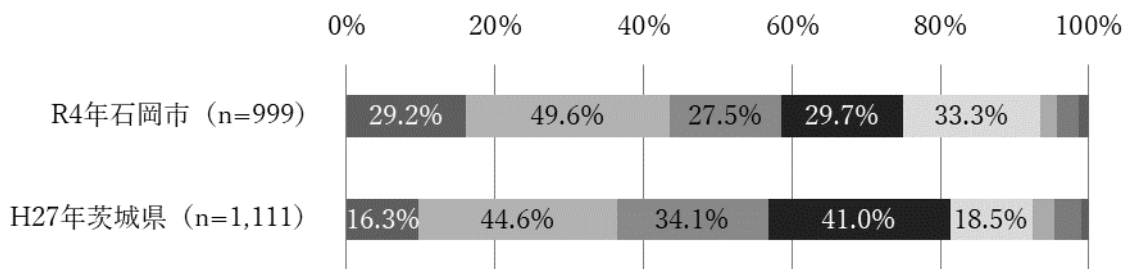
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が11.2ポイント、「国や地方公共団体、企業などの重傷な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること」が10.9ポイント高くなっています。



### 【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、「法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が12.9ポイント、「国や地方公共団体、企業などの重傷な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させること」が14.8ポイント高くなっています。



## 2【男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担などについて】

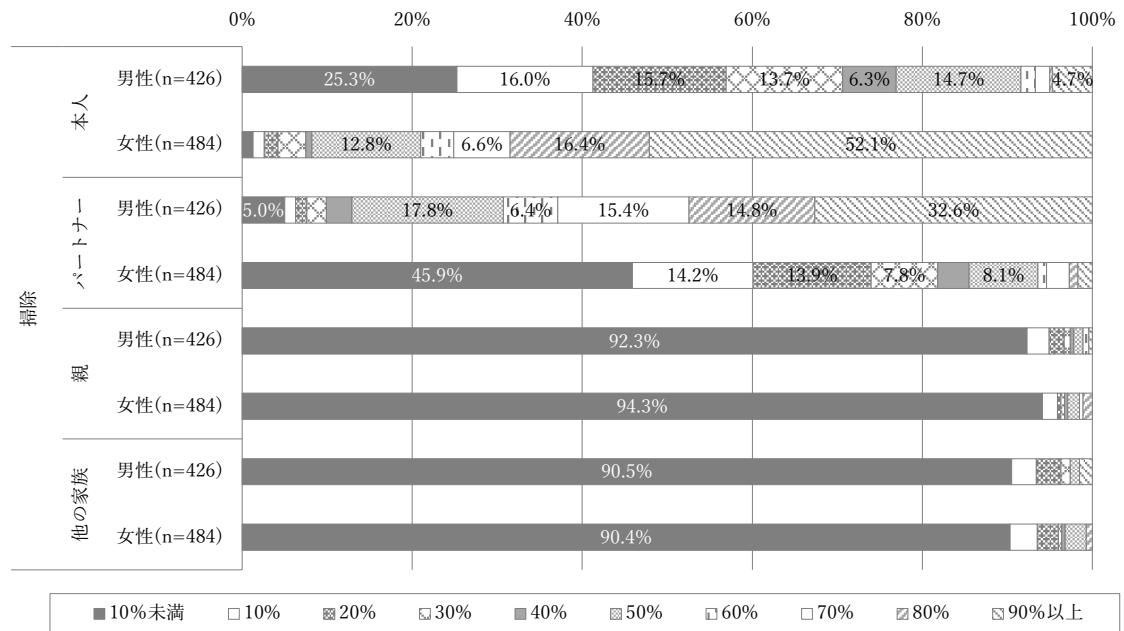
問 3-1 次の家事等を誰が分担していますか。割合を記入してください。

※F4-1 で 1.結婚している(法律婚) または 2.結婚していないがパートナーと暮らしている(事実婚含む) を選択している方を抽出

### 【掃除】

52.1%の女性が、「本人が掃除の 90%以上を行っている」と回答しています。

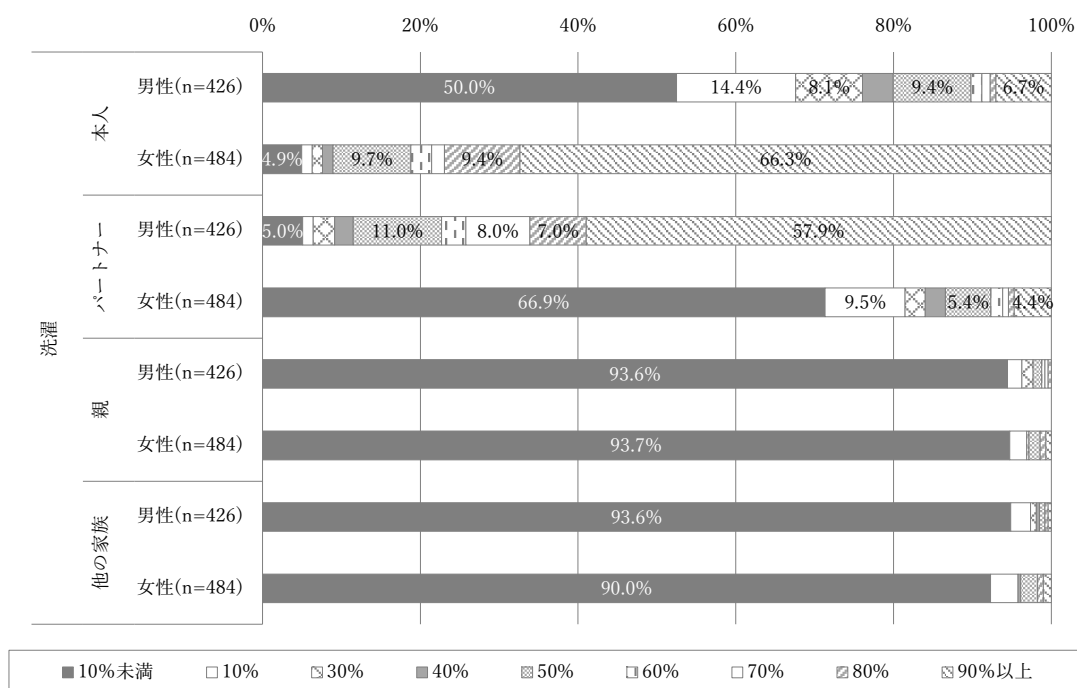
家事	回答者	性別	10%未満	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%以上	
			掃除	本人	男性(n=426)	25.3%	16.0%	15.7%	13.7%	6.3%	14.7%	1.7%	1.7%
女性(n=484)	1.3%	1.3%			1.6%	3.3%	0.7%	12.8%	3.9%	6.6%	16.4%	52.1%	
パートナー	男性(n=426)	5.0%		1.3%	1.3%	2.3%	3.0%	17.8%	6.4%	15.4%	14.8%	32.6%	
	女性(n=484)	45.9%		14.2%	13.9%	7.8%	3.7%	8.1%	1.0%	2.7%	1.0%	1.7%	
親	男性(n=426)	92.3%		2.6%	1.8%	0.7%	0.4%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	
	女性(n=484)	94.3%		1.8%	0.4%	0.4%	0.4%	1.4%	0.0%	0.4%	1.1%	0.0%	
他の家族	男性(n=426)	90.5%		2.9%	2.9%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
	女性(n=484)	90.4%		3.2%	2.5%	0.4%	0.4%	2.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	



## 【洗濯】

66.3%の女性が、「本人が洗濯の90%以上を行っている」と回答しています。

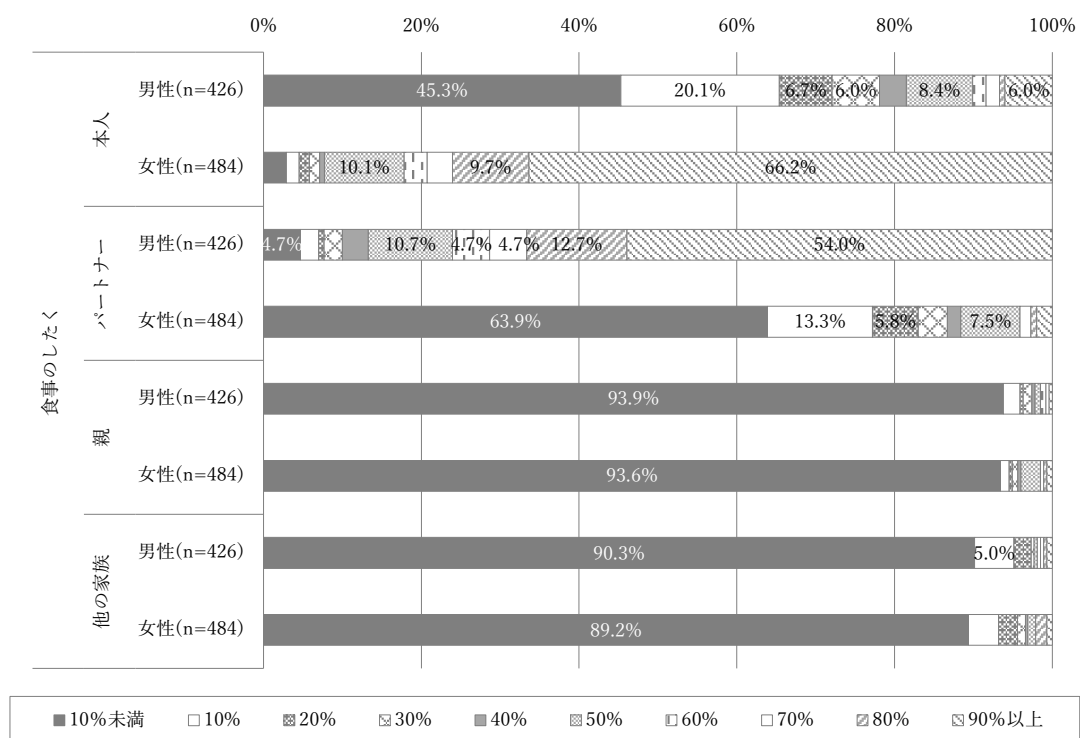
家事	回答者	性別	10%未満	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%以上
			洗濯	本人	男性(n=426)	50.0%	14.4%	4.7%	8.1%	3.7%	9.4%	1.3%
女性(n=484)	4.9%	1.3%			1.6%	1.3%	1.3%	9.7%	2.6%	1.6%	9.4%	66.3%
パートナー	男性(n=426)	5.0%		1.3%	1.7%	2.7%	2.3%	11.0%	3.0%	8.0%	7.0%	57.9%
	女性(n=484)	66.9%		9.5%	6.4%	2.4%	2.4%	5.4%	1.4%	0.7%	0.7%	4.4%
親	男性(n=426)	93.6%		1.8%	1.1%	1.4%	0.0%	1.1%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%
	女性(n=484)	93.7%		2.1%	1.0%	0.3%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%
他の家族	男性(n=426)	93.6%		2.5%	1.4%	0.7%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%
	女性(n=484)	90.0%		3.4%	2.4%	0.0%	0.3%	2.1%	0.0%	0.0%	0.7%	1.0%



【食事のしたく】

66.2%の女性が「本人が食事のしたくの90%以上を行っている」と回答しています。

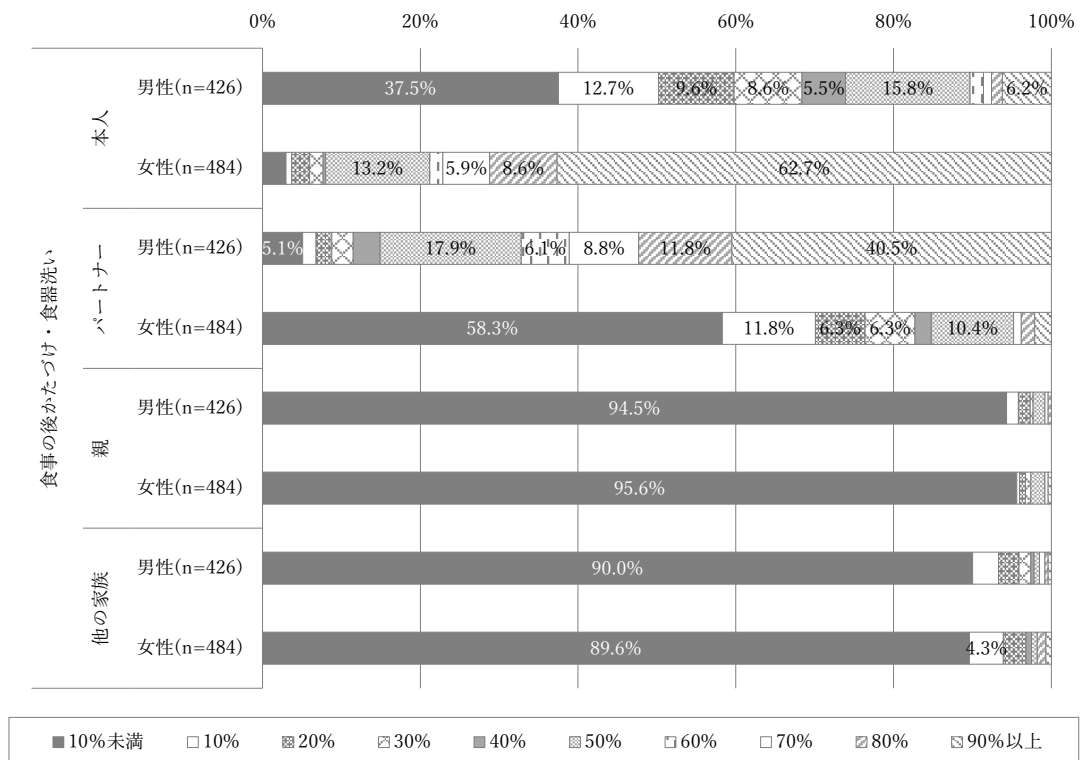
家事	回答者	性別	10%未満	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%以上
			食事のしたく	本人	男性(n=426)	45.3%	20.1%	6.7%	6.0%	3.4%	8.4%	1.7%
女性(n=484)	2.9%	1.6%			1.3%	1.3%	0.6%	10.1%	2.9%	3.2%	9.7%	66.2%
パートナー	男性(n=426)	4.7%		2.3%	0.7%	2.3%	3.3%	10.7%	4.7%	4.7%	12.7%	54.0%
	女性(n=484)	63.9%		13.3%	5.8%	3.7%	1.7%	7.5%	0.0%	1.4%	0.7%	2.0%
親	男性(n=426)	93.9%		2.1%	0.4%	1.1%	0.4%	0.7%	0.7%	0.4%	0.0%	0.4%
	女性(n=484)	93.6%		1.1%	0.4%	0.7%	0.4%	2.5%	0.0%	0.4%	0.4%	0.7%
他の家族	男性(n=426)	90.3%	5.0%	2.2%	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.7%	
	女性(n=484)	89.2%	3.8%	2.4%	1.0%	0.3%	1.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.7%	



【食事の後かたづけ・食器洗い】

62.7%の女性が「本人が食事の後かたづけ・食器洗いの90%以上を行っている」と回答しています。

家事	回答者	性別	10%未満	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%以上
食事の後かたづけ・食器洗い	本人	男性(n=426)	37.5%	12.7%	9.6%	8.6%	5.5%	15.8%	1.7%	1.0%	1.4%	6.2%
		女性(n=484)	3.0%	0.7%	2.3%	1.7%	0.3%	13.2%	1.7%	5.9%	8.6%	62.7%
	パートナー	男性(n=426)	5.1%	1.7%	2.0%	2.7%	3.4%	17.9%	6.1%	8.8%	11.8%	40.5%
		女性(n=484)	58.3%	11.8%	6.3%	6.3%	2.1%	10.4%	0.0%	1.0%	1.7%	2.1%
	親	男性(n=426)	94.5%	1.5%	1.5%	0.4%	0.0%	1.5%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%
		女性(n=484)	95.6%	0.4%	0.7%	0.7%	0.0%	1.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%
	他の家族	男性(n=426)	90.0%	3.3%	2.6%	1.5%	0.4%	0.7%	0.0%	0.7%	0.4%	0.4%
		女性(n=484)	89.6%	4.3%	2.9%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%

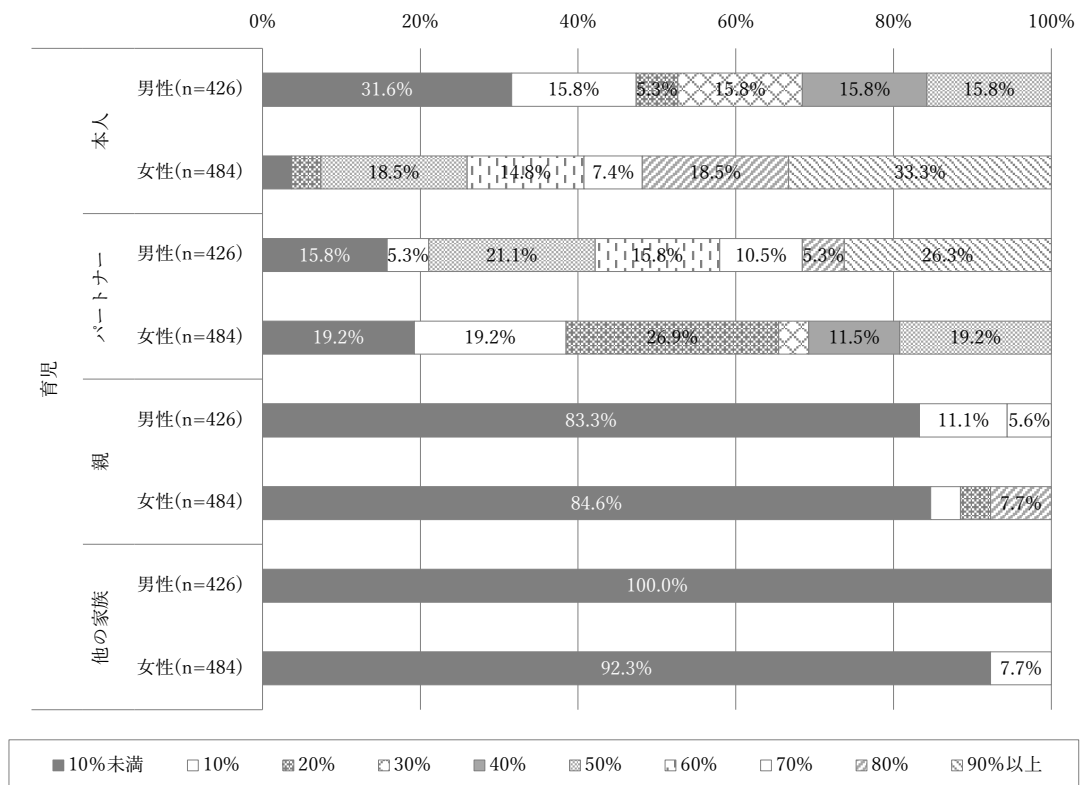




【育児】

女性の 33.3%が「本人が育児の 90%以上を行っている」と回答しています。

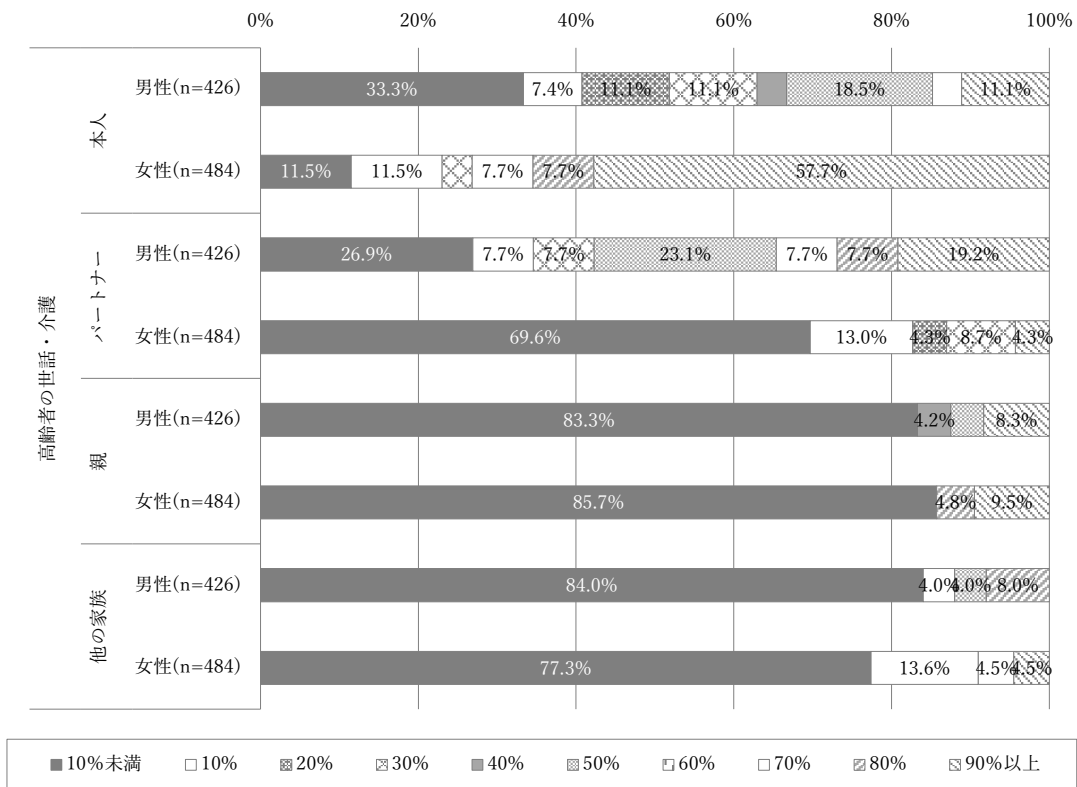
家事	回答者	性別	10%未満	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%以上
育児	本人	男性(n=426)	31.6%	15.8%	5.3%	15.8%	15.8%	15.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		女性(n=484)	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	18.5%	14.8%	7.4%	18.5%	33.3%
	パートナー	男性(n=426)	15.8%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	21.1%	15.8%	10.5%	5.3%	26.3%
		女性(n=484)	19.2%	19.2%	26.9%	3.8%	11.5%	19.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	親	男性(n=426)	83.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%
		女性(n=484)	84.6%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%
	他の家族	男性(n=426)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		女性(n=484)	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



【高齢者の世話・介護】

女性の 57.7%が「本人が育児の 90%以上を行っている」と回答しています。

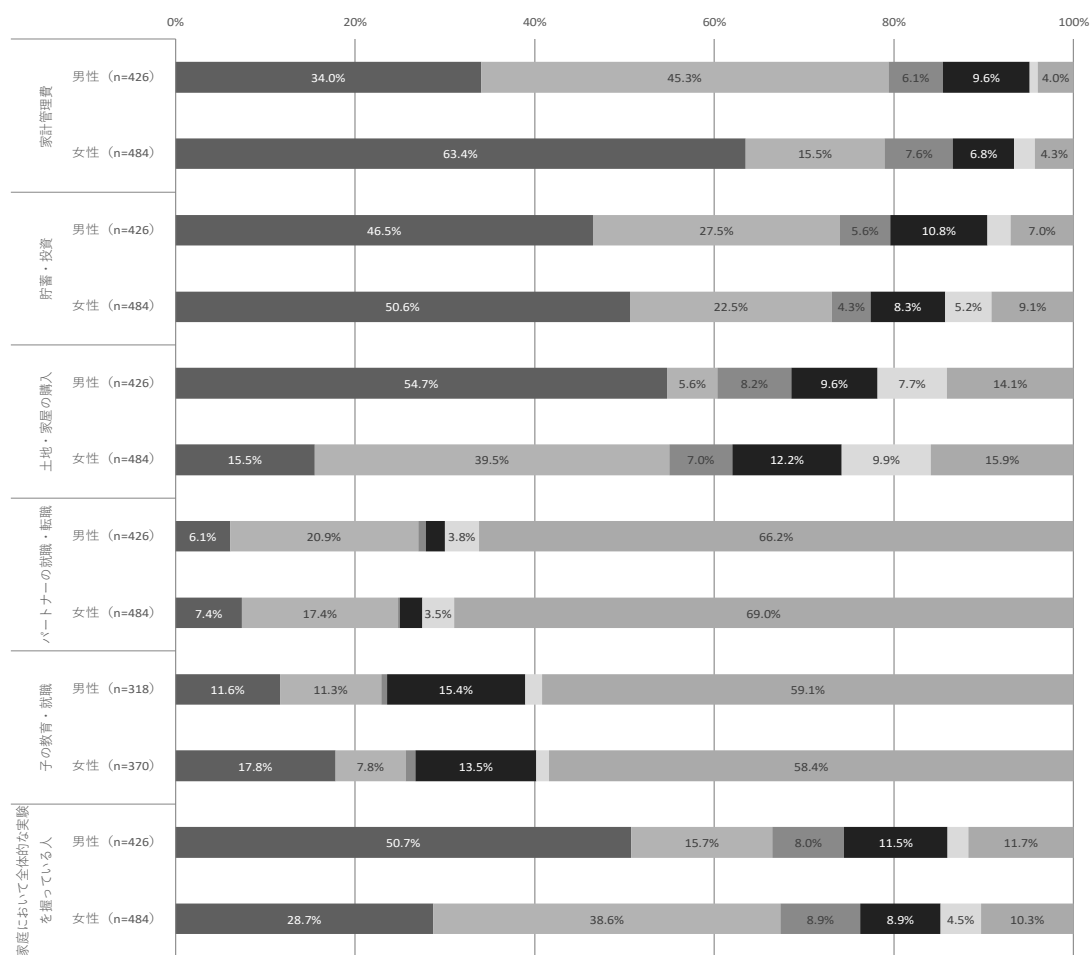
家事	回答者	性別	10%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
			未満									以上
高齢者の世話・介護	本人	男性(n=426)	33.3%	7.4%	11.1%	11.1%	3.7%	18.5%	0.0%	3.7%	0.0%	11.1%
		女性(n=484)	11.5%	11.5%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	57.7%
	パートナー	男性(n=426)	26.9%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	23.1%	0.0%	7.7%	7.7%	19.2%
		女性(n=484)	69.6%	13.0%	4.3%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%
	親	男性(n=426)	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
		女性(n=484)	85.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	9.5%
他の家族	男性(n=426)	84.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	
	女性(n=484)	77.3%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	4.5%	



問3-2 家計費の管理等について最終的に決定しているのはどなたですか。

「家計管理費」「貯蓄・投資」「パートナーの就職・転職」「子の教育・就職」の項目では、男性よりも女性の方が「本人」が決定していると回答した割合が高くなっています。一方、「土地・家屋の購入」「家庭において全体的な実権を握っている人」の項目では、女性よりも男性の方が「本人」が決定していると回答した割合が高くなっています。

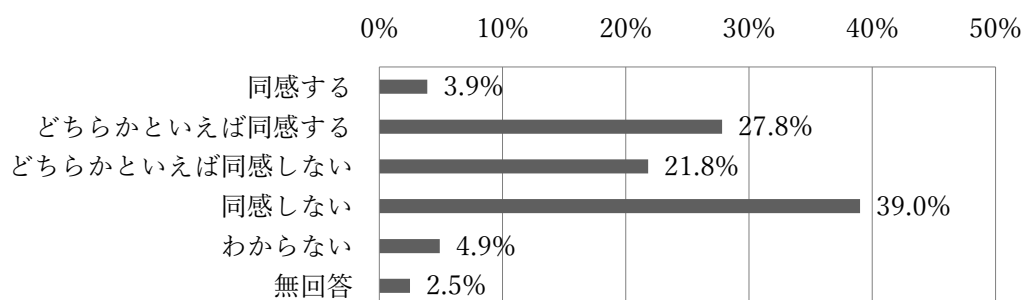
項目	性別	本人	パートナー	他の家族	家族全員	わからない	無回答
家計管理費	男性(n=426)	34.0%	45.3%	6.1%	9.6%	0.9%	4.0%
	女性(n=484)	63.4%	15.5%	7.6%	6.8%	2.3%	4.3%
貯蓄・投資	男性(n=426)	46.5%	27.5%	5.6%	10.8%	2.6%	7.0%
	女性(n=484)	50.6%	22.5%	4.3%	8.3%	5.2%	9.1%
土地・家屋の購入	男性(n=426)	54.7%	5.6%	8.2%	9.6%	7.7%	14.1%
	女性(n=484)	15.5%	39.5%	7.0%	12.2%	9.9%	15.9%
パートナーの就職・転職	男性(n=426)	6.1%	20.9%	0.9%	2.1%	3.8%	66.2%
	女性(n=484)	7.4%	17.4%	0.2%	2.5%	3.5%	69.0%
子の教育・就職	男性(n=318)	11.6%	11.3%	0.6%	15.4%	1.9%	59.1%
	女性(n=370)	17.8%	7.8%	1.1%	13.5%	1.4%	58.4%
家庭において全体的な 実権を握っている人	男性(n=426)	50.7%	15.7%	8.0%	11.5%	2.3%	11.7%
	女性(n=484)	28.7%	38.6%	8.9%	8.9%	4.5%	10.3%



問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。(○は1つ)

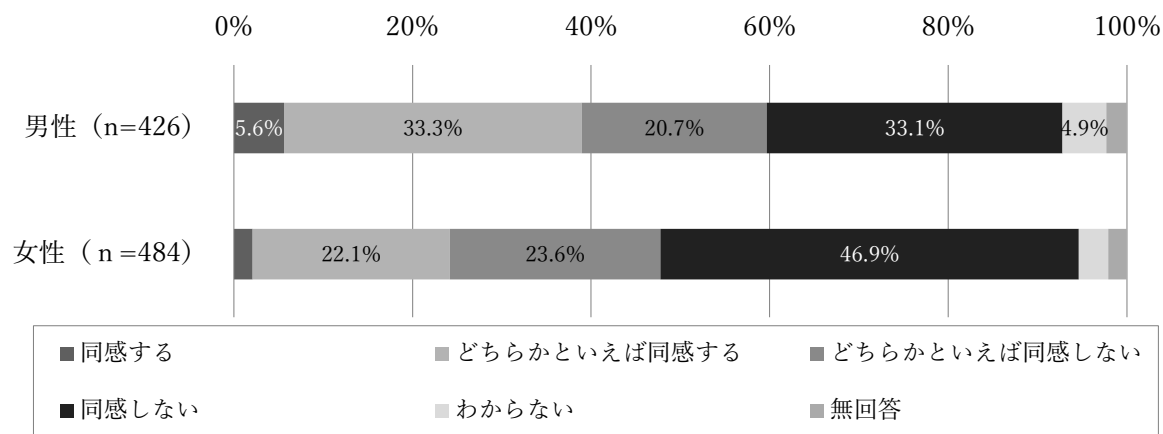
「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせると60.8%となっています。また、「どちらかといえば同感する」「同感する」を合わせると31.7%となっています。

項目	回答数	構成比
同感する	39	3.9%
どちらかといえば同感する	278	27.8%
どちらかといえば同感しない	218	21.8%
同感しない	390	39.0%
わからない	49	4.9%
無回答	25	2.5%
合計	999	100.0%



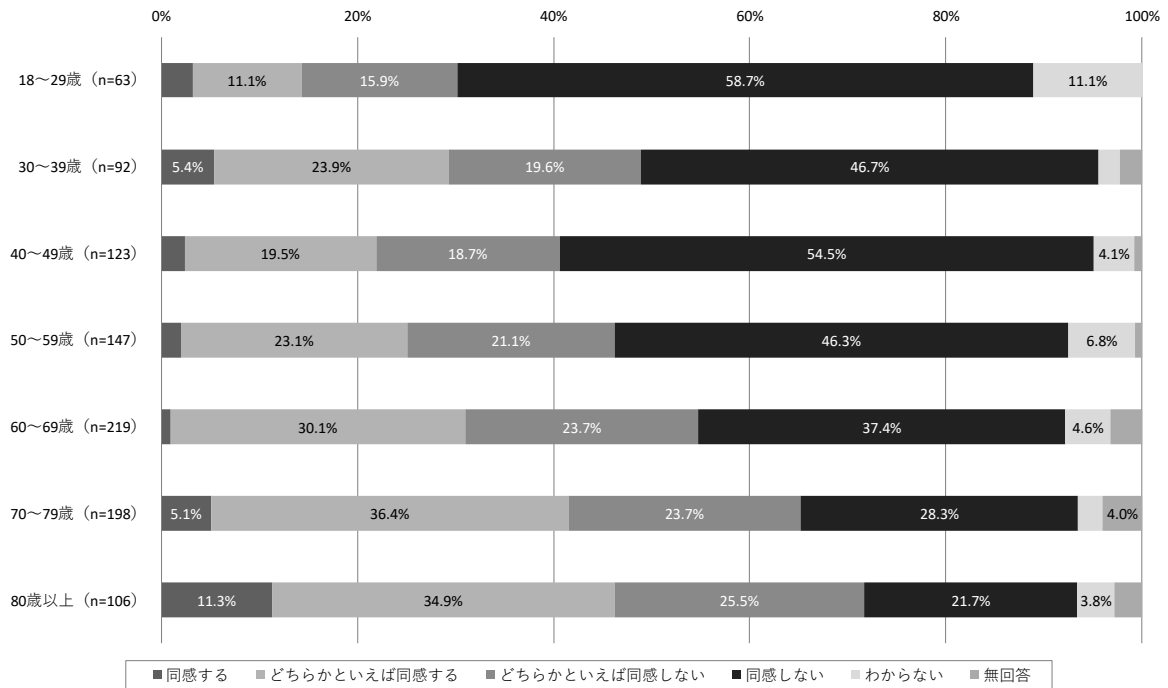
#### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」と答えた割合は、男性が53.8%であるのに対し、女性は70.5%となっています。



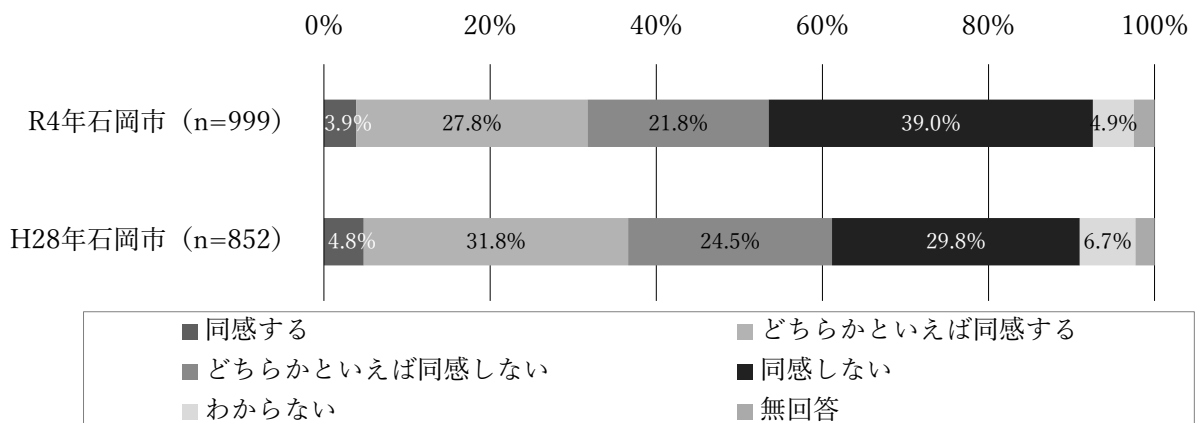
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、年齢が下がるほど「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせた割合が高くなる傾向にあります。30～39歳ではやや低くなっています。



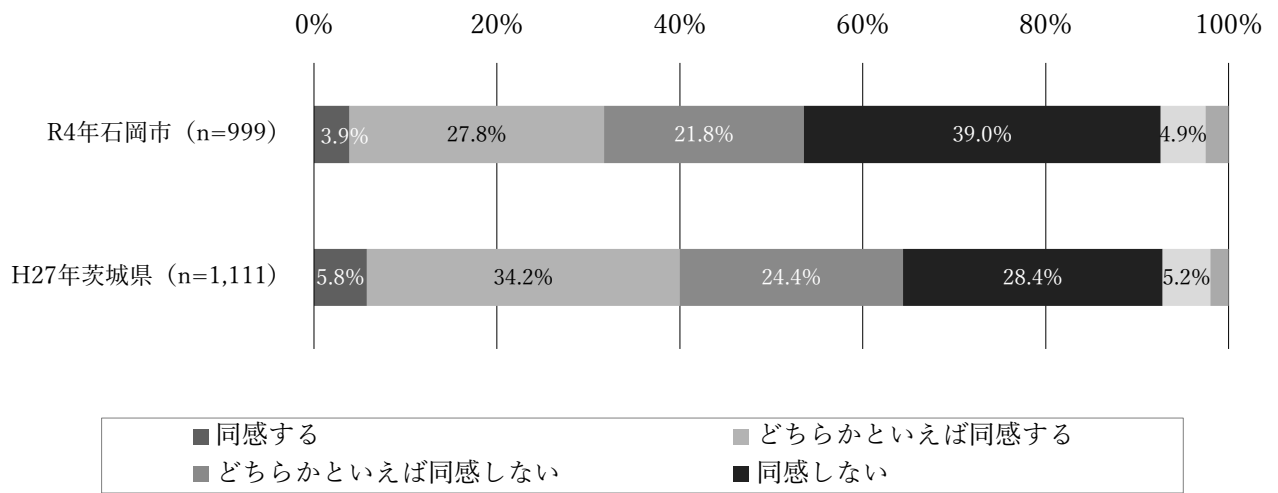
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせた割合が6.5ポイント高くなっています。



【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせた割合が8.0ポイント高くなっています。



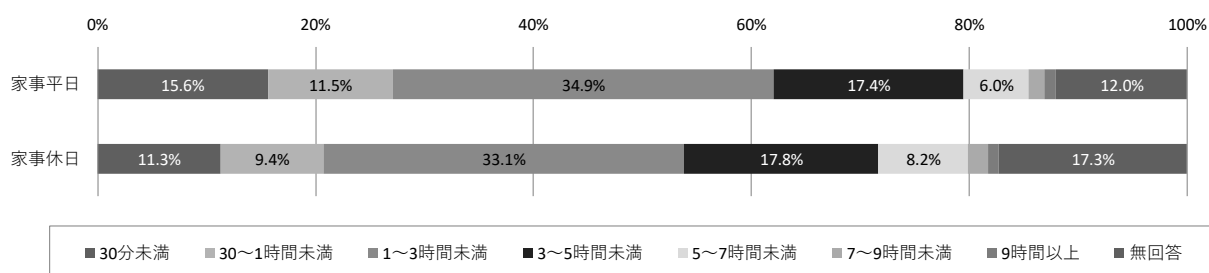
問5 次にあげるア～ウについて、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日、休日それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。エの工事については週の労働時間と片道の通勤時間をご記入ください。

### 【家事】

平日・休日ともに「1～3時間未満」が最も多くなっています。

項目	30分未満	30分～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
家事平日	156	115	349	174	60	14	11	120	999
家事休日	113	94	331	178	82	19	9	173	999

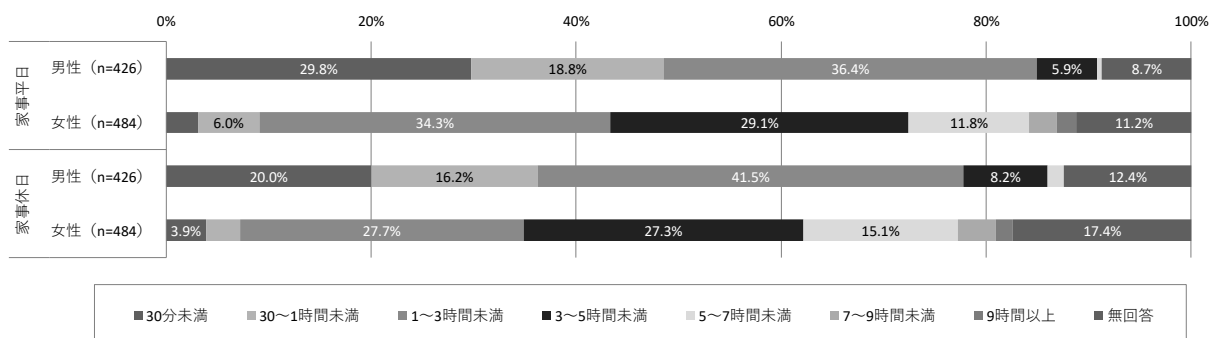
項目（構成比）	30分未満	30分～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
家事平日	15.6%	11.5%	34.9%	17.4%	6.0%	1.4%	1.1%	12.0%	100.0%
家事休日	11.3%	9.4%	33.1%	17.8%	8.2%	1.9%	0.9%	17.3%	100.0%



### 【性別クロス集計】

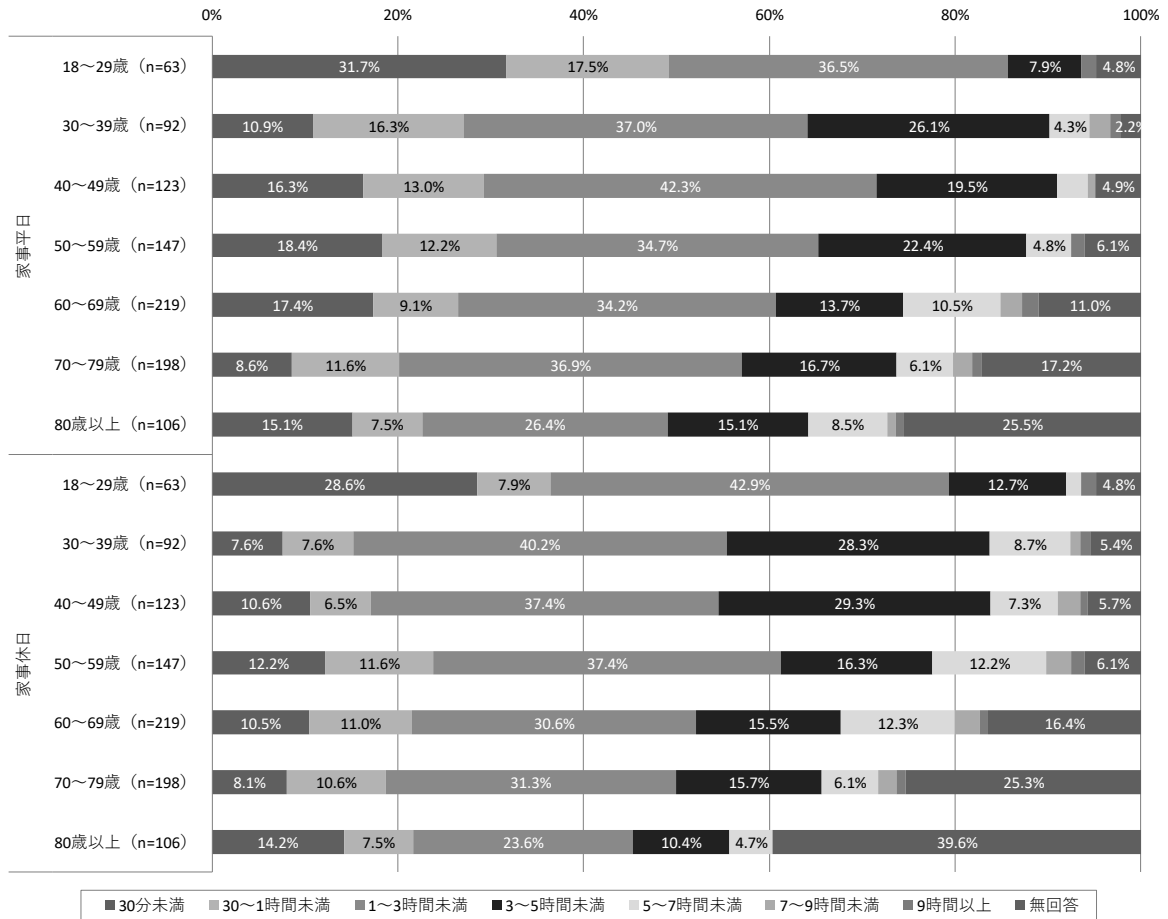
性別で比較すると、平日・休日で男女ともに「1～3時間未満」が最も多くなっています。

また、平日と休日で比較すると、女性は割合にあまり変化がありませんが、男性は休日の方が家事に割く時間が長くなっています。



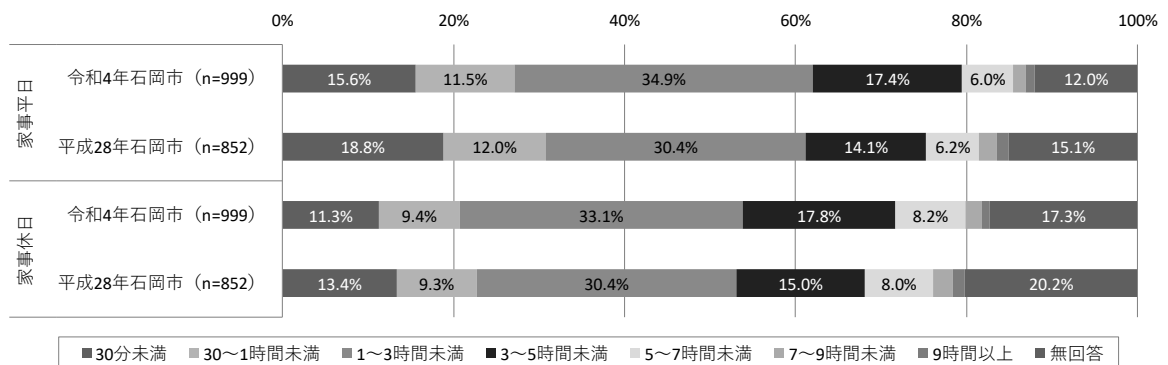
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、平日・休日ともに、すべての年代で「1～3時間未満」が最も多くなっています。



### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、平日・休日ともに家事の時間が長くなっています。

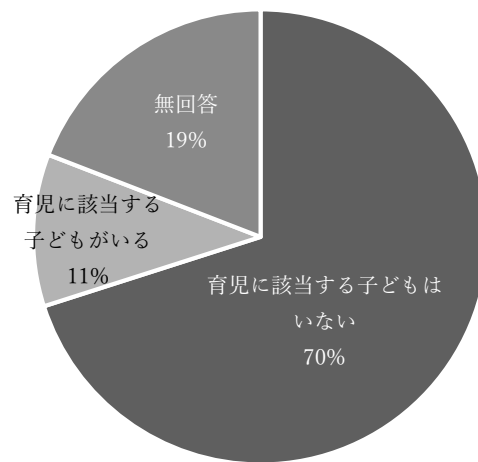




【育児】

「育児に該当する子どもはいない」が70.1%、「育児に該当する子どもがいる」が10.8%となっています。

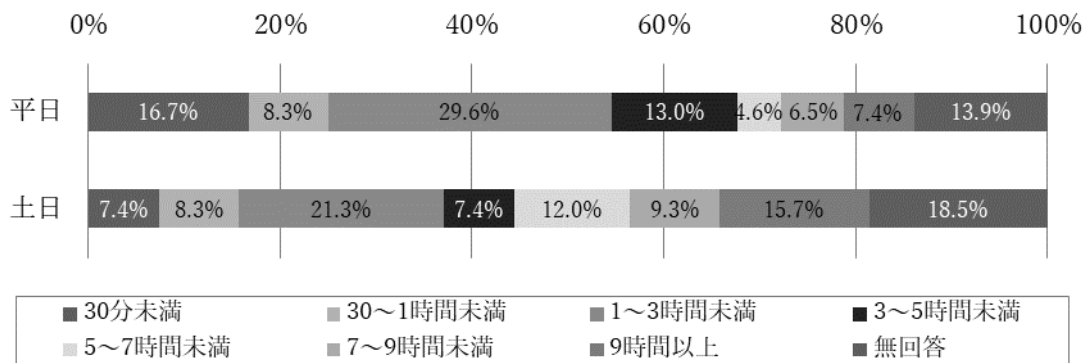
項目	回答数	構成比
育児に該当する子どもはいない	700	70.1%
育児に該当する子どもがいる	108	10.8%
無回答	191	19.1%
合計	999	100.0%



平日・休日ともに「1～3時間未満」が最も多くなっています。

項目	30分未満	30分～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
平日	18	9	32	14	5	7	8	15	108
土日	8	9	23	8	13	10	17	20	108

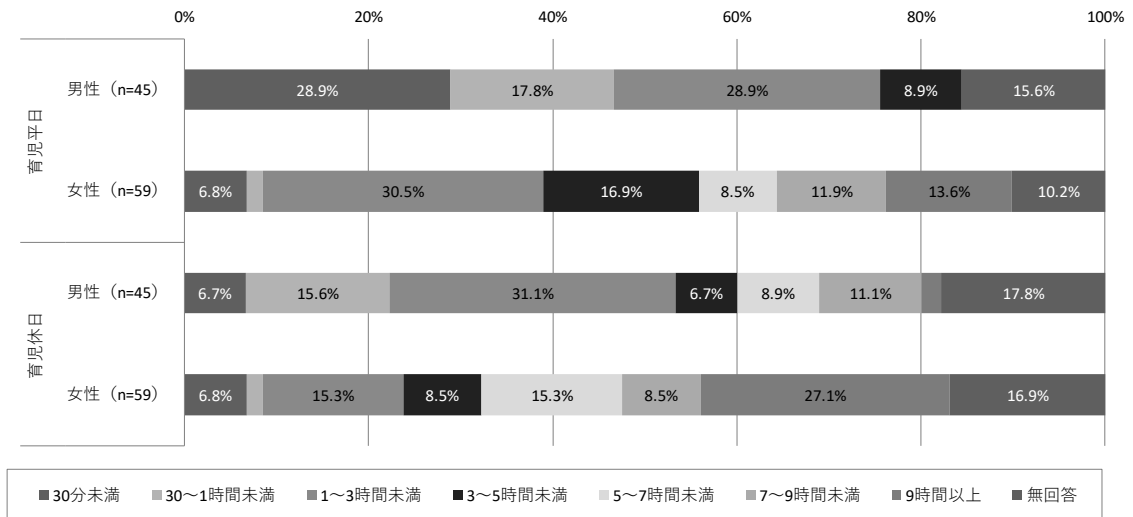
項目（構成比）	30分未満	30分～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
平日	16.7%	8.3%	29.6%	13.0%	4.6%	6.5%	7.4%	13.9%	100.0%
土日	7.4%	8.3%	21.3%	7.4%	12.0%	9.3%	15.7%	18.5%	100.0%



【性別クロス集計】

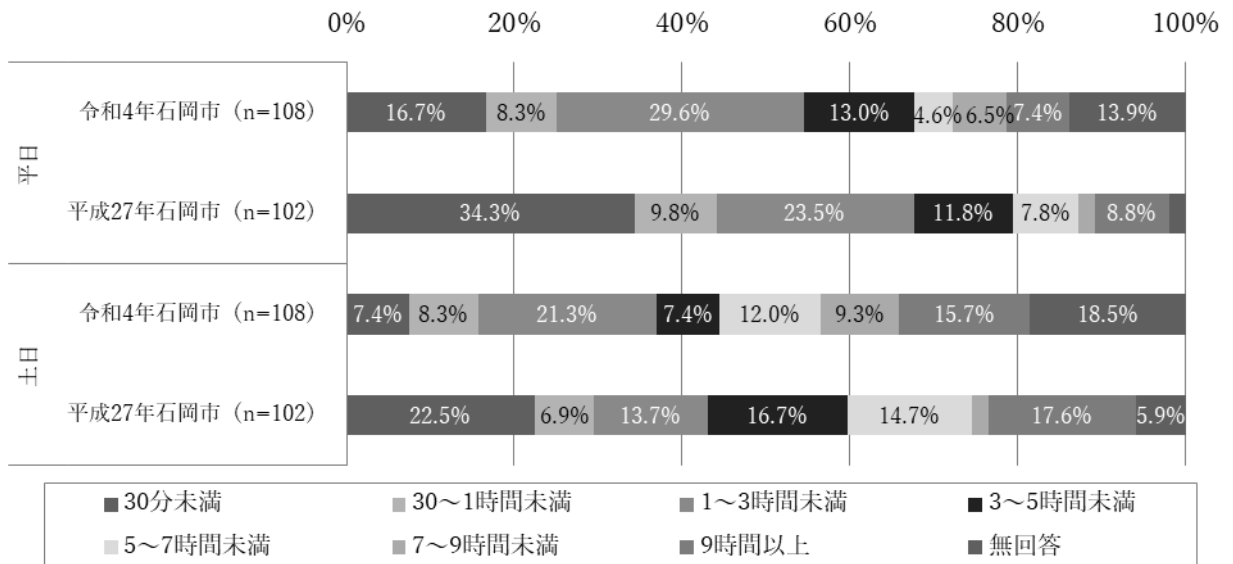
性別で比較すると、男性では平日は「30分未満」「1～3時間未満」が最も多く、休日は「1～3時間未満」が最も多くなっています。

女性では平日は「1～3時間未満」が最も多く、休日は「9時間以上」が最も多くなっています。



【経年クロス集計】

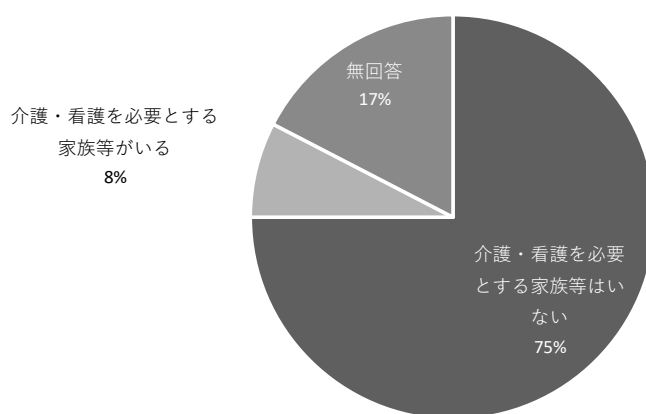
前回調査 (H28) と比較すると、育児の時間が長くなっています。



## 【介護・看護】

「介護・看護を必要とする家族等はいない」が75.0%、「介護・看護を必要とする家族等がいる」が7.6%となっています。

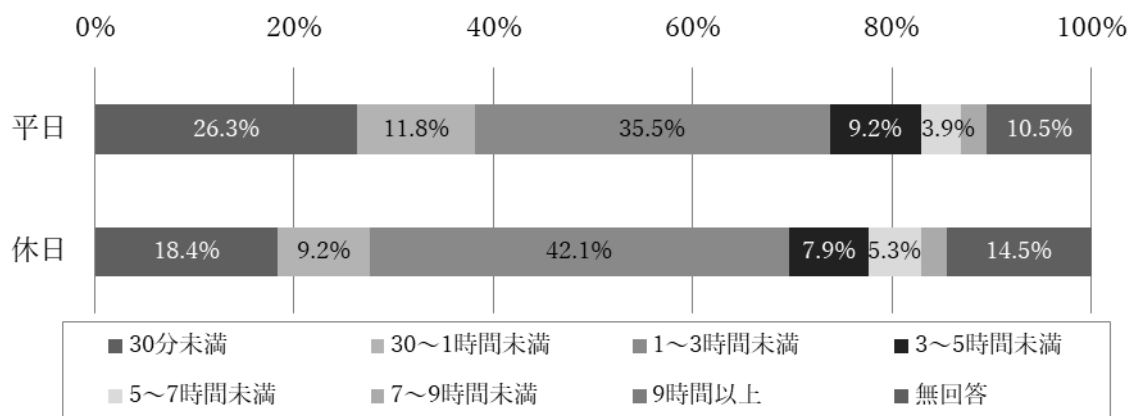
項目	回答数	構成比
介護・看護を必要とする家族等はいない	749	75.0%
介護・看護を必要とする家族等がいる	76	7.6%
無回答	174	17.4%
合計	999	100.0%



平日・休日ともに「1～3時間未満」が最も多くなっています。

項目	30分未満	30分～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
平日	20	9	27	7	3	2	0	8	76
土日	14	7	32	6	4	2	0	11	76

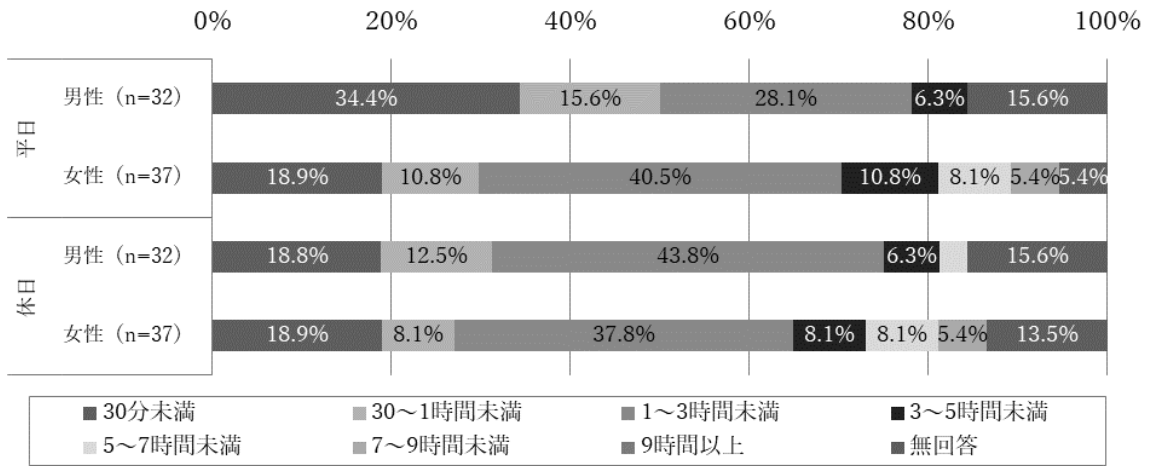
項目（構成比）	30分未満	30分～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
平日	26.3%	11.8%	35.5%	9.2%	3.9%	2.6%	0.0%	10.5%	100.0%
土日	18.4%	9.2%	42.1%	7.9%	5.3%	2.6%	0.0%	14.5%	100.0%



【性別クロス集計】

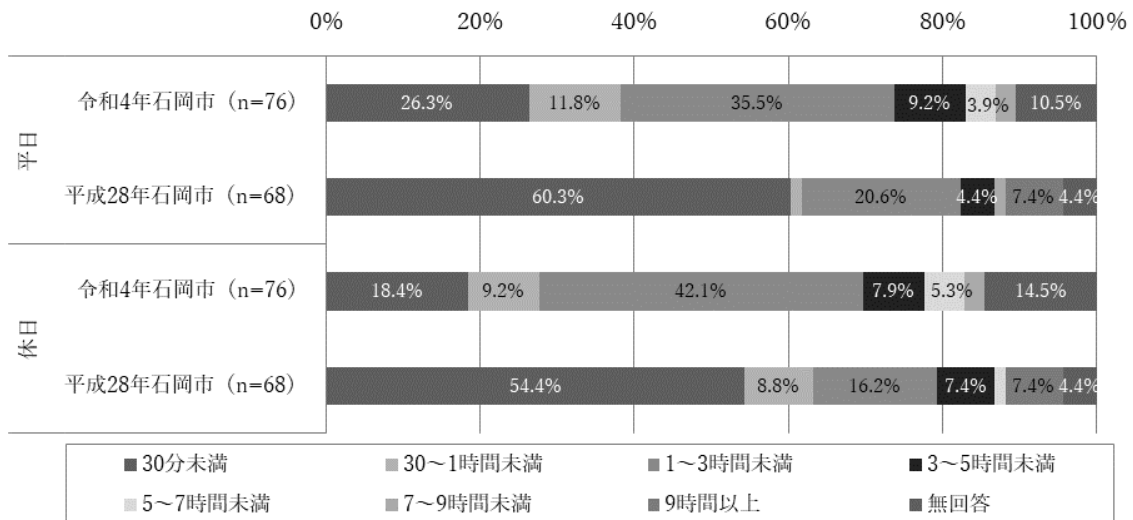
性別で比較すると、男性では平日は「30分未満」が最も多く、休日は「1～3時間未満」が最も多くなっています。

女性では平日・休日ともに「1～3時間未満」が最も多くなっています。



【経年クロス集計】

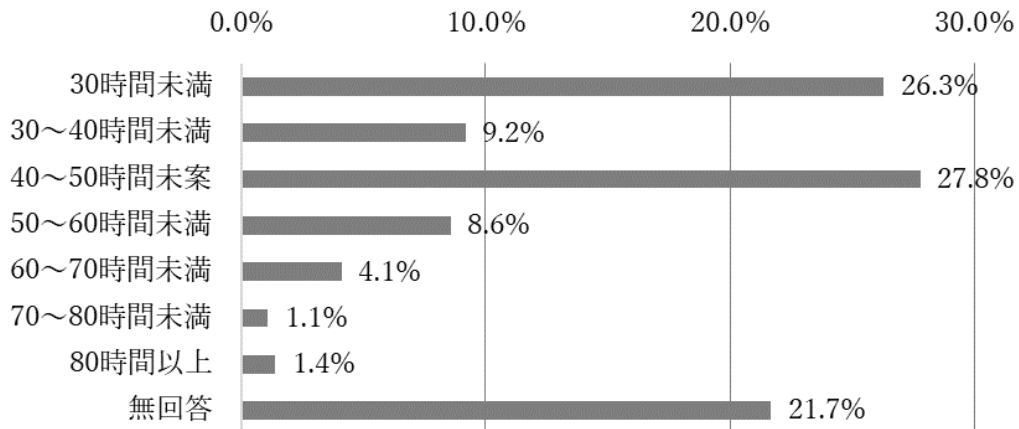
前回調査 (H28) と比較すると看護・介護の時間が長くなっています。



### 【仕事（労働時間）】

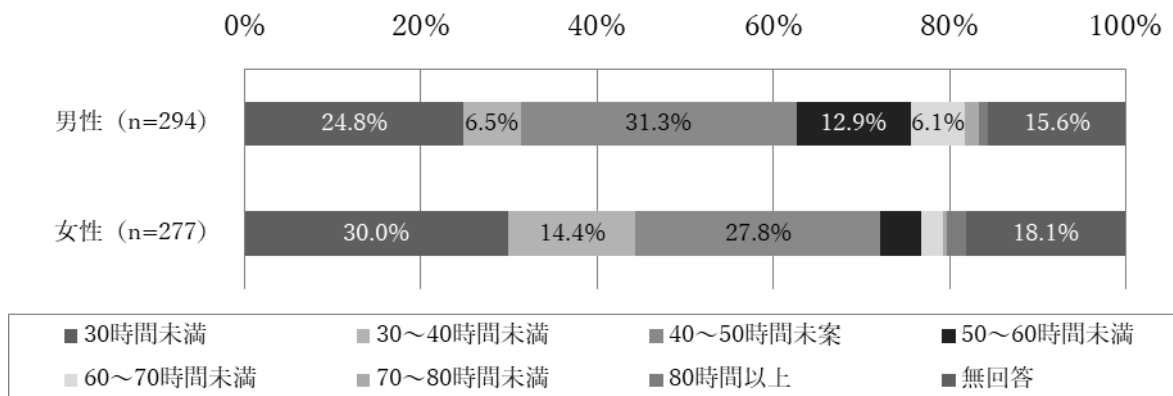
「40～50 時間未満」が最も多く 27.8%となっています。

項目	30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60～70時間未満	70～80時間未満	80時間以上	無回答	合計
回答数	168	59	178	55	26	7	9	138	640
構成比	26.3%	9.2%	27.8%	8.6%	4.1%	1.1%	1.4%	21.7%	100.0%



### 【性別クロス集計】

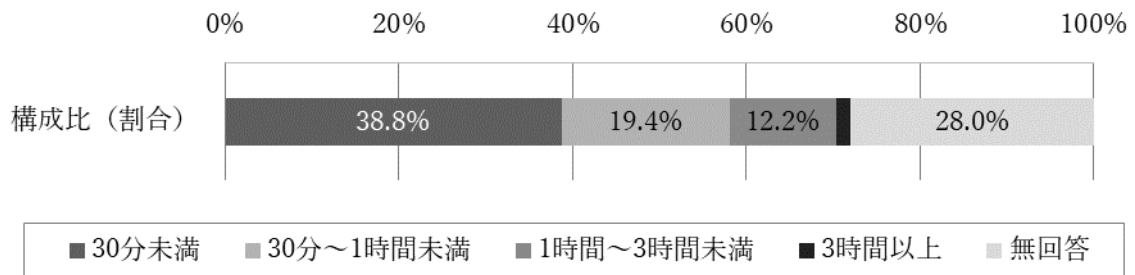
性別で比較すると、男性では「40～50 時間未満」が最も多く 31.3%となっています。女性では「30 時間未満」が最も多く、30.0%となっています。



### 【仕事（通勤時間）】

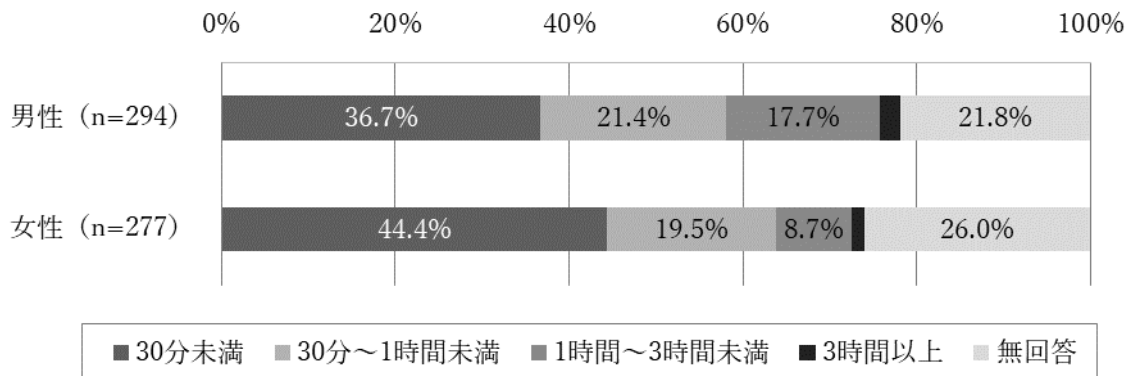
「30分未満」が最も多く、38.8%となっています。

項目	30分未満	30分～1時間未満	1時間～3時間未満	3時間以上	無回答	合計
回答数	248	124	78	11	179	640
構成比（割合）	38.8%	19.4%	12.2%	1.7%	28.0%	100.0%



### 【性別クロス集計】

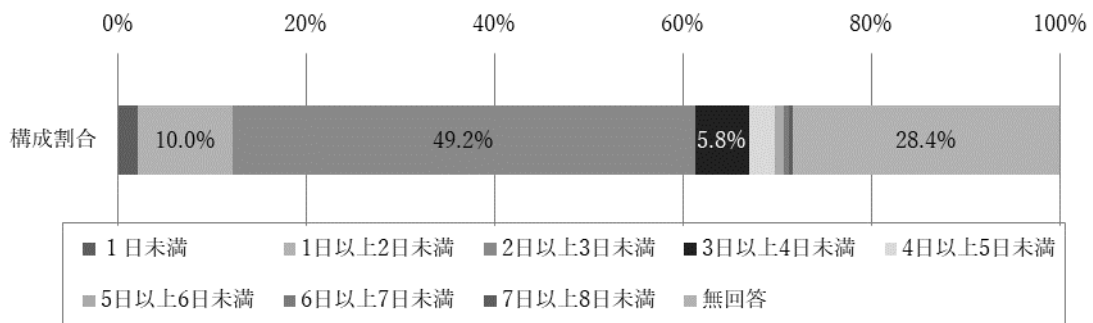
性別で比較すると、男女ともに「30分未満」が最も多くなっています。



### 【仕事（お休み）】

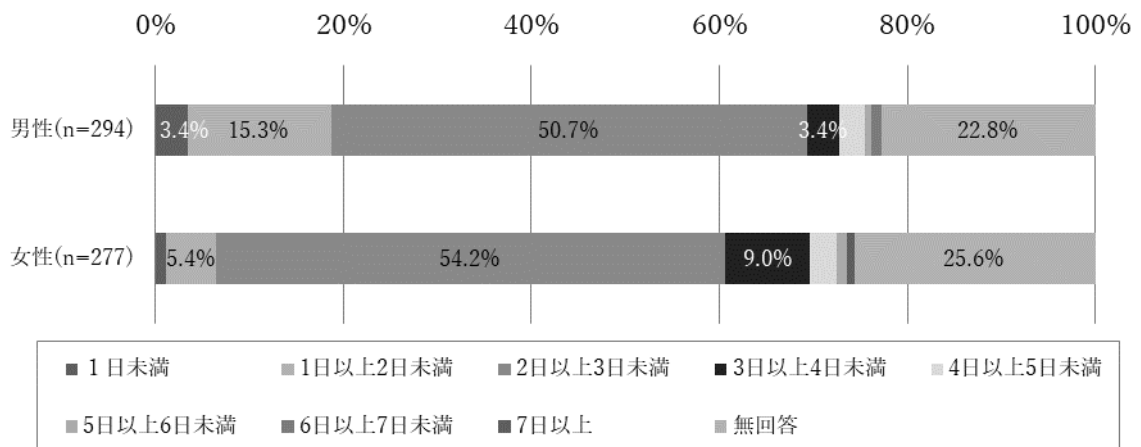
「2日以上3日未満」が最も多く、49.2%となっています。

カテゴリ	1日未満	1日以上2日未満	2日以上3日未満	3日以上4日未満	4日以上5日未満	5日以上6日未満	6日以上7日未満	7日以上8日未満	無回答	合計
回答数	14	64	315	37	17	6	3	2	182	640
構成割合	2.2%	10.0%	49.2%	5.8%	2.7%	0.9%	0.5%	0.4%	28.4%	100.0%



### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「2日以上3日未満」が最も多く、約半数を占めています。

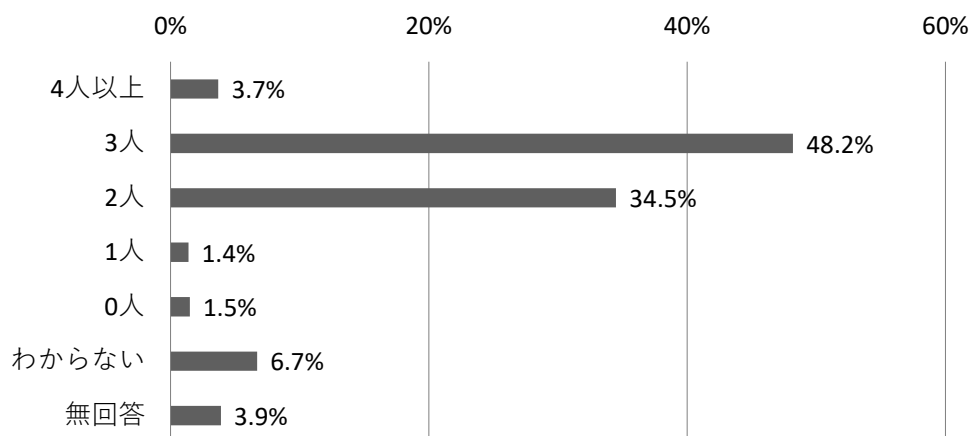


問6 近年、少子化が急速に進んでいますが、子どもの出生数のことでお伺いします。

(1) あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。(○は1つ)

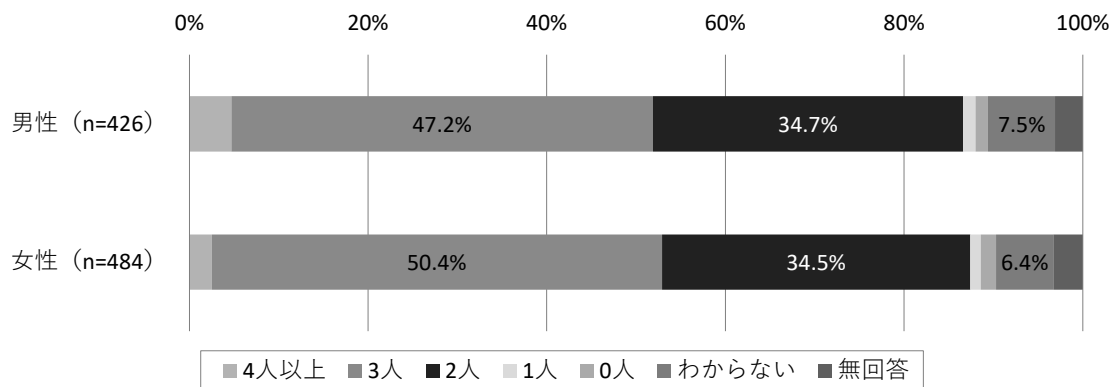
「3人」が最も多く48.2%、次いで「2人」が34.5%となっています。

項目	4人以上	3人	2人	1人	0人	わからない	無回答	合計
回答数	37	482	345	14	15	67	39	999
構成比	3.7%	48.2%	34.5%	1.4%	1.5%	6.7%	3.9%	100.0%



【性別クロス集計】

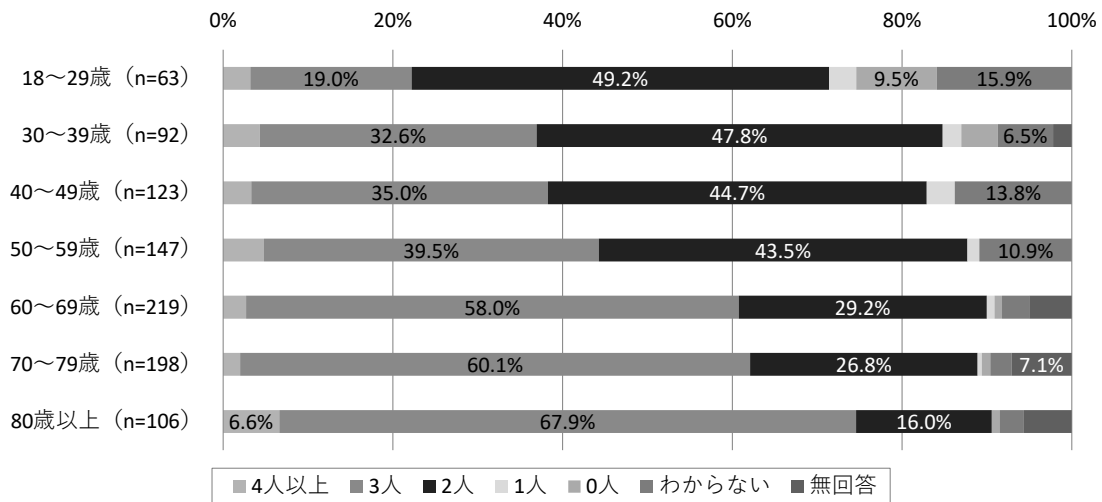
性別で比較すると、男女ともに「3人」が最も多く、次いで「2人」となっています。





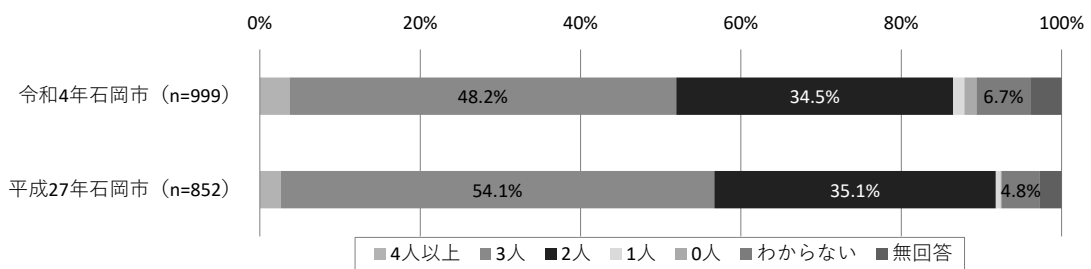
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、年代が高くなるほど「3人」の割合が高くなり、年代が下がるほど「2人」の割合が高くなっています。



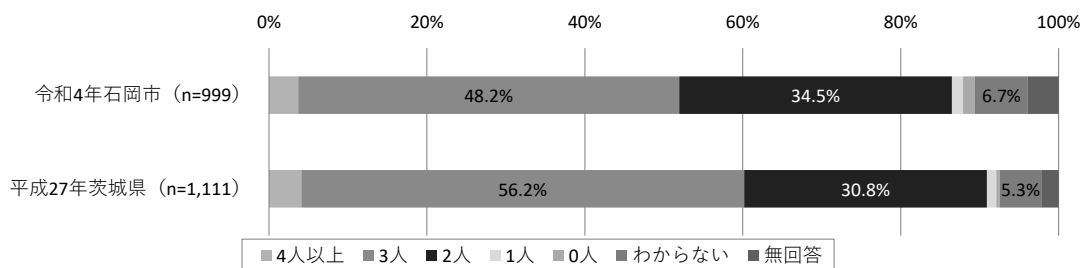
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「3人」と回答した割合が5.9ポイント減少しています。



### 【茨城県クロス集計】

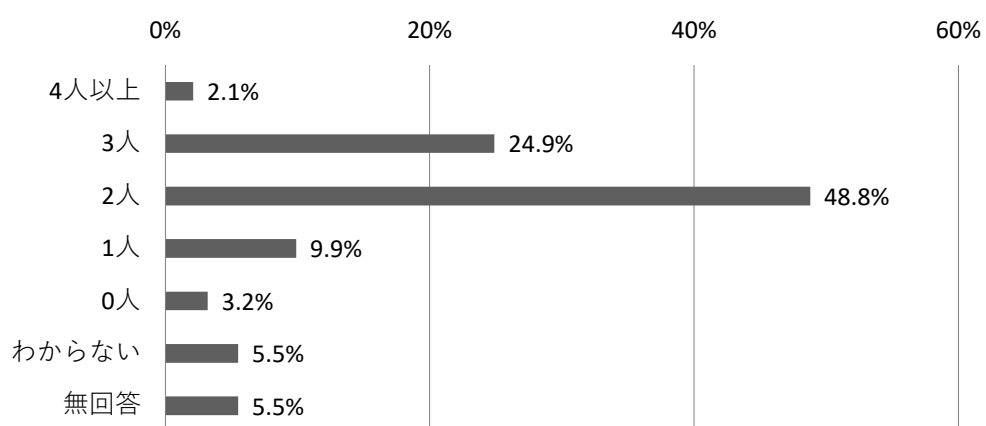
茨城県調査（H27）と比較すると、「3人」が8.0ポイント少なく、「2人」が3.7ポイント高くなっています。



(2) 実際の子どもの数又は実際に子育てできると思う数は何人ですか。(○は1つ)

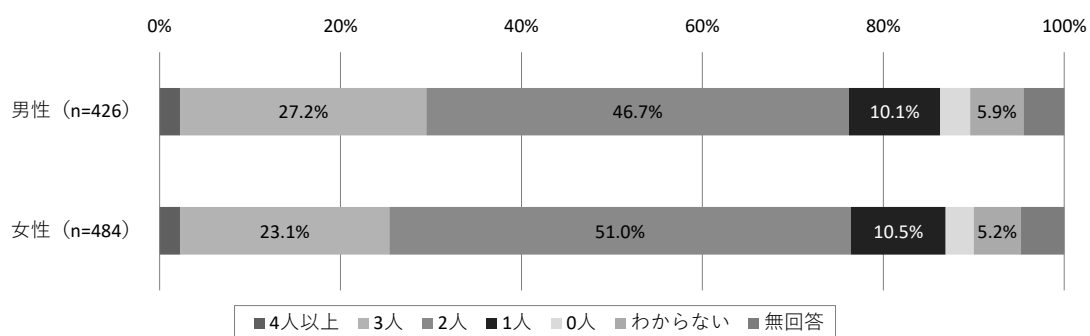
「2人」が最も多く48.8%、次いで「3人」が24.9%となっています。

項目	4人以上	3人	2人	1人	0人	わからない	無回答	合計
回答数	21	249	488	99	32	55	55	999
構成割合	2.1%	24.9%	48.8%	9.9%	3.2%	5.5%	5.5%	100.0%



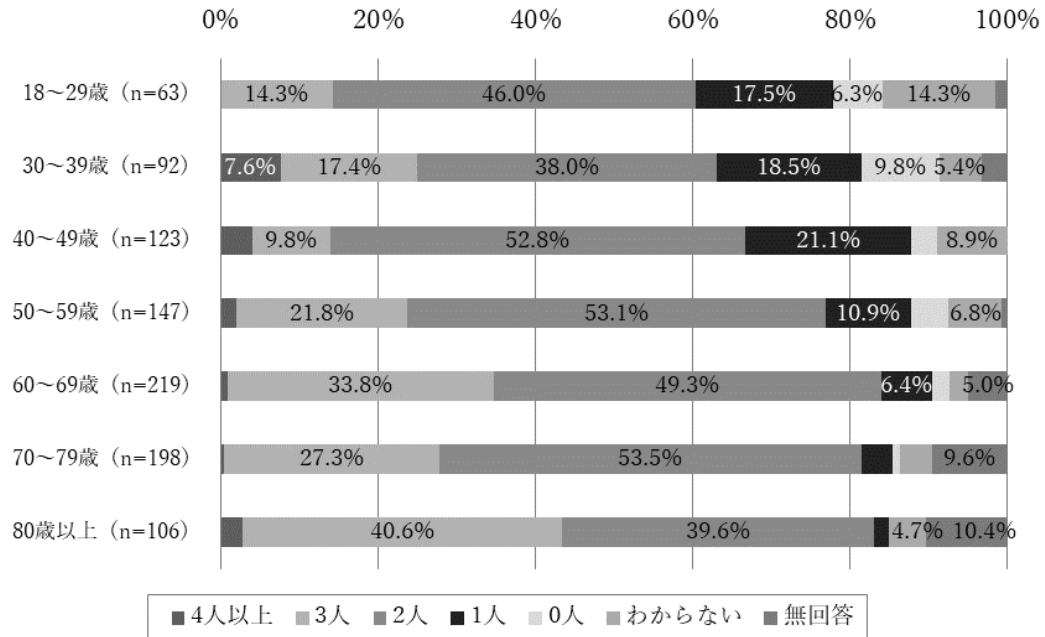
#### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「2人」が最も多く、約半数を占めています。



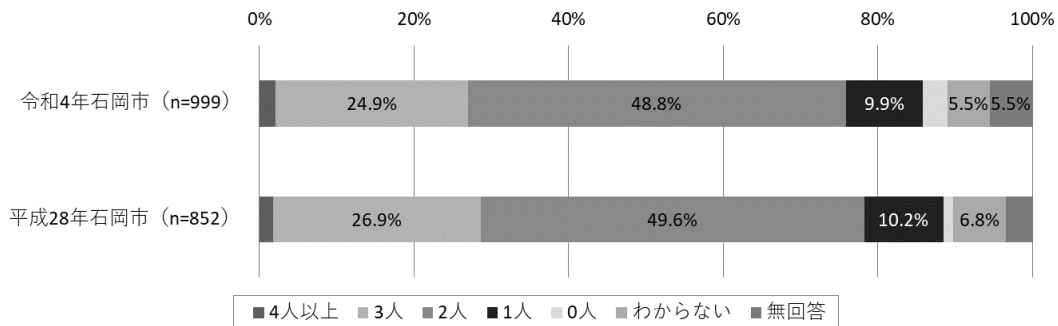
【年代クロス集計】

年代で比較すると、年代が高くなると「3人」の割合が高く、年代が低くなると「1人」の割合が高くなる傾向にあります。



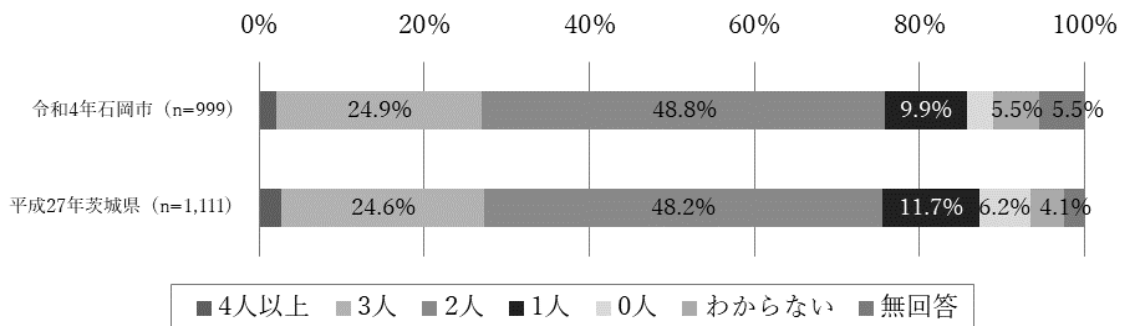
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、大きな変化はありません。



【茨城県クロス集計】

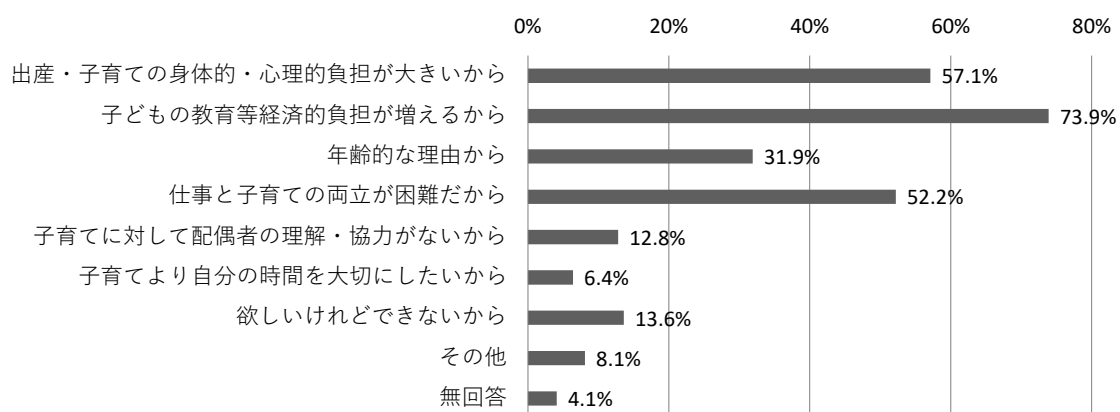
茨城県調査（H27）と比較すると、同様の結果となっています。



問6 (3)(2)の実際の数、(1)の理想の数よりも少ない方にお伺いします。その理由は何ですか。お考えに近い順番に3つまで番号を記入してください。その他を選ぶ方は「8」を記入の上、下の欄に理由を記入願います。

「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が最も多く73.9%、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が57.1%となっています。

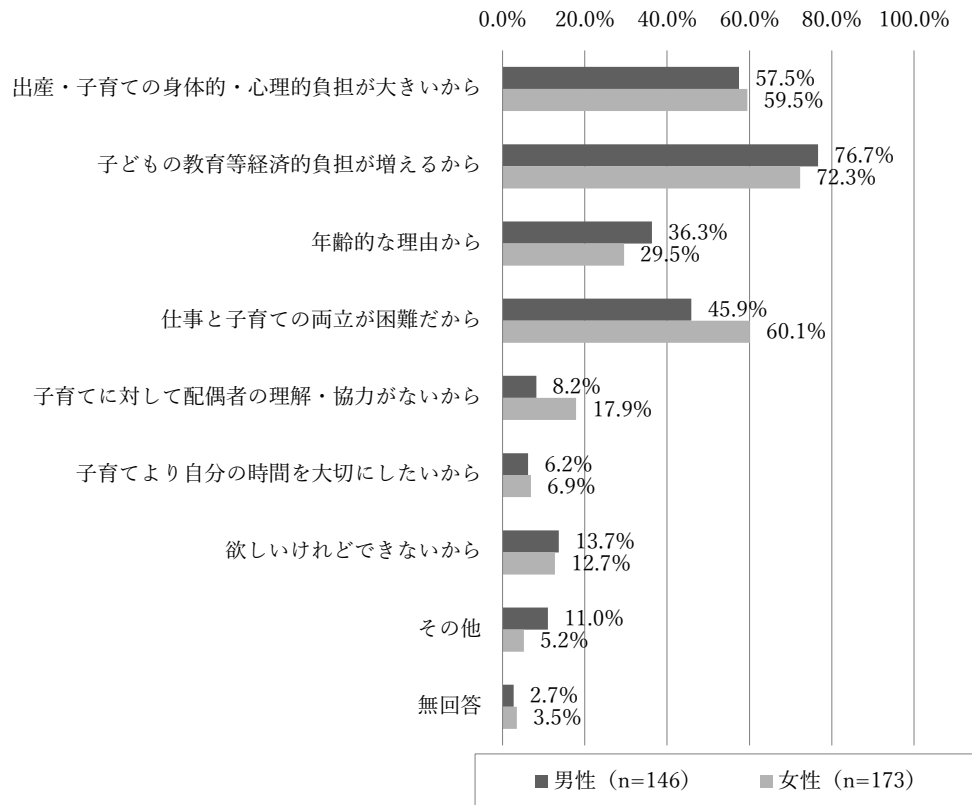
項目	回答数	構成比
出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから	197	57.1%
子どもの教育等経済的負担が増えるから	255	73.9%
年齢的な理由から	110	31.9%
仕事と子育ての両立が困難だから	180	52.2%
子育てに対して配偶者の理解・協力が無いから	44	12.8%
子育てより自分の時間を大切にしたいから	22	6.4%
欲しいけれどできないから	47	13.6%
その他	28	8.1%
無回答	14	4.1%
合計	345	



### 【性別クロス集計】

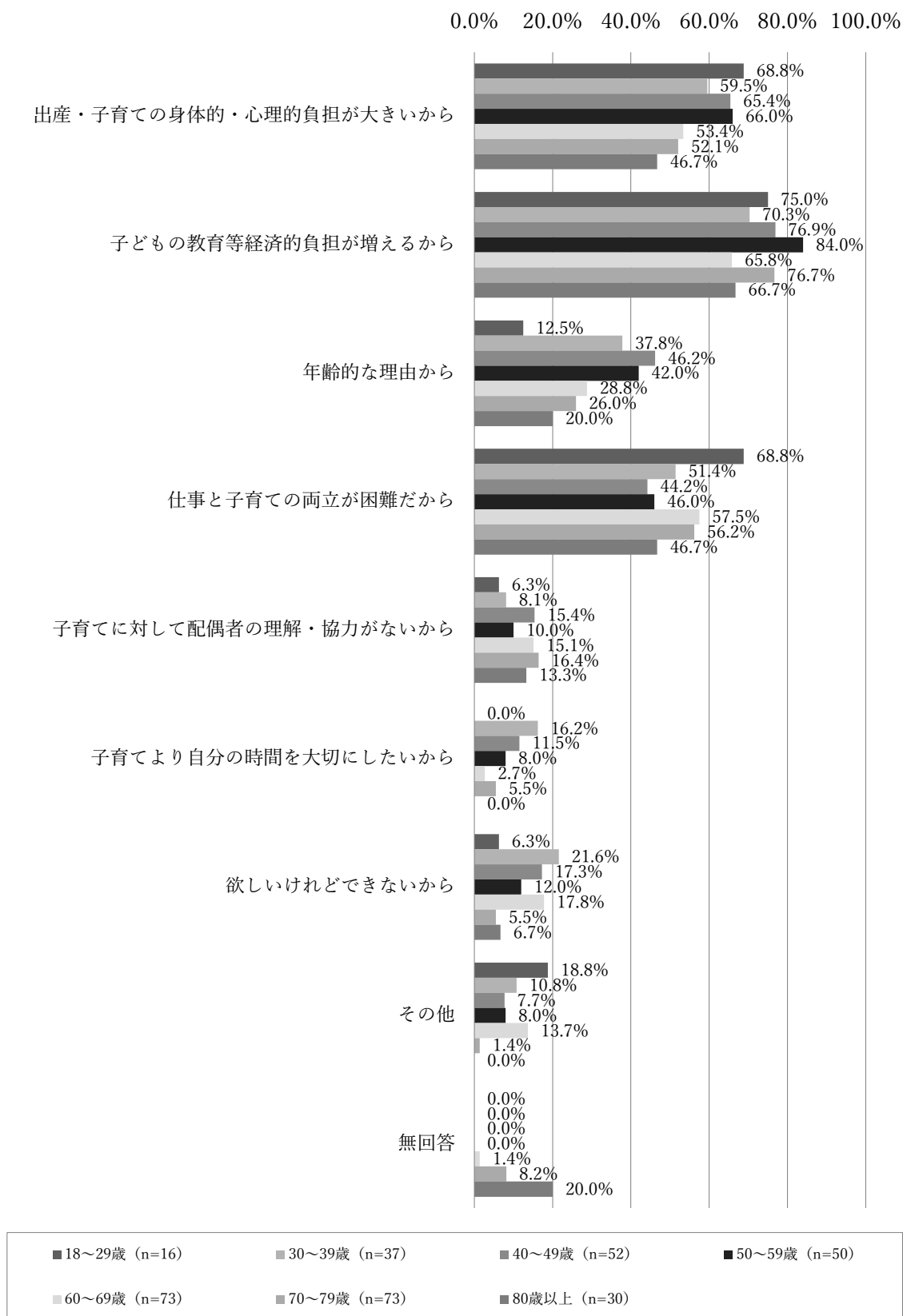
性別で比較すると、男女ともに「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が最も多くなっています。

また、「仕事と子育ての両立が困難だから」と答えた割合は、男性が45.9%であるのに対し、女性は60.1%となっています。



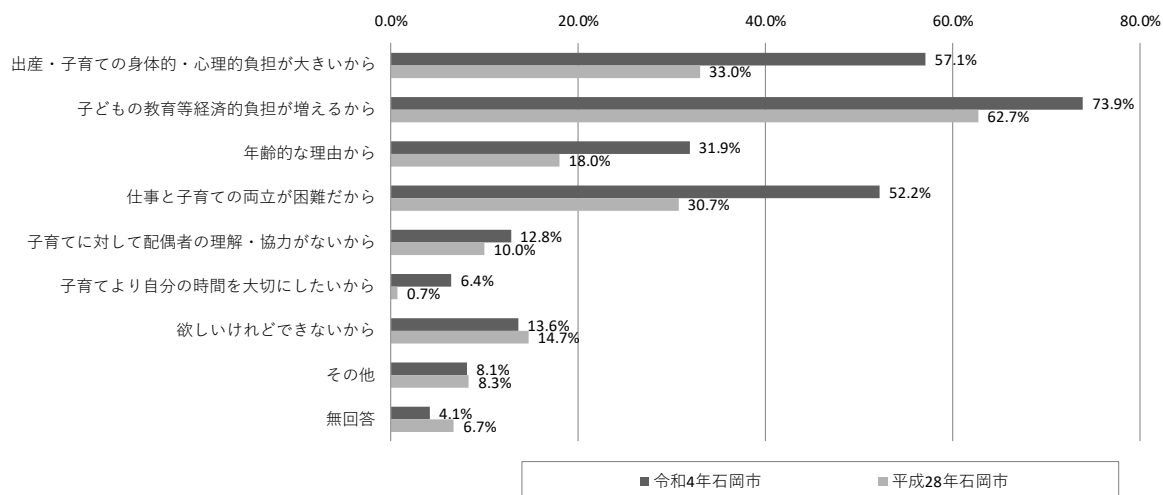
【年代クロス集計】

年代で比較すると、全ての年代で「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が最も多くなっています。



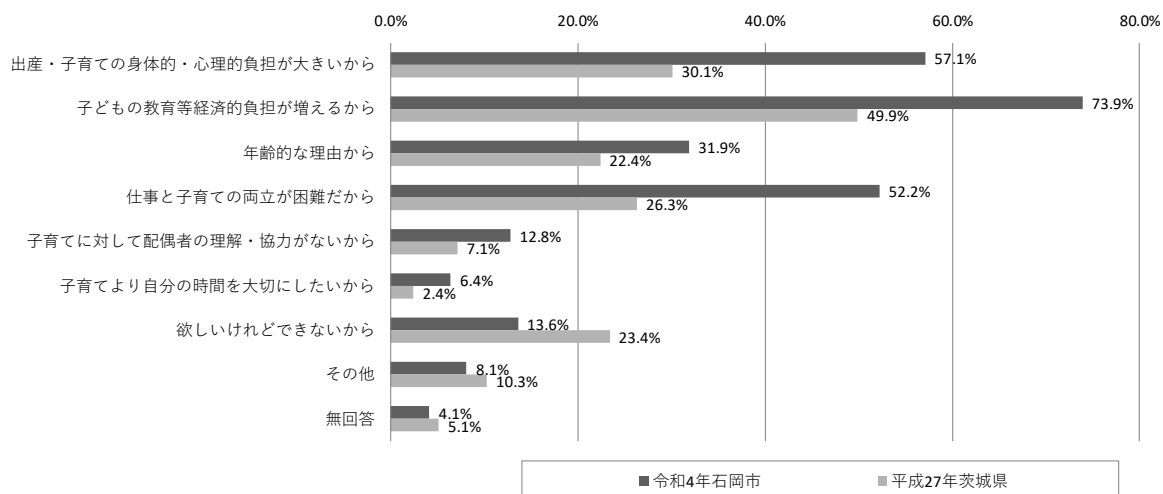
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、前回同様「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が最も多く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が多い結果となっています。



### 【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、どちらも「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が最も多く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が多い結果となっています。



### 3 【仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について】

問7 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況において、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。

(現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。○はそれぞれ1つ)

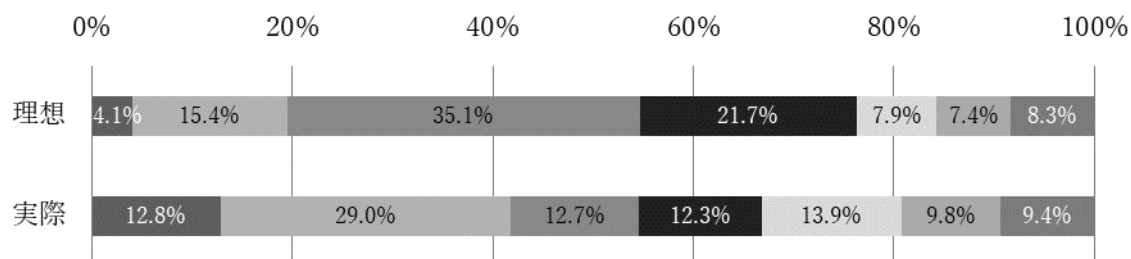
#### 【理想】

「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を両立している」が最も多く 35.1%、次いで「仕事にも携わりつつ家庭生活又は地域・個人の生活を優先している」が 21.7%となっています。

#### 【実際】

「家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している」が最も多く 29.0%、次いで「家庭生活又は地域・個人の生活に専念している」が 13.9%となっています。

項目	理想		実際	
	回答数	構成比	回答数	構成比
仕事に専念している	41	4.1%	128	12.8%
家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している	154	15.4%	290	29.0%
家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を両立している	351	35.1%	127	12.7%
仕事にも携わりつつ家庭生活又は地域・個人の生活を優先している	217	21.7%	123	12.3%
家庭生活又は地域・個人の生活に専念している	79	7.9%	139	13.9%
よくわからない	74	7.4%	98	9.8%
無回答	83	8.3%	94	9.4%
合計	999	100.0%	999	100.0%

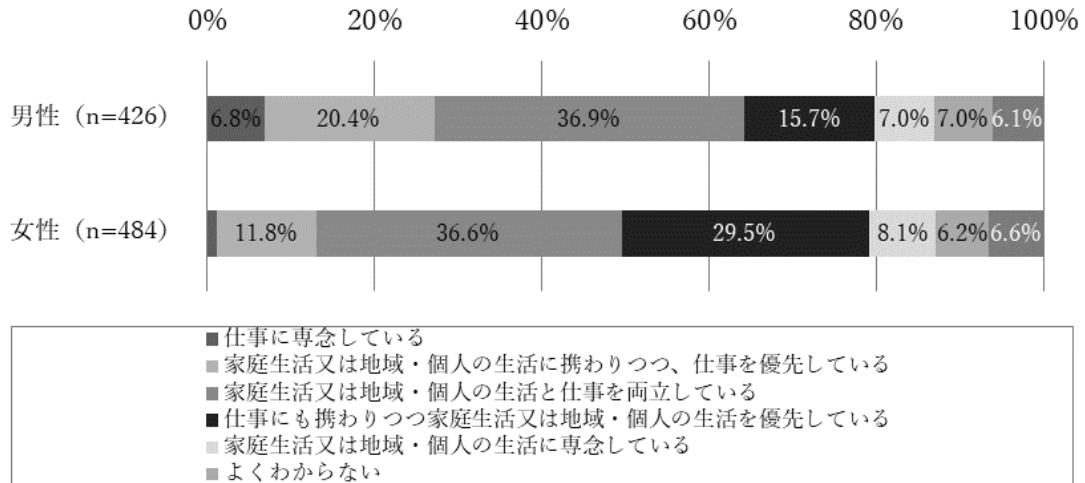


■ 仕事に専念している
■ 家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している
■ 家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を両立している
■ 仕事にも携わりつつ家庭生活又は地域・個人の生活を優先している
■ 家庭生活又は地域・個人の生活に専念している
■ よくわからない
■ 無回答



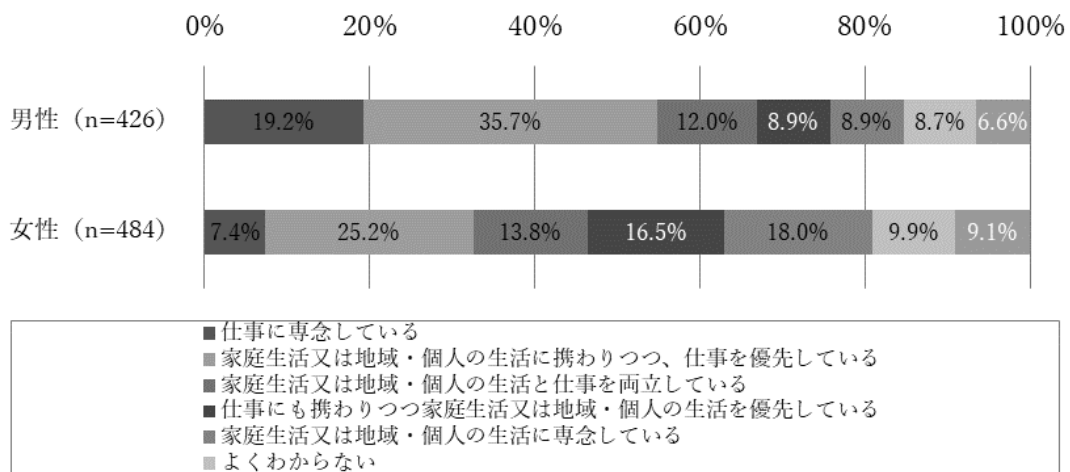
【性別（理想）クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を両立している」が最も多くなっています。男性では「家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している」が2番目に多く、女性では「仕事にも携わりつつ家庭生活又は地域・個人の生活を優先している」が2番目に多くなっています。



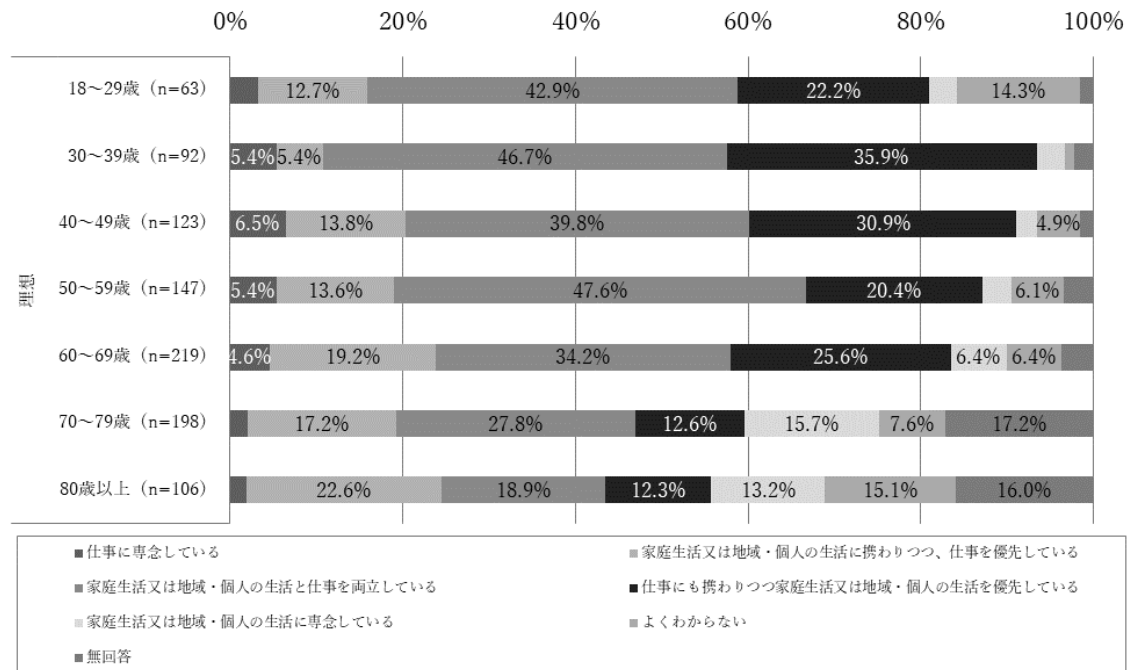
【性別（実際）クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している」が最も多くなっています。男性では「仕事に専念している」が2番目に多く、女性では「家庭生活又は地域・個人の生活に専念している」が2番目に多くなっています。



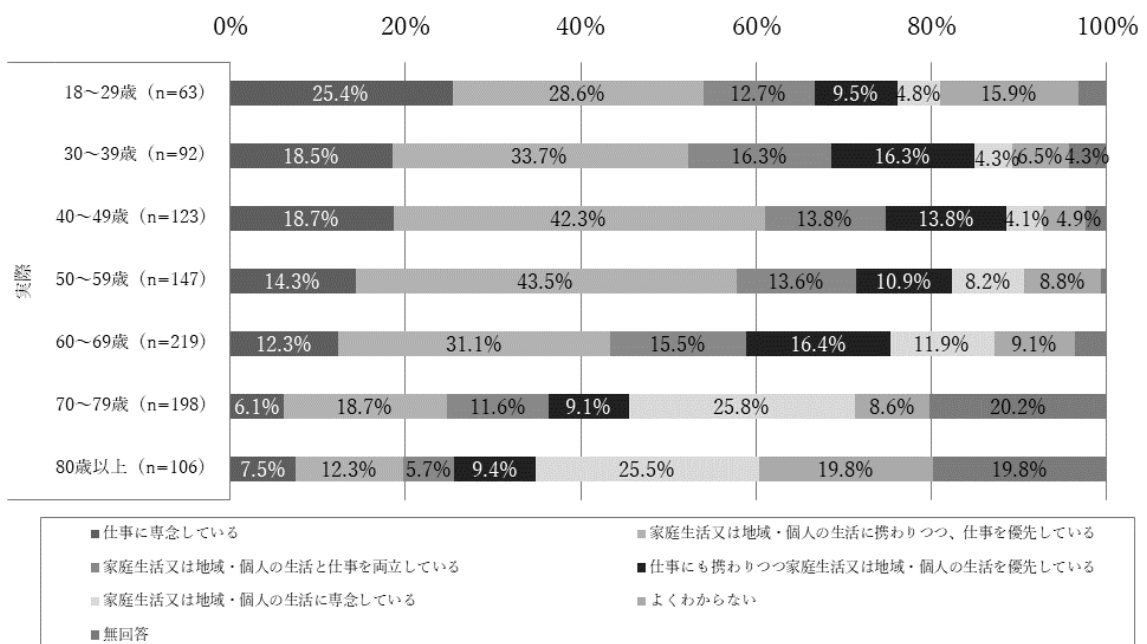
### 【年代（理想）クロス集計】

年代で比較すると、ほとんどの年代で「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を両立している」が最も多いのに対し、80歳以上では「家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している」が最も多くなっています。



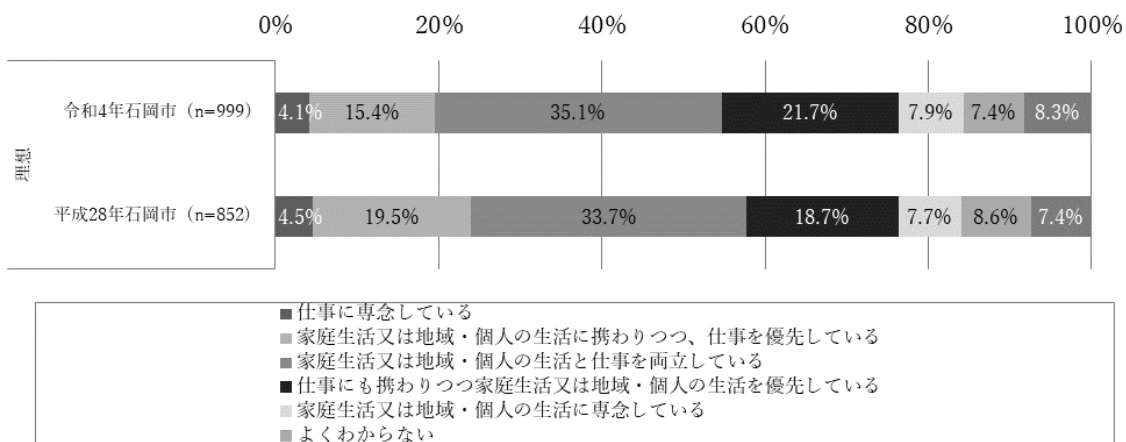
### 【年代（実際）クロス集計】

年代で比較すると、60代までは「家庭生活又は地域・個人の生活に携わりつつ、仕事を優先している」が最も多いのに対し、70歳以上では「家庭生活又は地域・個人の生活に専念している」が最も多くなっています。



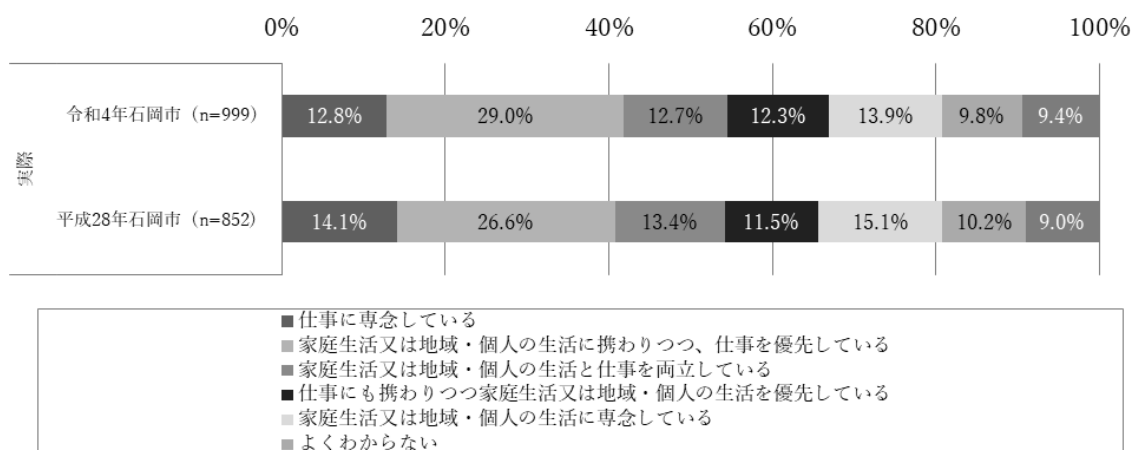
### 【経年（理想）クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、大きな変化はありません。



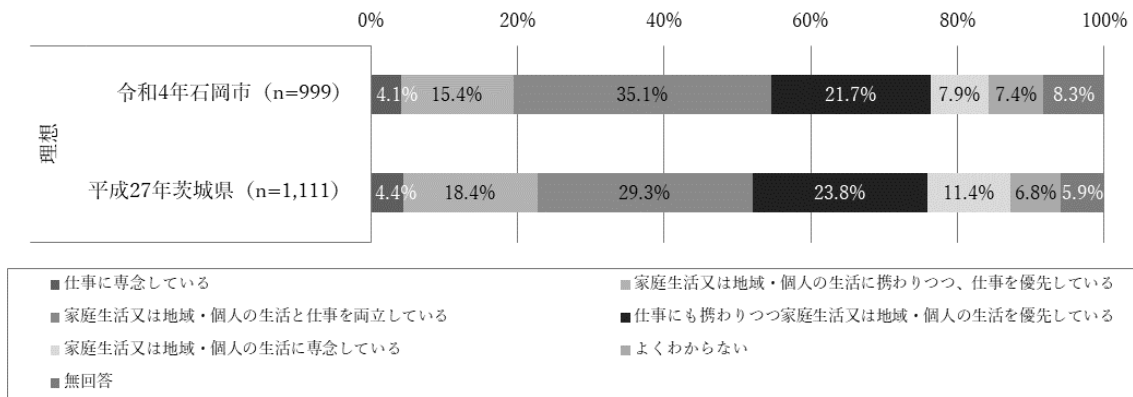
### 【経年（実際）クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、大きな変化はありません。



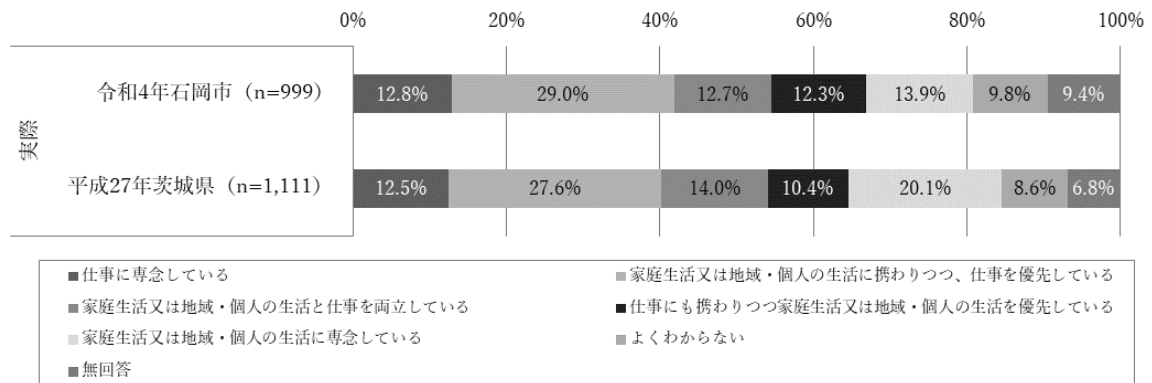
【茨城県（理想）クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、「家庭生活又は地域・個人の生活と仕事を両立している」が5.8ポイント高くなっています。



【茨城県（実際）クロス集計】

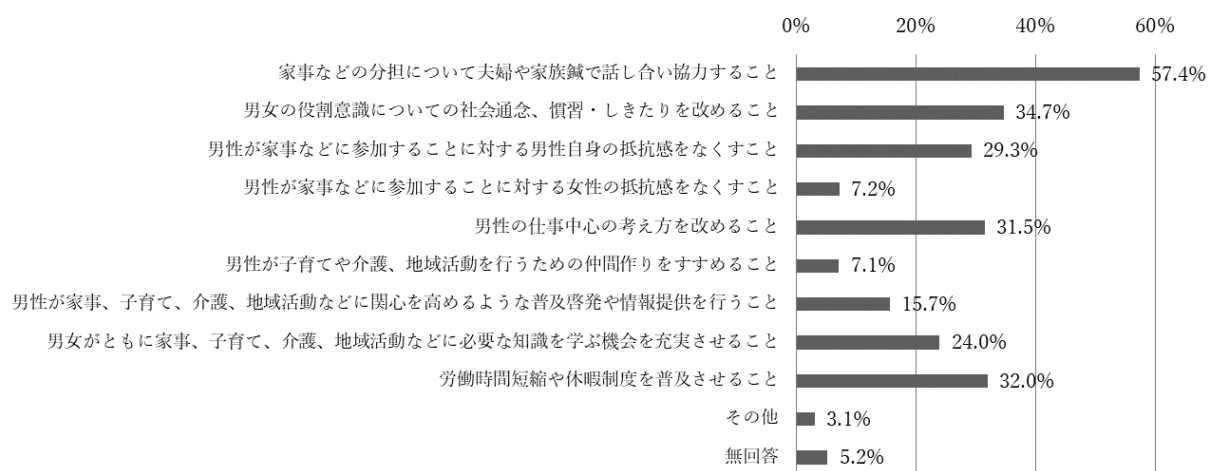
茨城県調査（H27）と比較すると、「家庭生活又は地域・個人の生活に専念している」が6.2ポイント低くなっています。



問8 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「家事などの分担について夫婦や家族鍼で話し合い協力すること」が最も多く57.4%、次いで「男女の役割意識についての社会通念、慣習・しきたりを改めること」が34.7%となっています。

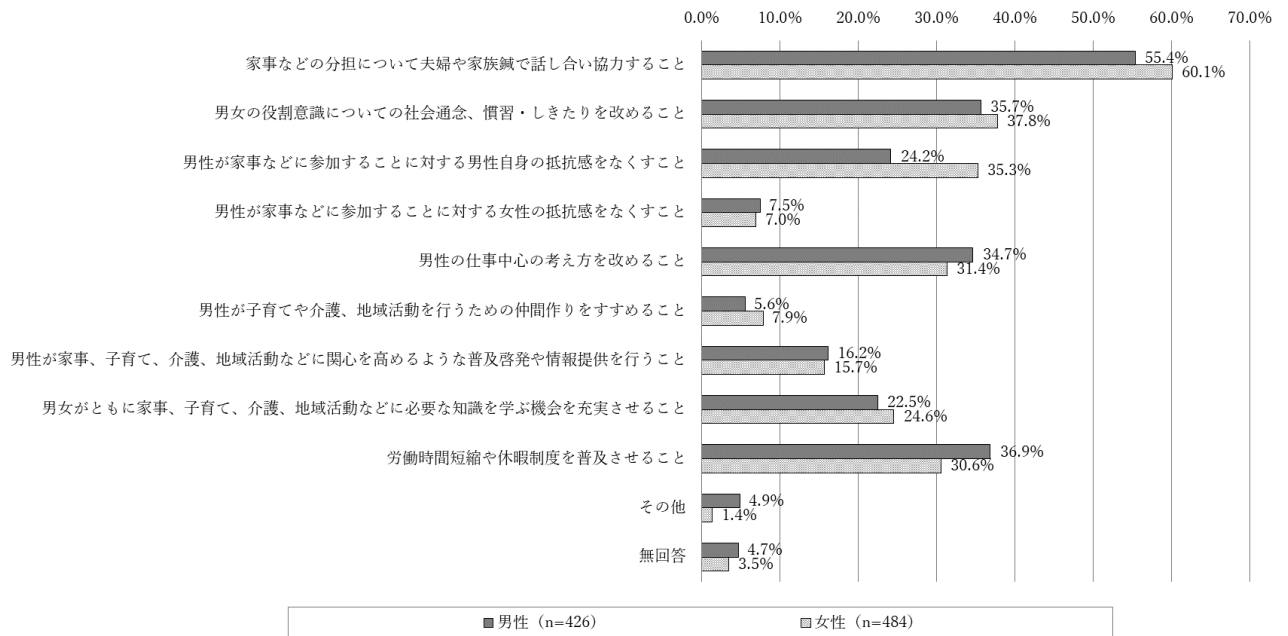
項目	回答数	構成比
家事などの分担について夫婦や家族鍼で話し合い協力すること	573	57.4%
男女の役割意識についての社会通念、慣習・しきたりを改めること	347	34.7%
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	293	29.3%
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	72	7.2%
男性の仕事中心の考え方を改めること	315	31.5%
男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること	71	7.1%
男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるような普及啓発や情報提供を行うこと	157	15.7%
男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること	240	24.0%
労働時間短縮や休暇制度を普及させること	320	32.0%
その他	31	3.1%
無回答	52	5.2%
回答者数	999	



### 【性別クロス集計】

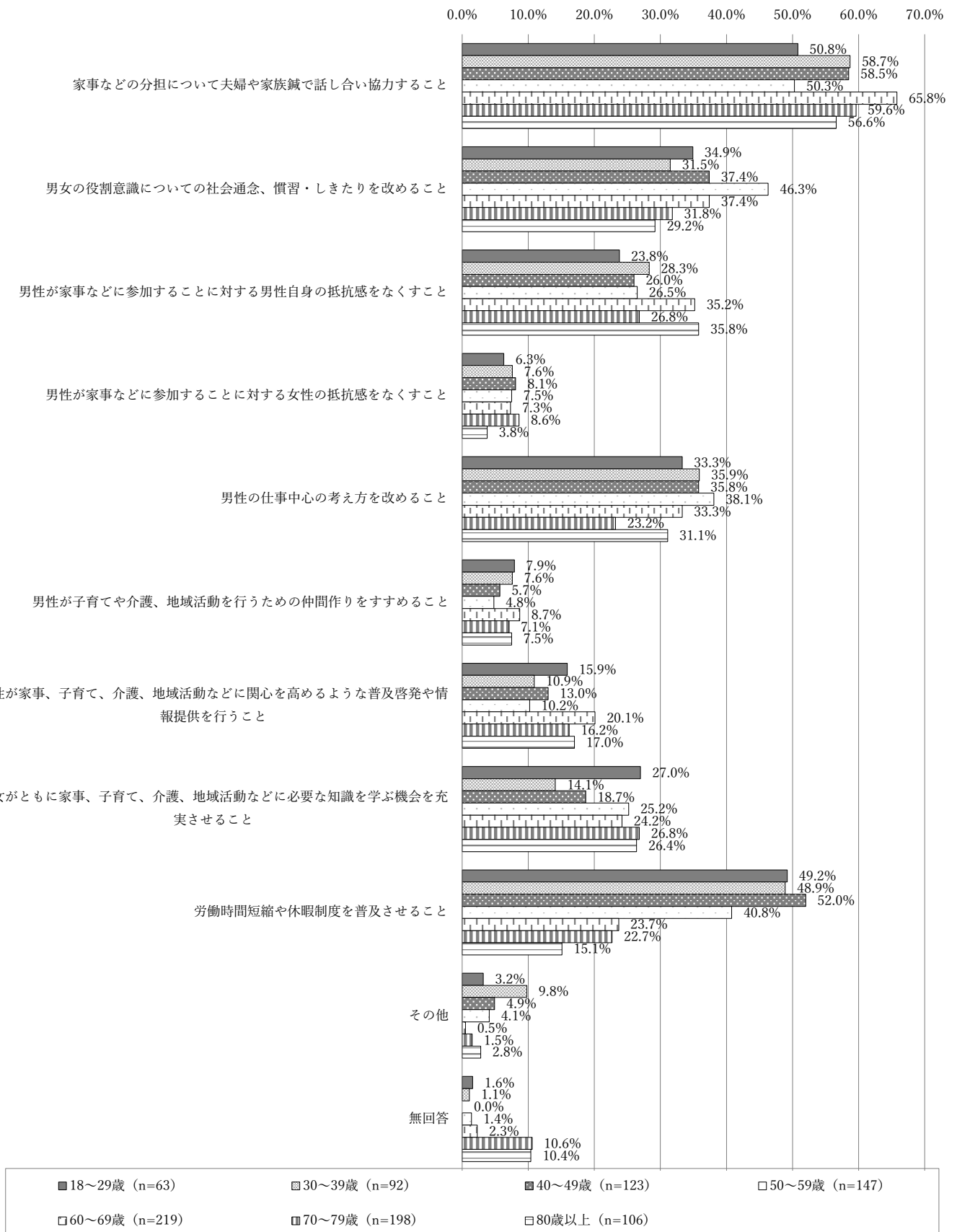
性別で比較すると、男女とも「家事などの分担について夫婦や家族間で話し合い協力すること」が最も多くなっています。

また、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と回答した割合は、女性の方が11.1ポイント高くなっています。



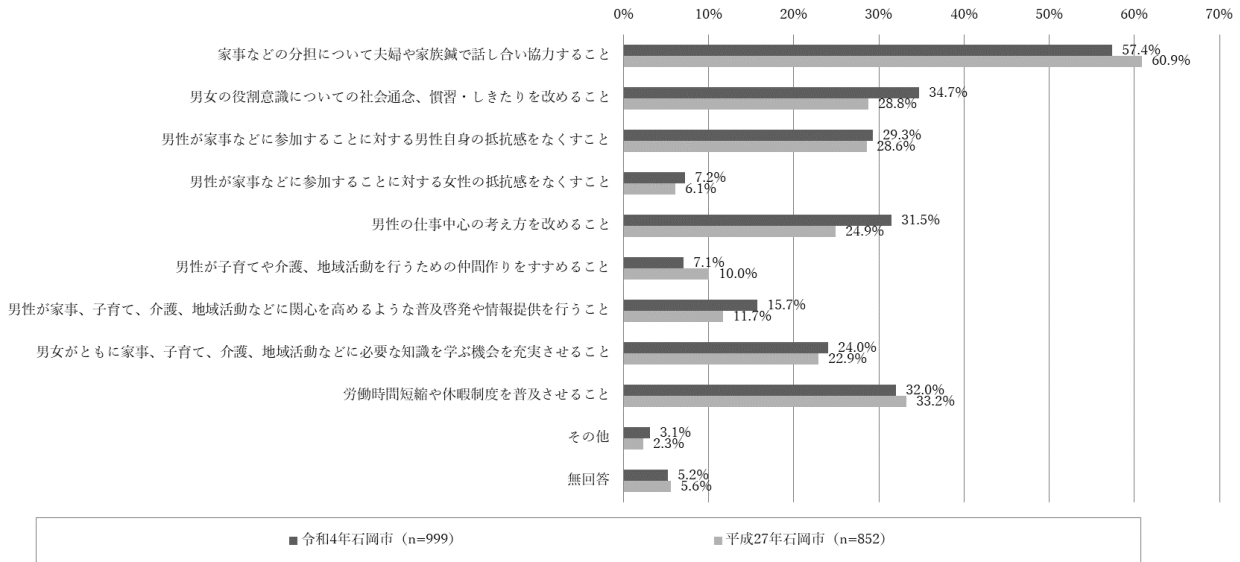
【年代クロス集計】

年代で比較すると、全ての年代で「家事などの分担について夫婦や家族間で話し合い協力すること」が最も多くなっています。



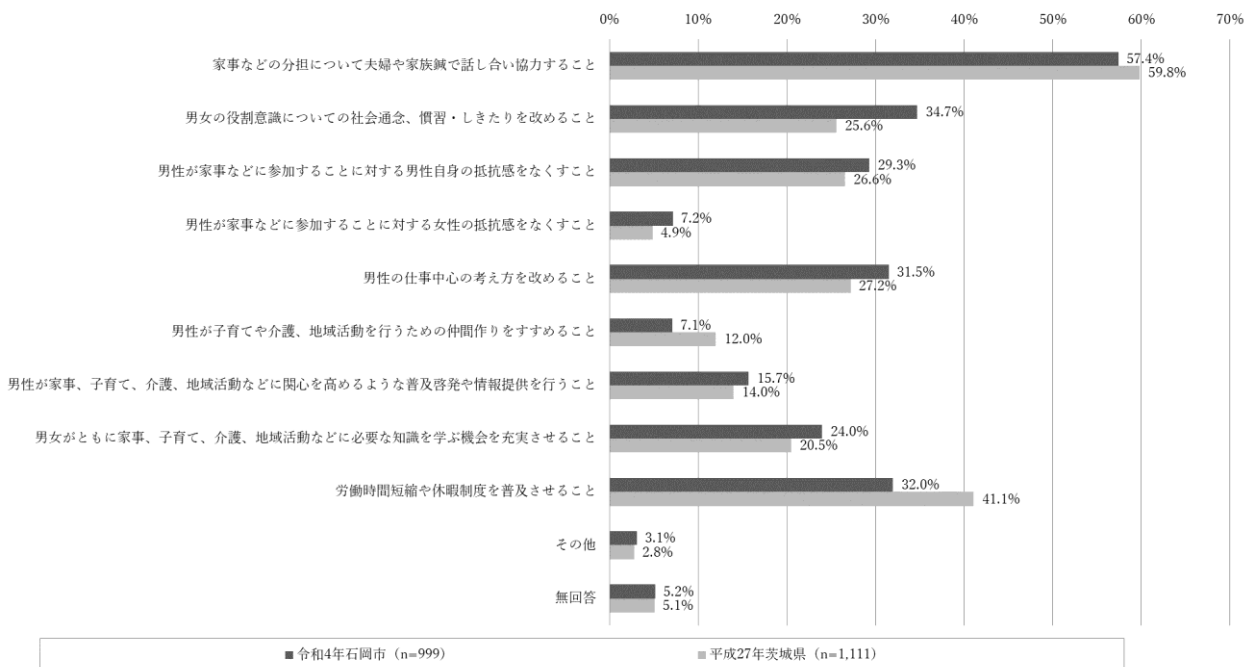
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「男女の役割意識についての社会通念、慣習・しきたりを改めること」が5.9ポイント、「男性の仕事中心の考え方を改めること」が6.6ポイント上昇しています。



### 【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、「男女の役割意識についての社会通念、慣習・しきたりを改めること」が9.1ポイント高く、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が9.1ポイント低くなっています。



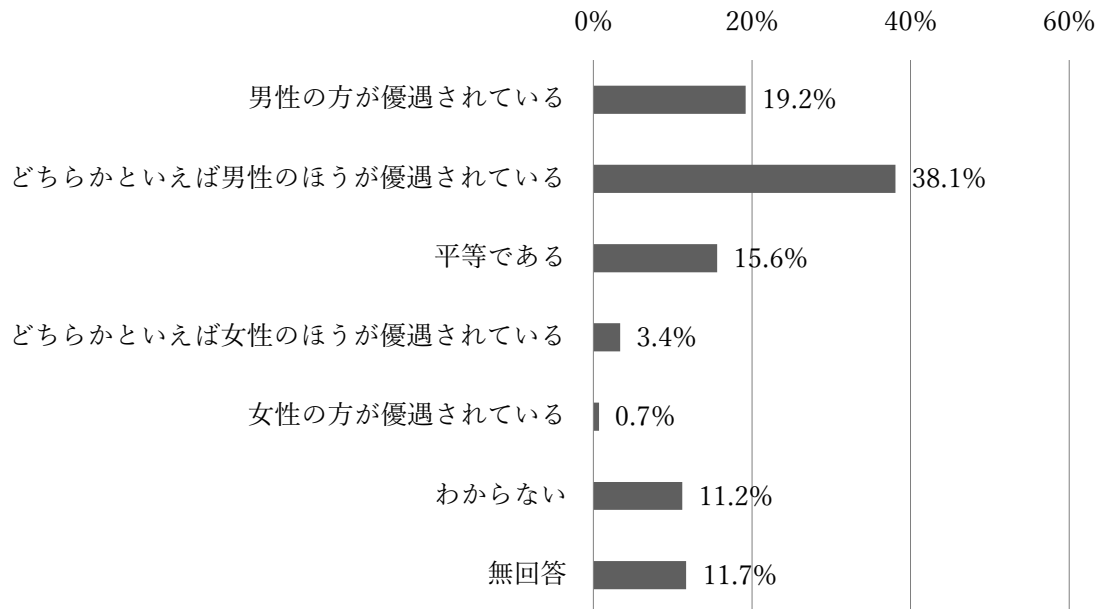


#### 4 【就業について】

問9-1 職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。（○は1つ）

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も多く、「男性の方が優遇されている」と合わせると 57.3%となっています。

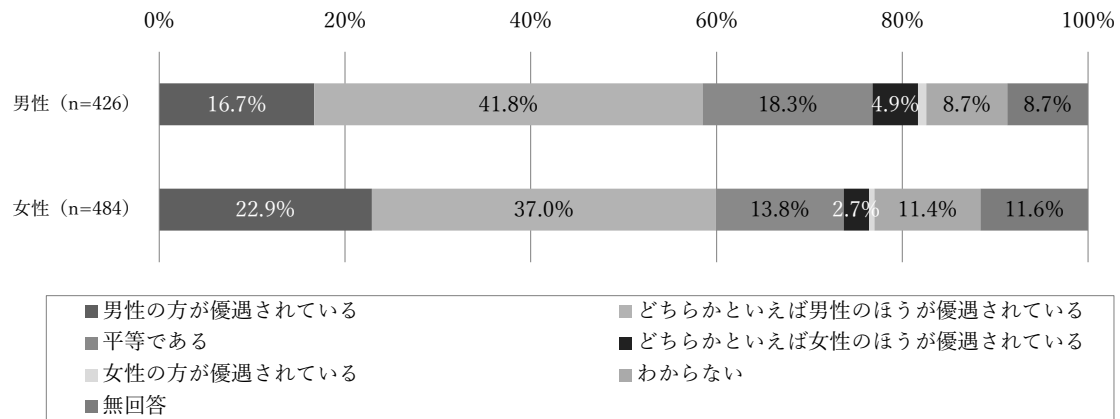
項目	回答数	構成比
男性の方が優遇されている	192	19.2%
どちらかといえば男性のほうが優遇されている	381	38.1%
平等である	156	15.6%
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	34	3.4%
女性の方が優遇されている	7	0.7%
わからない	112	11.2%
無回答	117	11.7%
合計	999	100.0%



### 【性別クロス集計】

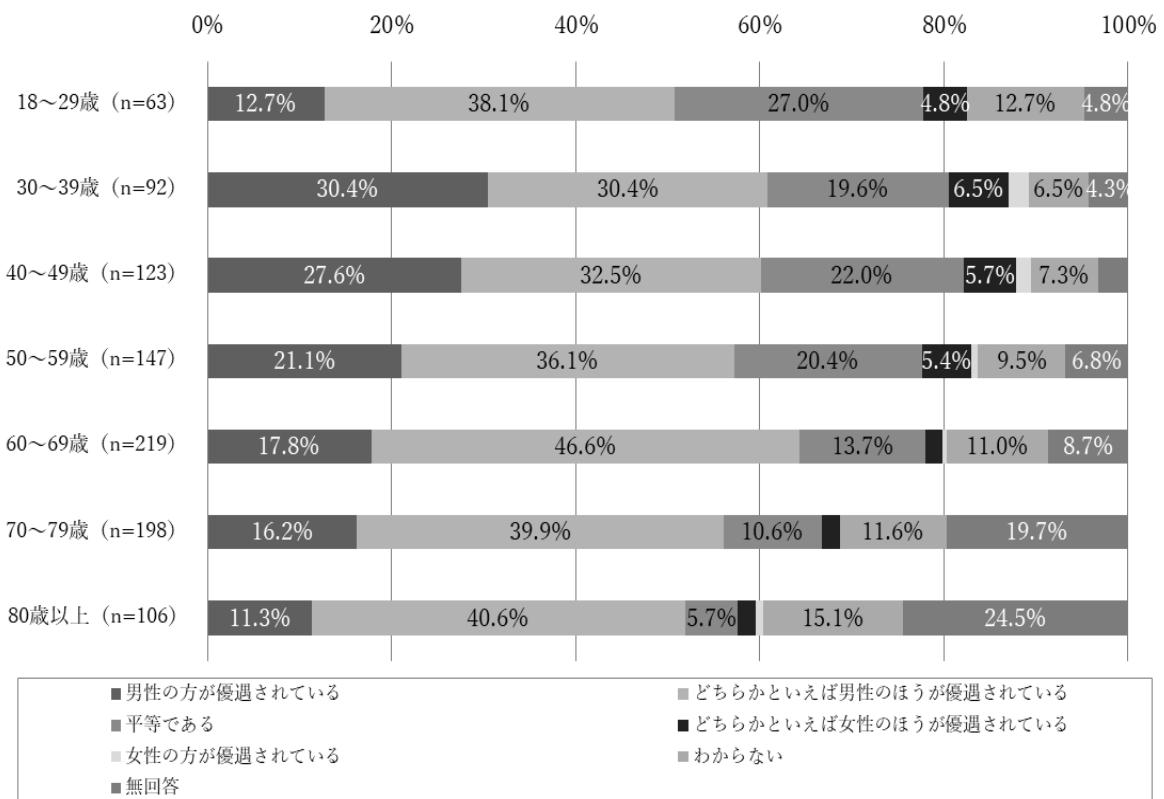
性別で比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も多くなっています。

「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性が16.7%であるのに対し、女性では22.9%となっています。



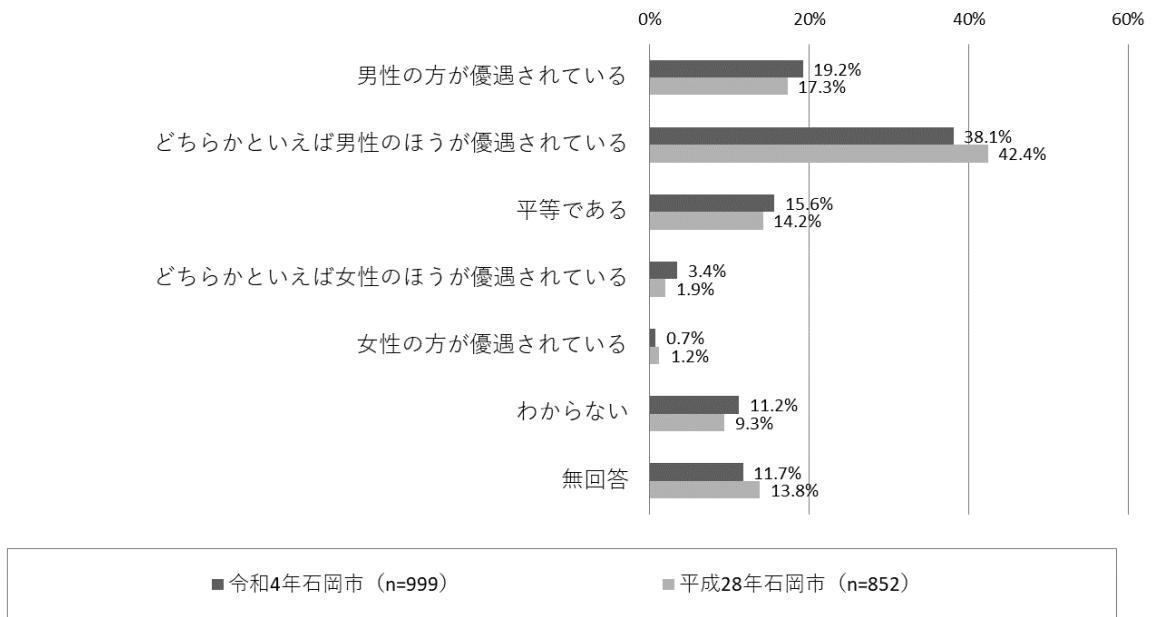
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、「平等である」と回答した割合は「18～29歳」が最も多く、年齢が高くなると「平等である」と回答した割合が低くなる傾向にあります。



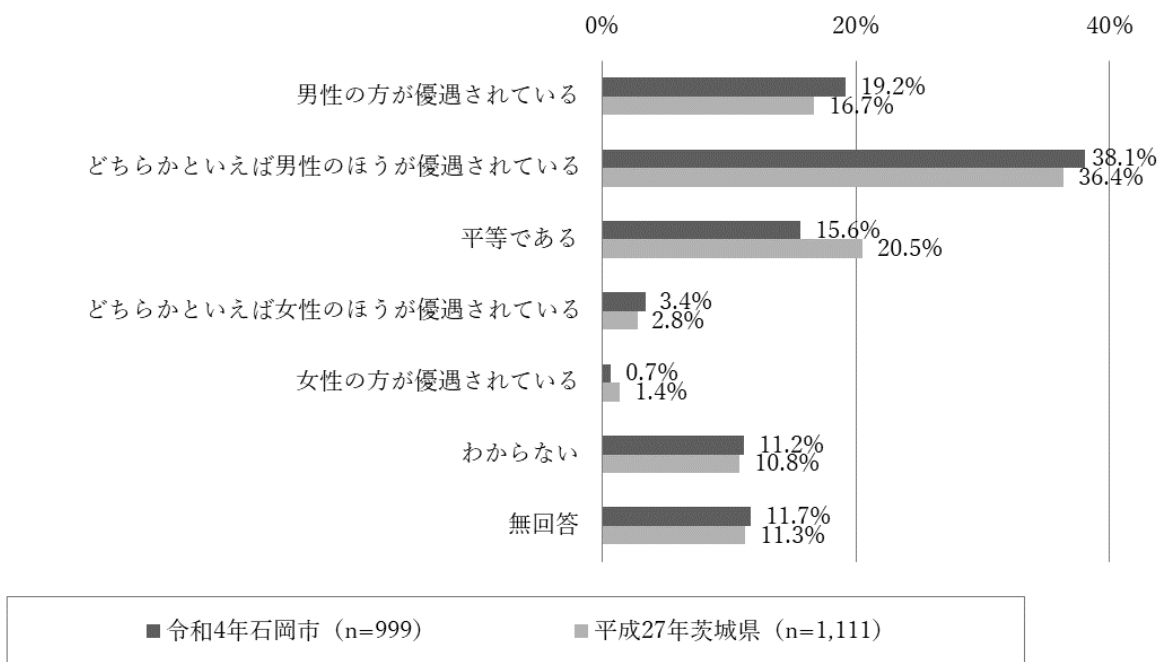
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「平等である」と回答した割合が1.4ポイント上昇しています。



【茨城県クロス集計】

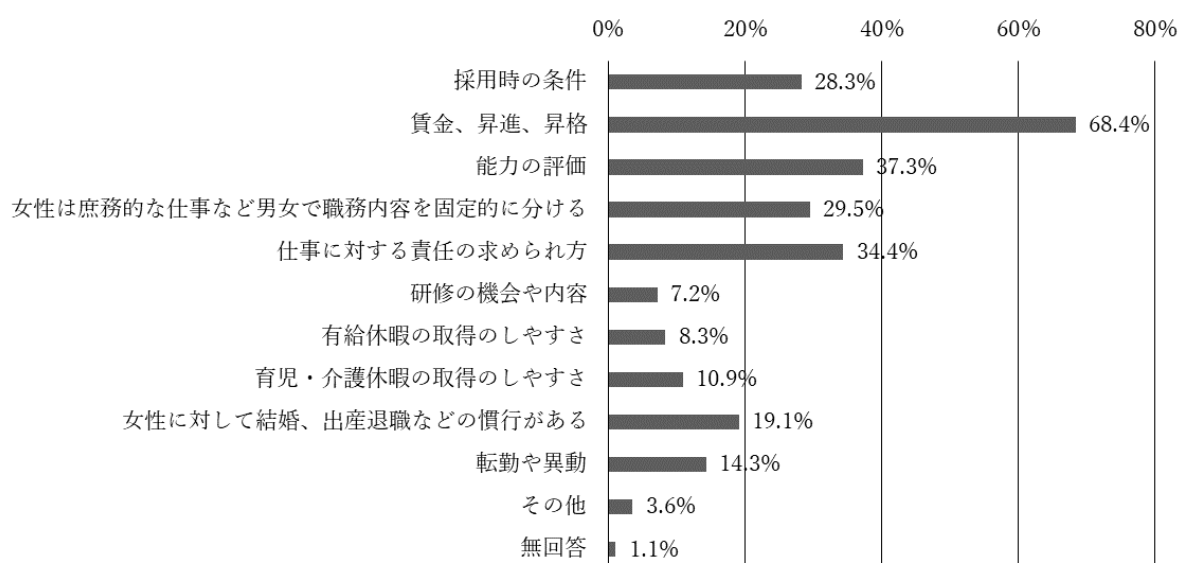
茨城県調査（H27）と比較すると、「平等である」と回答した割合が4.9ポイント低くなっています。



問9-2 問9-1で、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」とお答えいただいた方にお伺いします。その具体的な内容はどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)

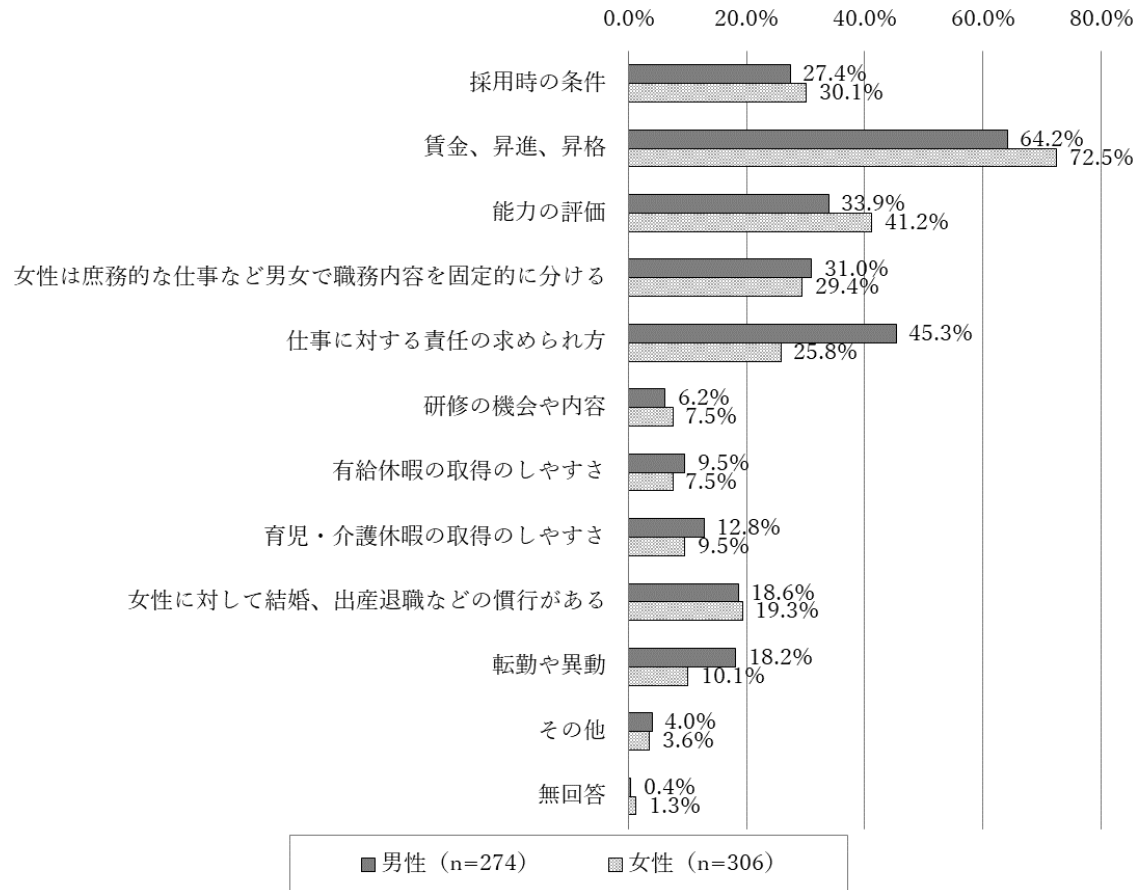
「賃金、昇進、昇格」が最も多く68.4%、次いで「能力の評価」が37.3%となっています。

項目	回答数	構成比
採用時の条件	174	28.3%
賃金、昇進、昇格	420	68.4%
能力の評価	229	37.3%
女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける	181	29.5%
仕事に対する責任の求められ方	211	34.4%
研修の機会や内容	44	7.2%
有給休暇の取得のしやすさ	51	8.3%
育児・介護休暇の取得のしやすさ	67	10.9%
女性に対して結婚、出産退職などの慣行がある	117	19.1%
転勤や異動	88	14.3%
その他	22	3.6%
無回答	7	1.1%
回答者数	614	



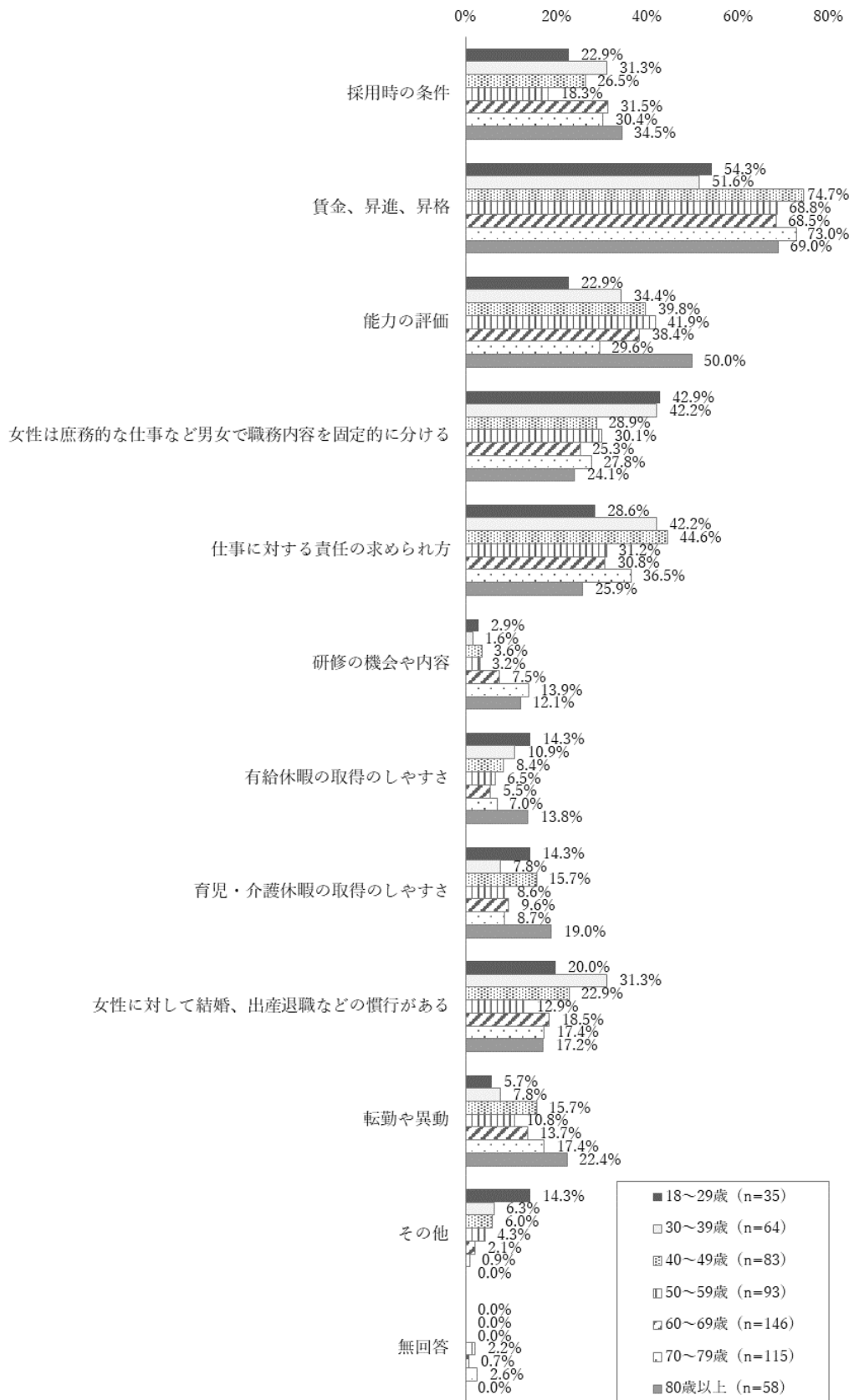
【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「賃金、昇進、昇格」が最も多くなっています。  
 次いで、男性では「仕事に対する責任の求められ方」が45.3%、女性では「能力の評価」  
 が41.2%となっています。



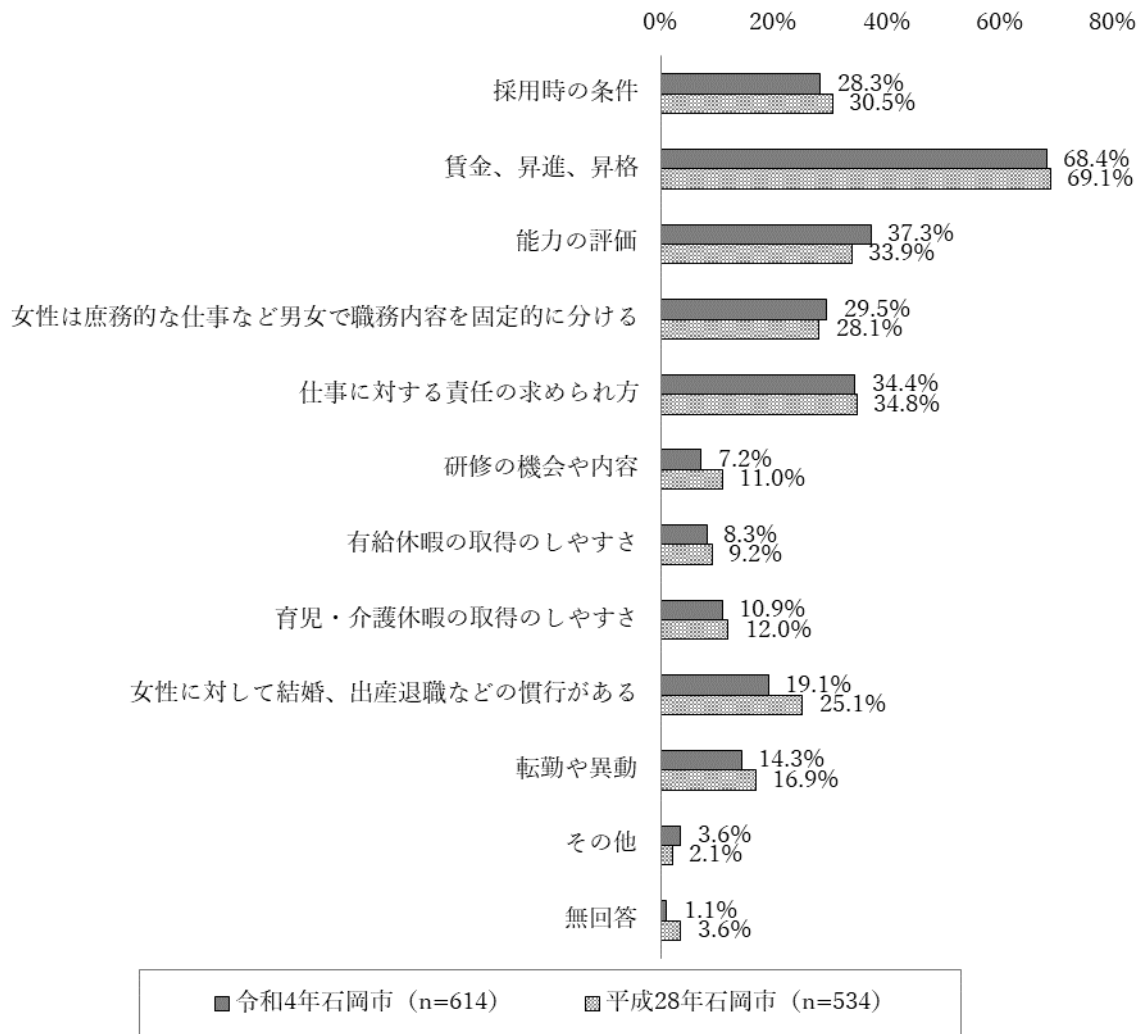
【年代クロス集計】

年代で比較すると、全ての年代で「賃金、昇進、昇格」が最も多くなっています。



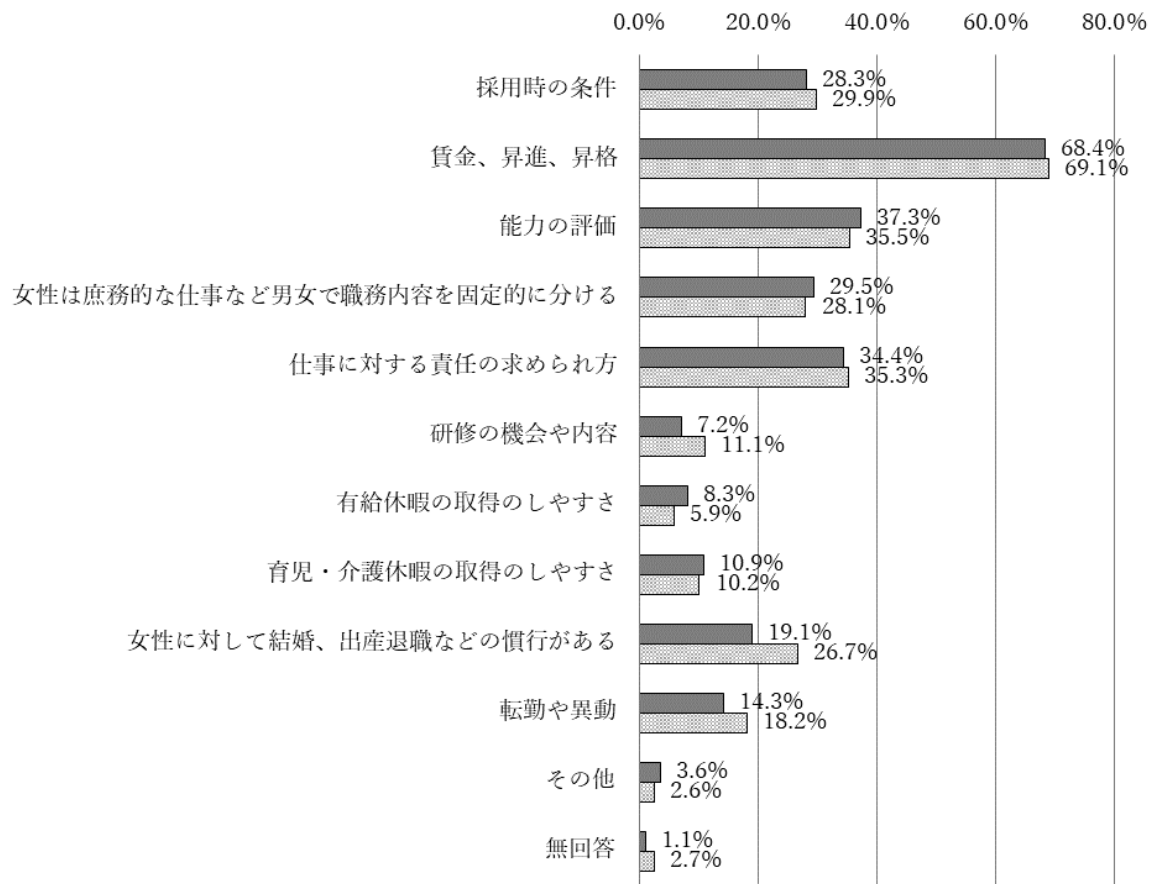
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、大きな変化はありません。



【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、大きな違いはありません。



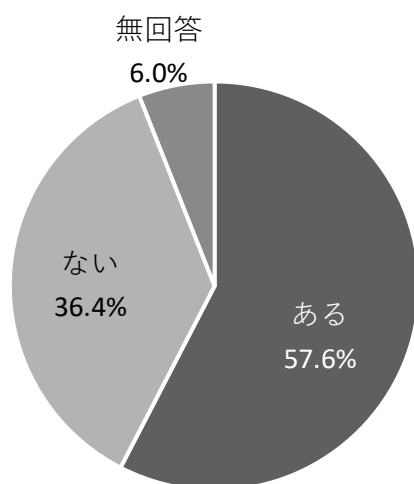
■ 令和4年石岡市 (n=614)      ■ 平成27年茨城県 (n=729)



問 10-1 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(○は1つ)

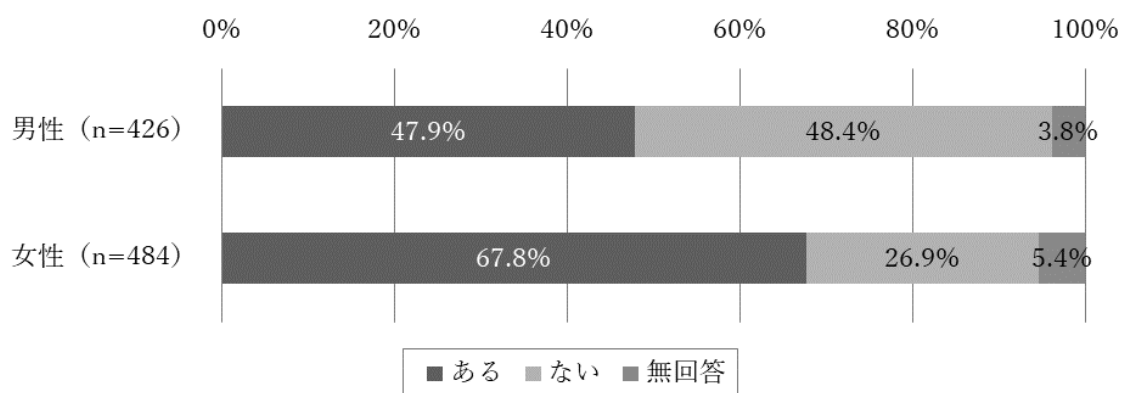
「ある」が57.6%となっています。

項目	回答数	構成比
ある	575	57.6%
ない	364	36.4%
無回答	60	6.0%
合計	999	100.0%



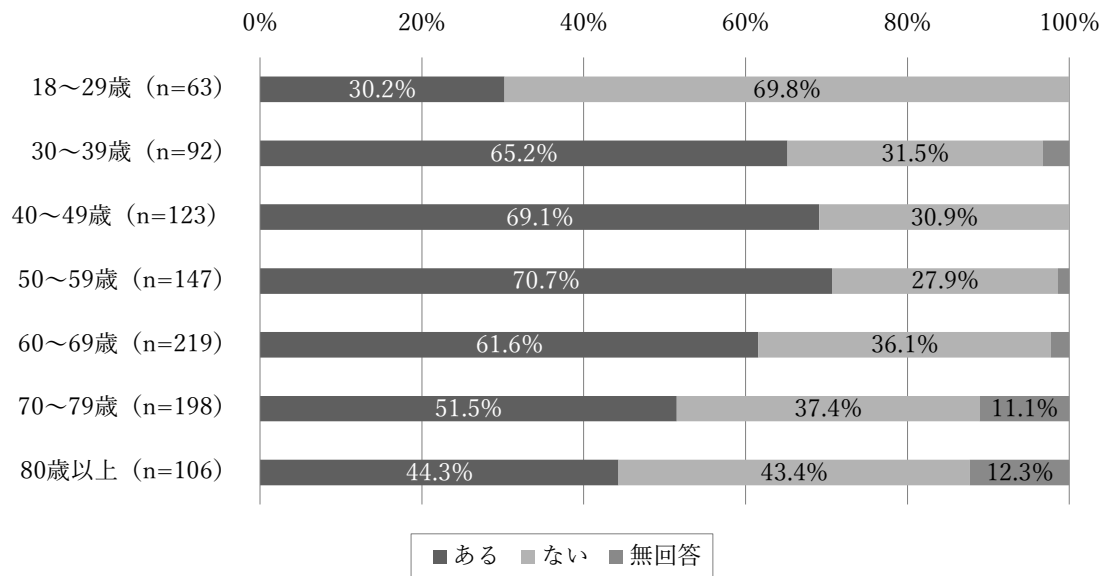
【性別クロス集計】

性別で比較すると、「ある」と答えた割合は、男性では47.9%、女性では67.8%となっています。



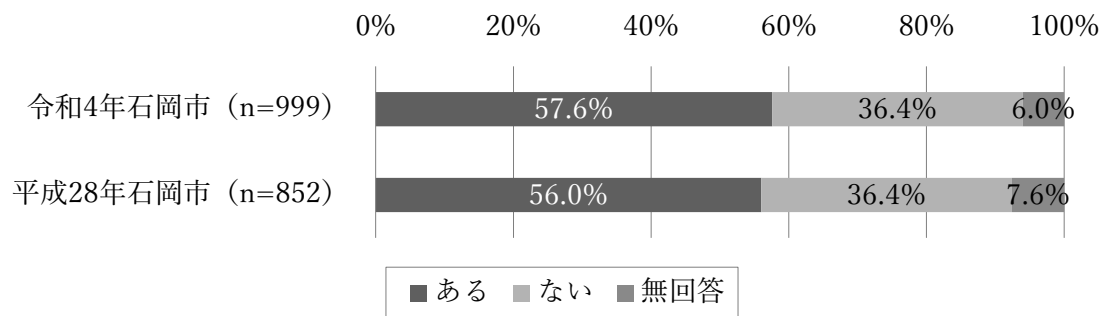
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、「ある」と回答した割合が最も多いのは、「50～59歳」の70.7%となっています。



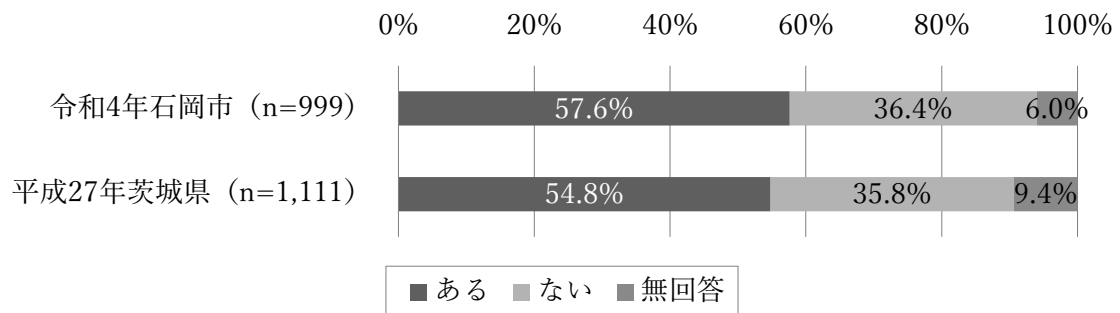
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、大きな変化はありません。



### 【茨城県クロス集計】

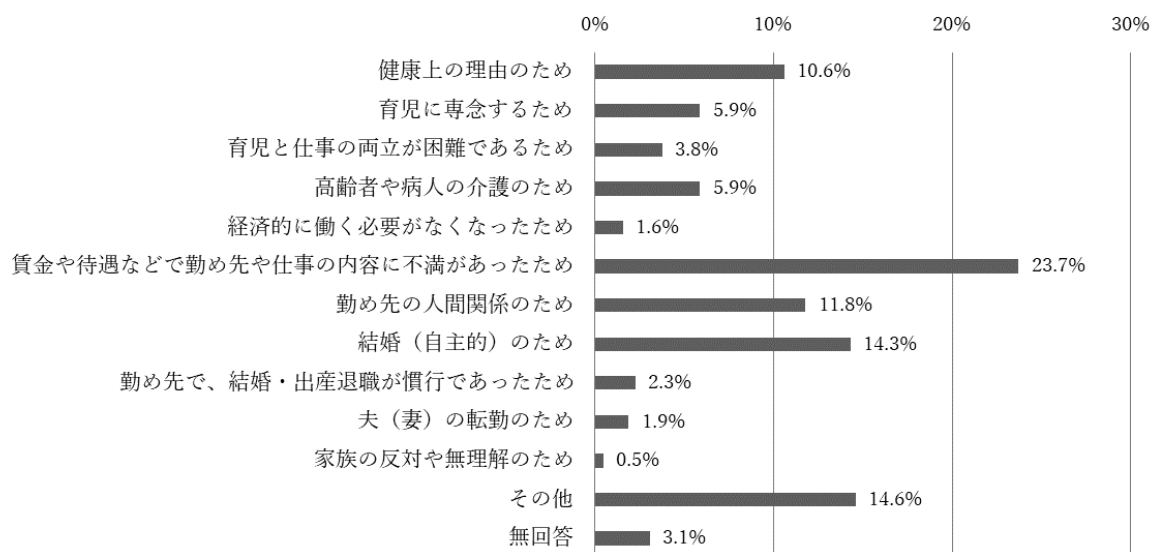
茨城県調査（H27）と比較すると、大きな違いはありません。



問10-2 問10-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。仕事を辞めた主な理由は何ですか。（○は1つ）

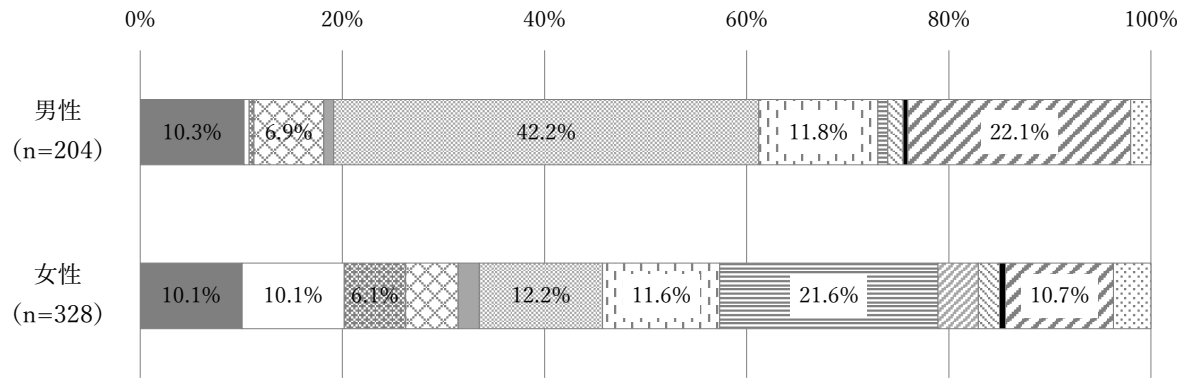
「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が最も多く23.7%、次いで「その他」が14.6%、「結婚（自主的）のため」が14.3%となっています。

項目	回答数	構成比
健康上の理由のため	61	10.6%
育児に専念するため	34	5.9%
育児と仕事の両立が困難であるため	22	3.8%
高齢者や病人の介護のため	34	5.9%
経済的に働く必要がなくなったため	9	1.6%
賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため	136	23.7%
勤め先の人間関係のため	68	11.8%
結婚（自主的）のため	82	14.3%
勤め先で、結婚・出産退職が慣行であったため	13	2.3%
夫（妻）の転勤のため	11	1.9%
家族の反対や無理解のため	3	0.5%
その他	84	14.6%
無回答	18	3.1%
合計	575	100.0%



【性別クロス集計】

性別で比較すると、男性では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が最も多く 42.2%、次いで「その他」が 22.1%、「勤め先の人間関係のため」が 11.8%となっています。女性では「結婚（自主的）のため」が最も多く 21.6%、次いで「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が 12.2%、「勤め先の人間関係のため」が 11.6%となっています。

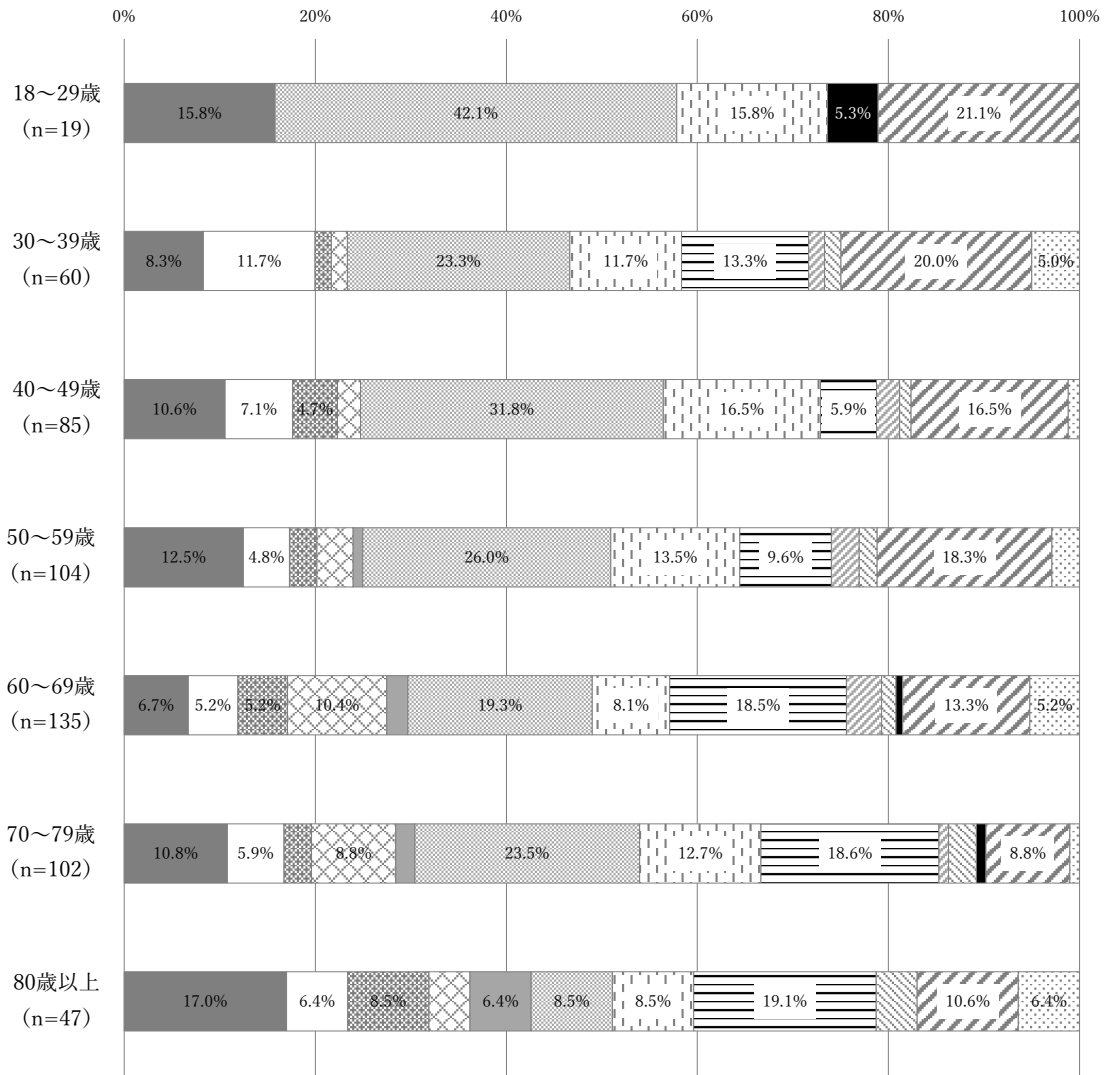


- |                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| ■ 健康上の理由のため             | □ 育児に専念するため                  |
| ⊗ 育児と仕事の両立が困難であるため      | □ 高齢者や病人の介護のため               |
| ■ 経済的に働く必要がなくなったため      | ⊗ 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため |
| □ 勤め先の人間関係のため           | ≡ 結婚（自主的）のため                 |
| ⊗ 勤め先で、結婚・出産退職が慣行であったため | ⊗ 夫（妻）の転勤のため                 |
| ■ 家族の反対や無理解のため          | ⊗ その他                        |
| □ 無回答                   |                              |

【年代クロス集計】

年代で比較すると、「80歳以上」以外の年代では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が最も多く、特に「18～29歳」では約4割を占めています。

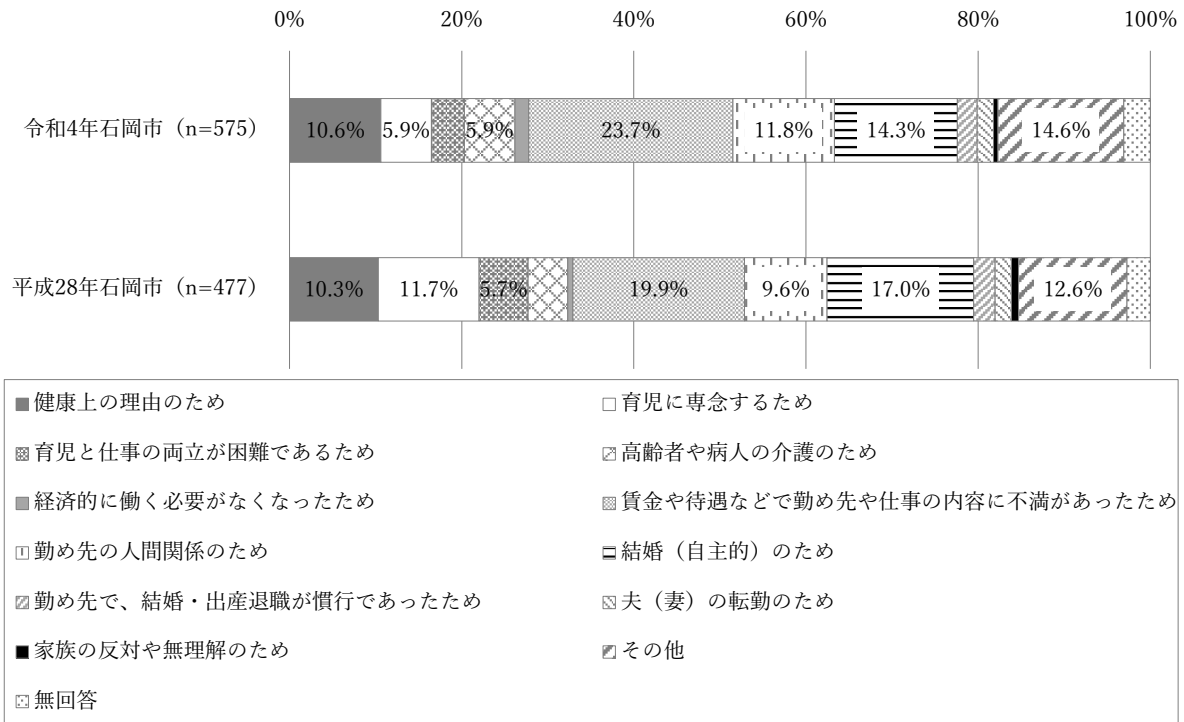
また、全体で3番目に多かった「結婚（自主的）のため」について、「18～29歳」では0.0%となっています。



- 健康上の理由のため
- 育児に専念するため
- ▨ 育児と仕事の両立が困難であるため
- ▨ 高齢者や病人の介護のため
- 経済的に働く必要がなくなったため
- ▨ 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため
- 勤め先の人間関係のため
- ▨ 結婚（自主的）のため
- ▨ 勤め先で、結婚・出産退職が慣行であったため
- ▨ 夫（妻）の転勤のため
- 家族の反対や無理解のため
- その他
- 無回答

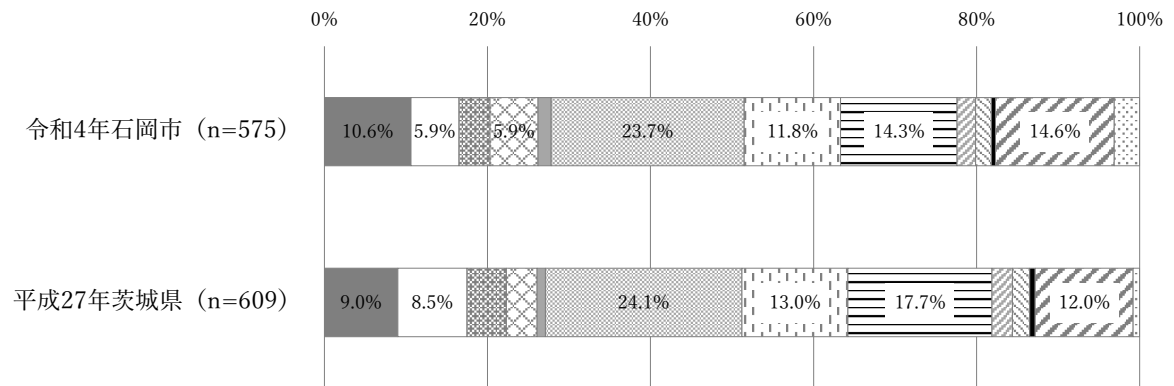
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が3.8ポイント上昇しています。また、「育児に専念するため」が5.8ポイント、「結婚（自主的）のため」が2.7ポイント減少しています。



【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、「結婚（自主的）のため」が3.4ポイント低くなっています。

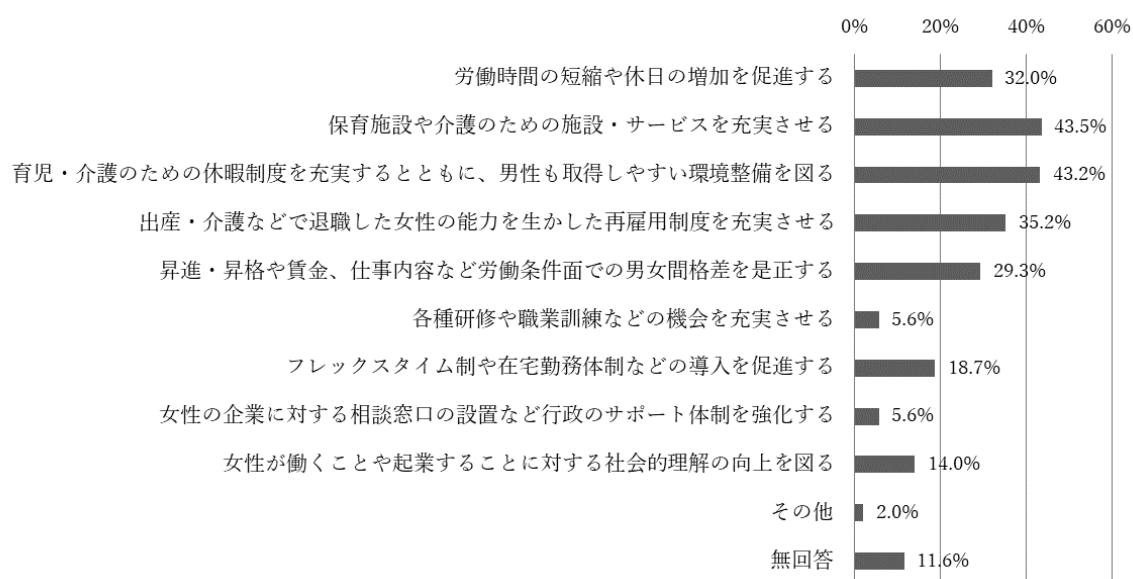


- 健康上の理由のため
- ▨ 育児と仕事の両立が困難であるため
- 経済的に働く必要がなくなったため
- 勤め先の人間関係のため
- ▨ 勤め先で、結婚・出産退職が慣行であったため
- 家族の反対や無理解のため
- 無回答
- 育児に専念するため
- ▨ 高齢者や病人の介護のため
- ▨ 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため
- 結婚（自主的）のため
- ▨ 夫（妻）の転勤のため
- ▨ その他

問 11 女性が働きやすい環境にするためには主にどんなことが必要だと思いますか。

「保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる」が最も多く 43.5%、次いで「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」が 43.2%となっています。

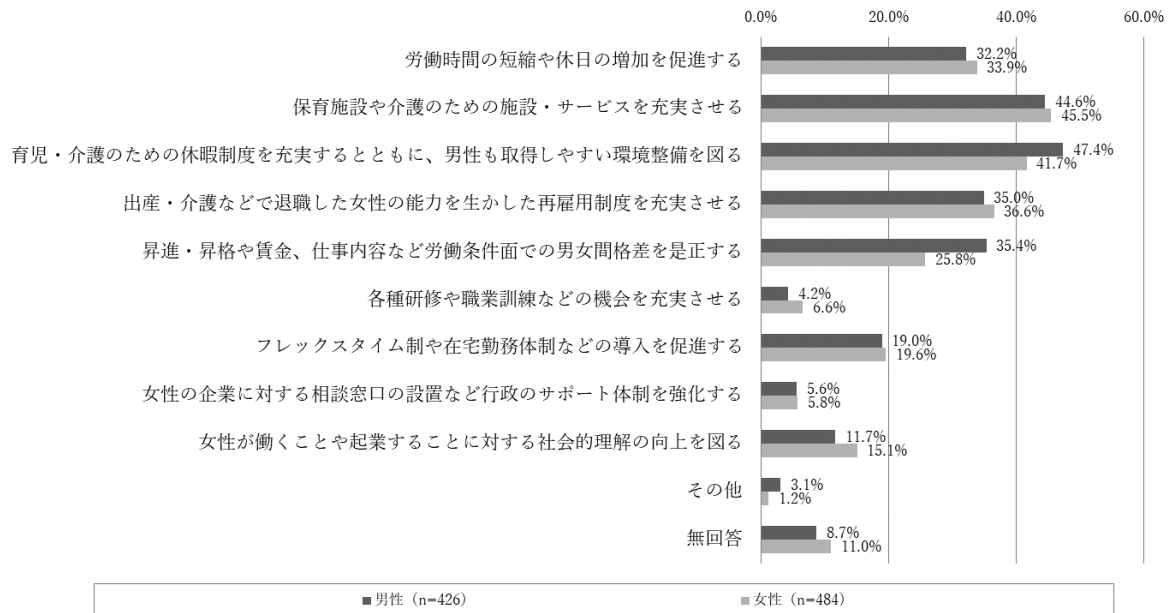
項目	回答数	構成比
労働時間の短縮や休日の増加を促進する	320	32.0%
保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる	435	43.5%
育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	432	43.2%
出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実させる	352	35.2%
昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する	293	29.3%
各種研修や職業訓練などの機会を充実させる	56	5.6%
フレックスタイム制や在宅勤務体制などの導入を促進する	187	18.7%
女性の企業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する	56	5.6%
女性が働くことや起業することに対する社会的理解の向上を図る	140	14.0%
その他	20	2.0%
無回答	116	11.6%
回答者数	999	





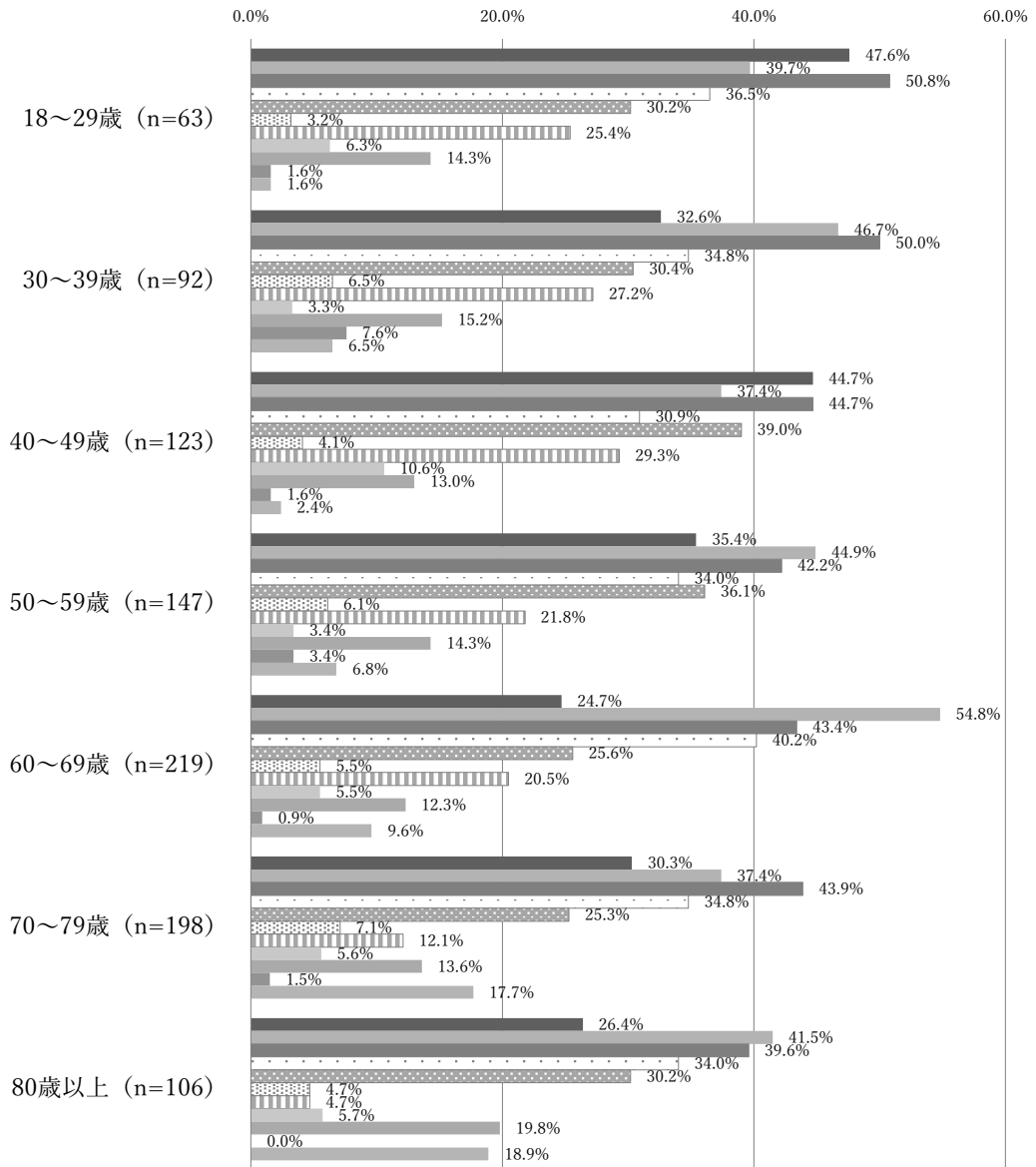
### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男性では「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」が最も多く47.4%、次いで「保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる」が44.6%となっています。女性では「保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる」が最も多く45.5%、次いで「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」が41.7%となっています。



【年代クロス集計】

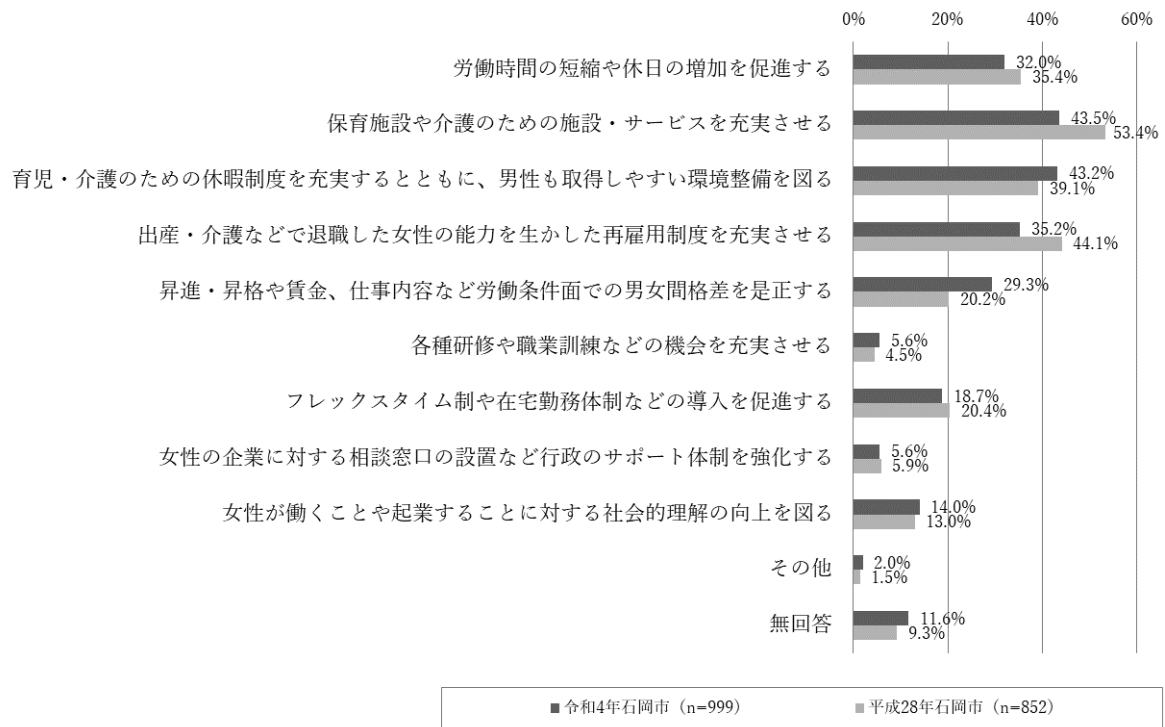
年代で比較すると、「18～29歳」「30～39歳」「70～79歳」では「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」が最も多く、「50～59歳」「60～69歳」「80歳以上」では「保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる」が最も多くなっています。「40～49歳」では「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」と「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」が最も多くなっています。



- 労働時間の短縮や休日の増加を促進する
- 保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる
- 育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る
- 出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実させる
- 昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する
- 各種研修や職業訓練などの機会を充実させる
- フレックスタイム制や在宅勤務体制などの導入を促進する
- 女性の企業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する
- 女性が働くことや起業することに対する社会的理解の向上を図る
- その他
- 無回答

【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる」が9.9ポイント、「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実させる」が8.9ポイント減少し、「昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する」が9.1ポイント上昇しています。

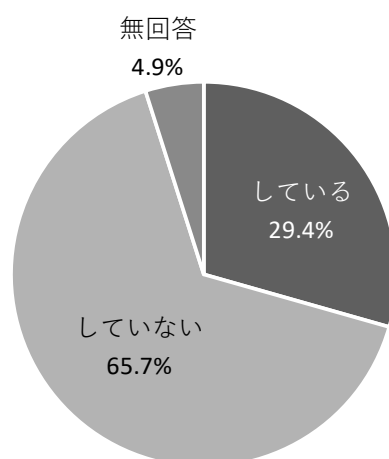


## 5 【地域活動・社会参画について】

問 12-1 あなたは現在、町内会やボランティアなどの地域活動はしていますか。

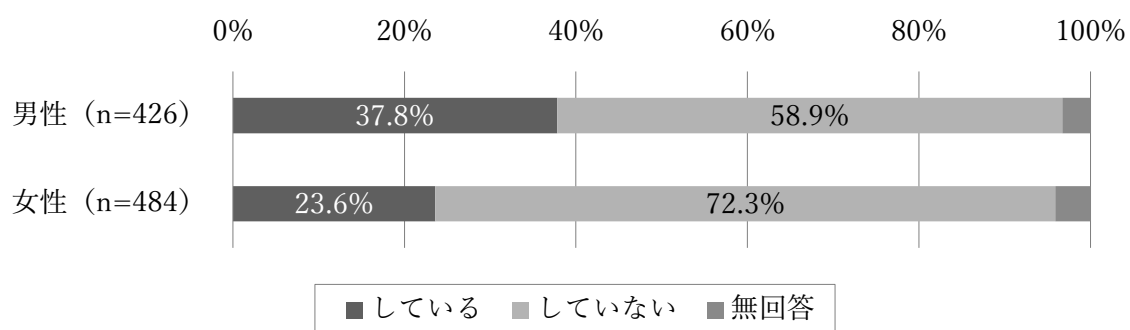
「していない」が多く、65.7%となっています。

項目	回答数	構成比
している	294	29.4%
していない	656	65.7%
無回答	49	4.9%
回答者数	999	100.0%



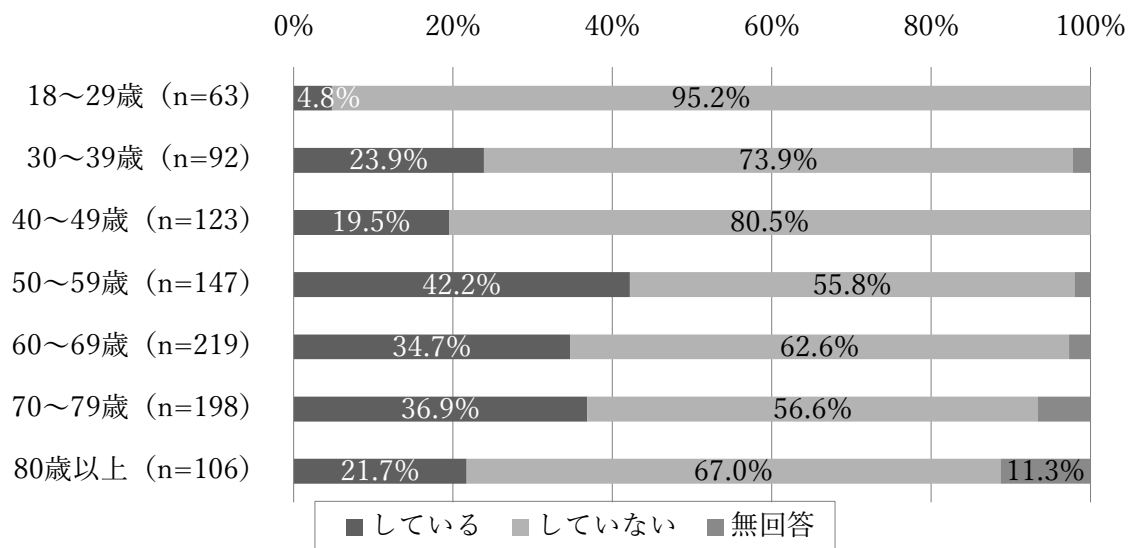
### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、「している」と回答した割合は、男性では37.8%、女性では23.6%となっています。



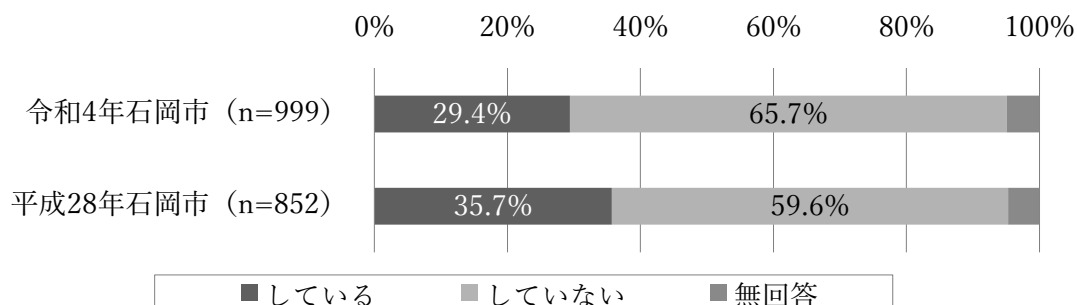
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、「している」と答えた割合が最も多いのは「50～59歳」で42.2%、最も少ないのは「18～29歳」の4.8%となっています。



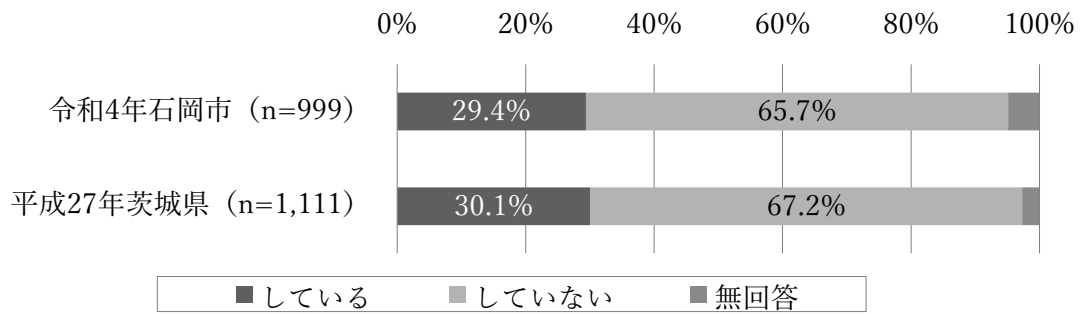
### 【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「している」と回答した割合は6.3ポイント減少しています。



### 【茨城県クロス集計】

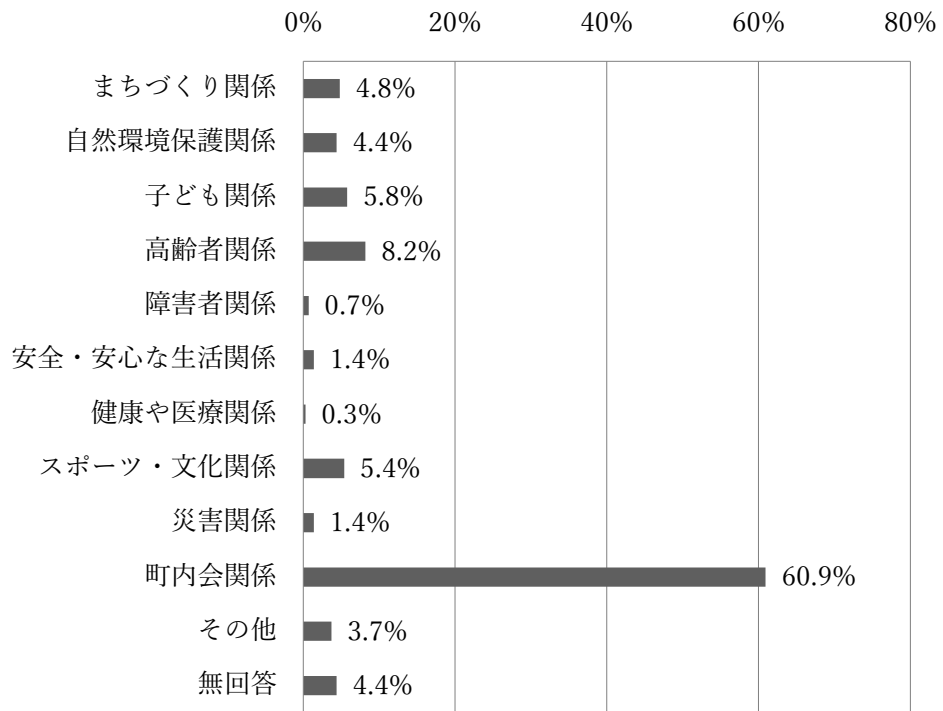
茨城県調査（H27）と比較すると、大きな違いはありません。



問12-2 問12-1で、1の「している」とお答えいただいた方にお伺いします。それほどのような活動内容（分野）ですか。（複数回答可）

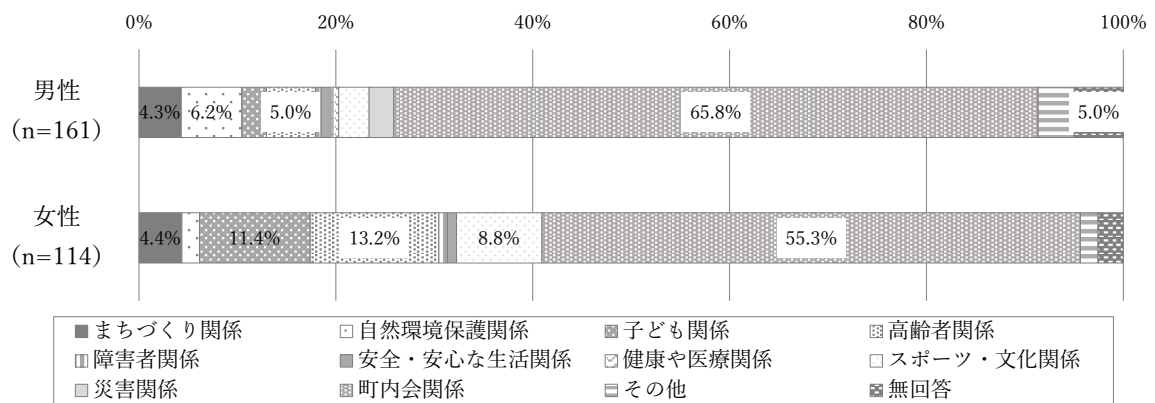
「町内会関係」が最も多く60.9%、次いで「高齢者関係」が8.2%となっています。

項目	回答数	構成比
まちづくり関係	14	4.8%
自然環境保護関係	13	4.4%
子ども関係	17	5.8%
高齢者関係	24	8.2%
障害者関係	2	0.7%
安全・安心な生活関係	4	1.4%
健康や医療関係	1	0.3%
スポーツ・文化関係	16	5.4%
災害関係	4	1.4%
町内会関係	179	60.9%
その他	11	3.7%
無回答	13	4.4%
回答者数	294	



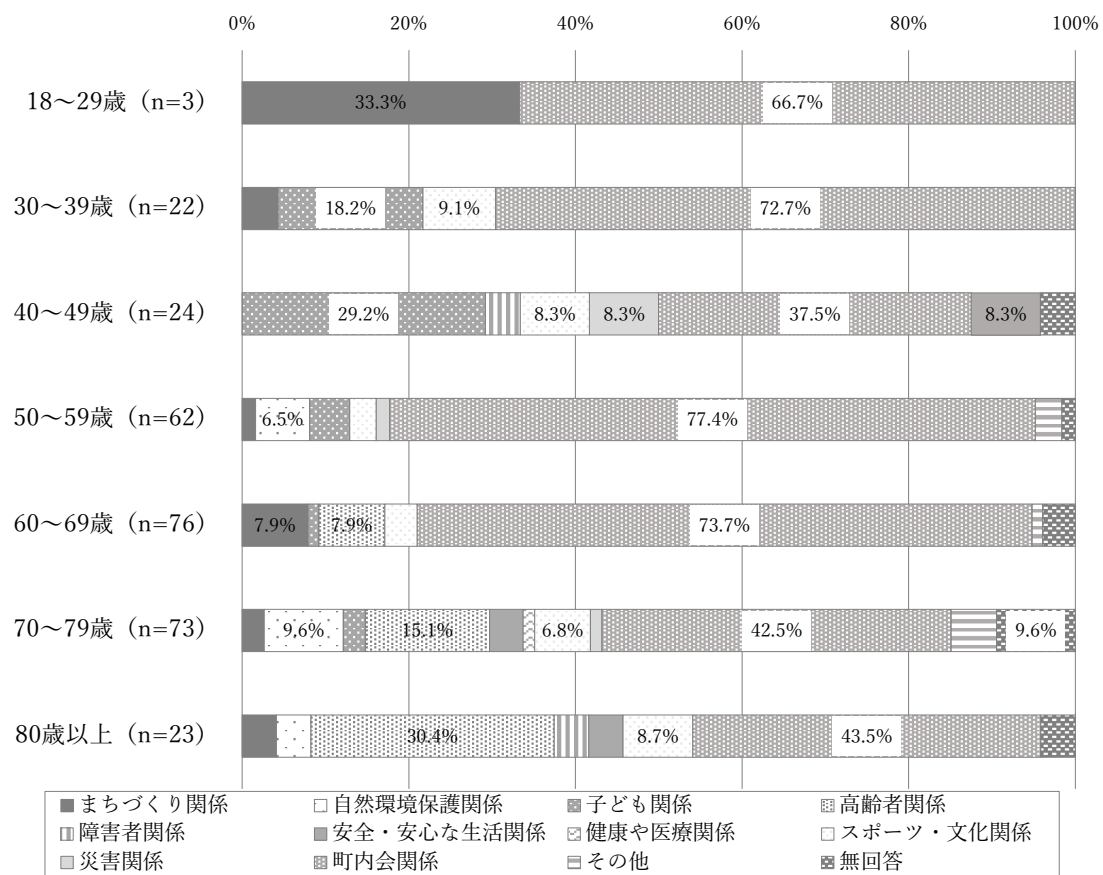
#### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「町内会関係」が最も多くなっています。次いで、男性では「自然環境保護関係」、女性では「高齢者関係」が多くなっています。



#### 【年代クロス集計】

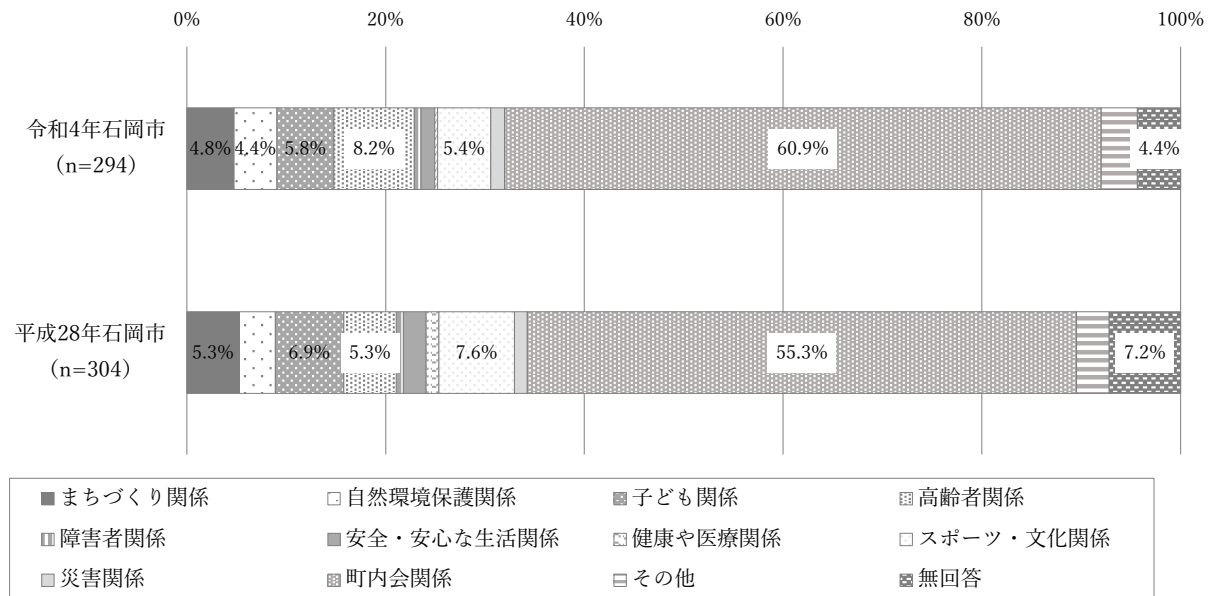
年代で比較すると、全ての年代で「町内会関係」が最も多くなっています。次いで、「18～29歳」では「まちづくり関係」、「30～39歳」「40～49歳」では「子供関係」、「50～59歳」では「自然環境保護関係」、「60～69歳」では「まちづくり関係」「高齢者関係」、「70～79歳」「80歳以上」では「高齢者関係」が多くなっています。





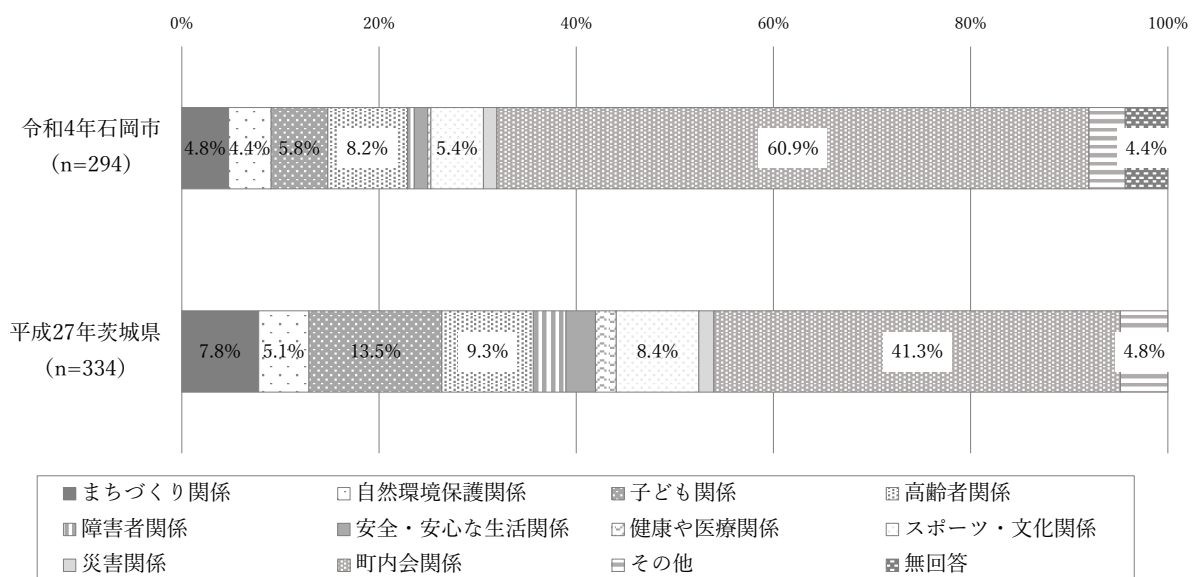
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「町内会関係」と回答した割合が5.6ポイント上昇しています。



【茨城県クロス集計】

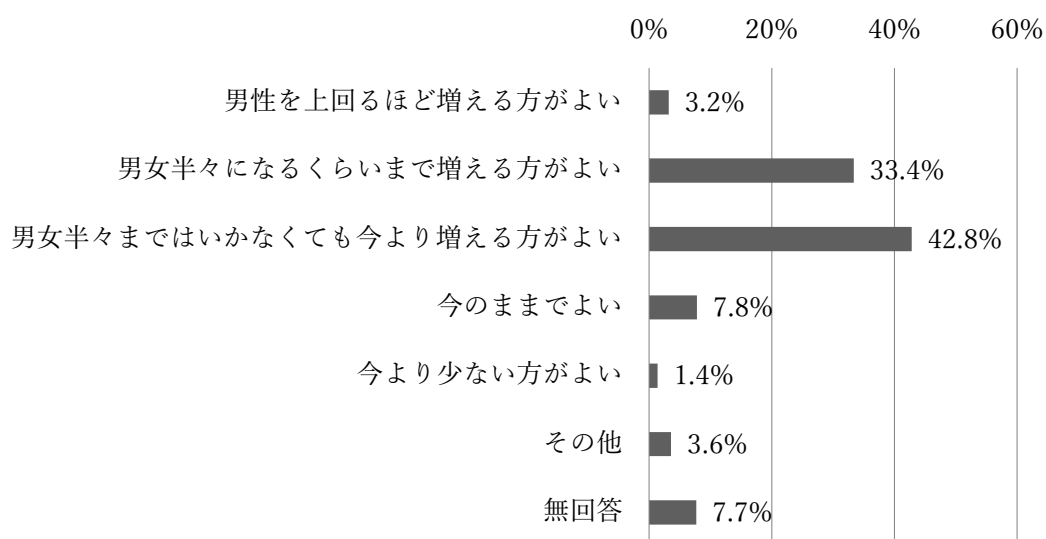
茨城県調査（H27）と比較すると、「町内会関係」と回答した割合が19.6ポイント高くなっています。



問 13 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたは  
 どのように思いますか。（○は1つ）

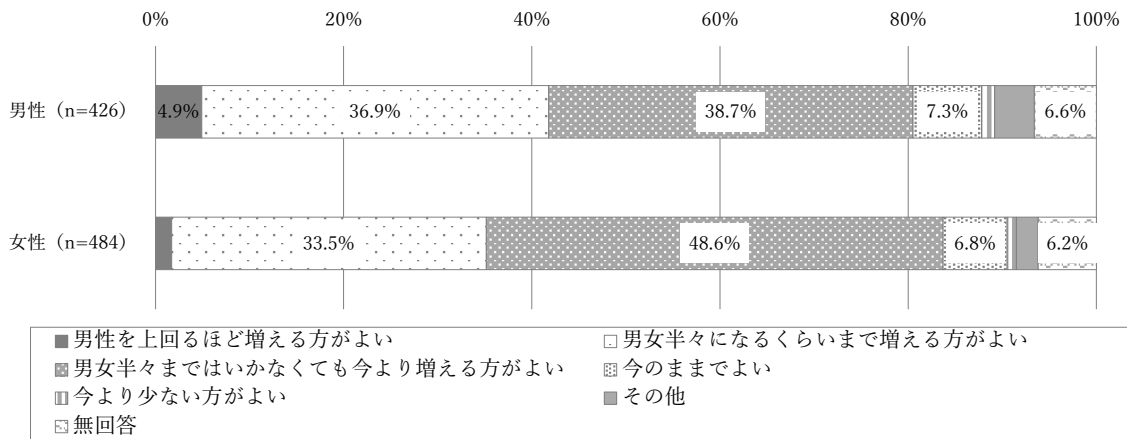
「男女半々まではいかなくても今より増える方がよい」が最も多く 42.8%、次いで「男女  
 半々になるくらいまで増える方がよい」が 33.4%となっています。

項目	回答数	構成比
男性を上回るほど増える方がよい	32	3.2%
男女半々になるくらいまで増える方がよい	334	33.4%
男女半々まではいかなくても今より増える方がよい	428	42.8%
今のままでよい	78	7.8%
今より少ない方がよい	14	1.4%
その他	36	3.6%
無回答	77	7.7%
合計	999	100.0%



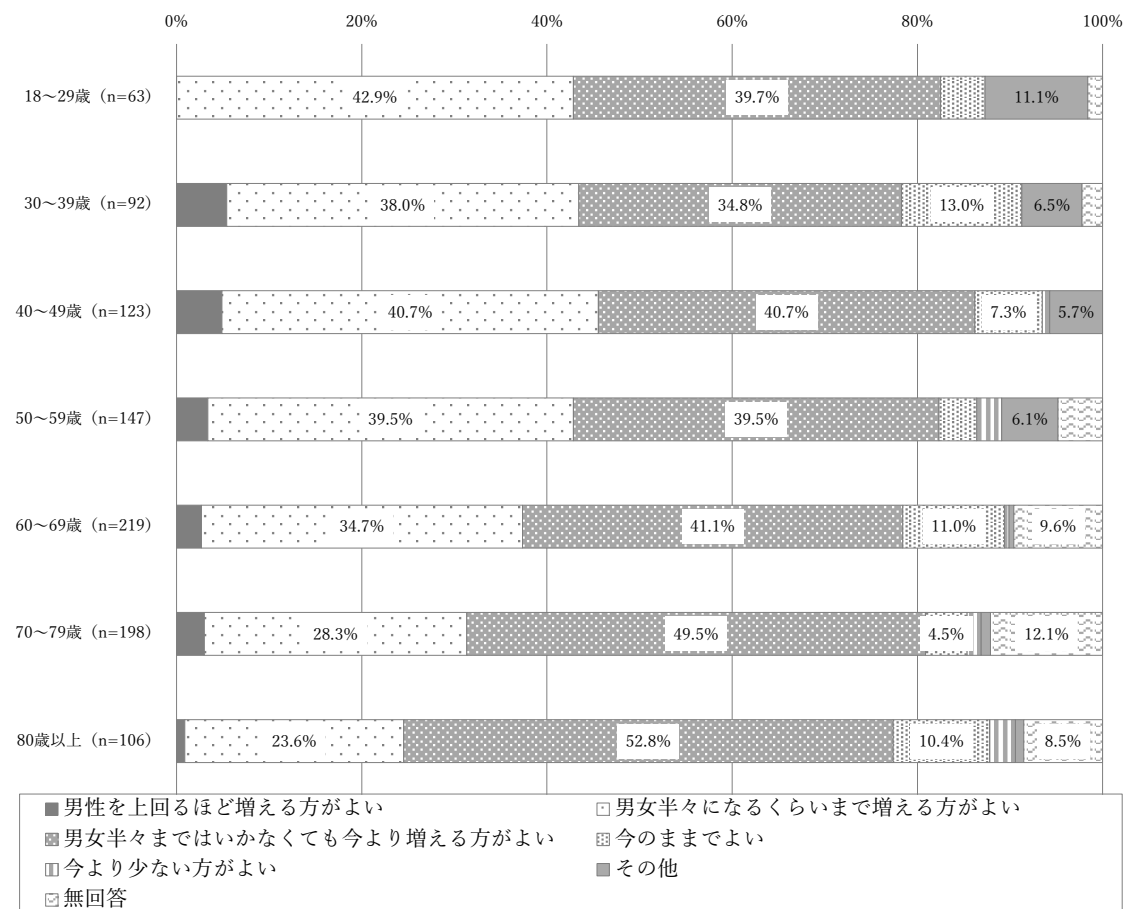
### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「男女半々まではいかなくても今より増える方がよい」が最も多く、男性では38.7%、女性では48.6%となっています。



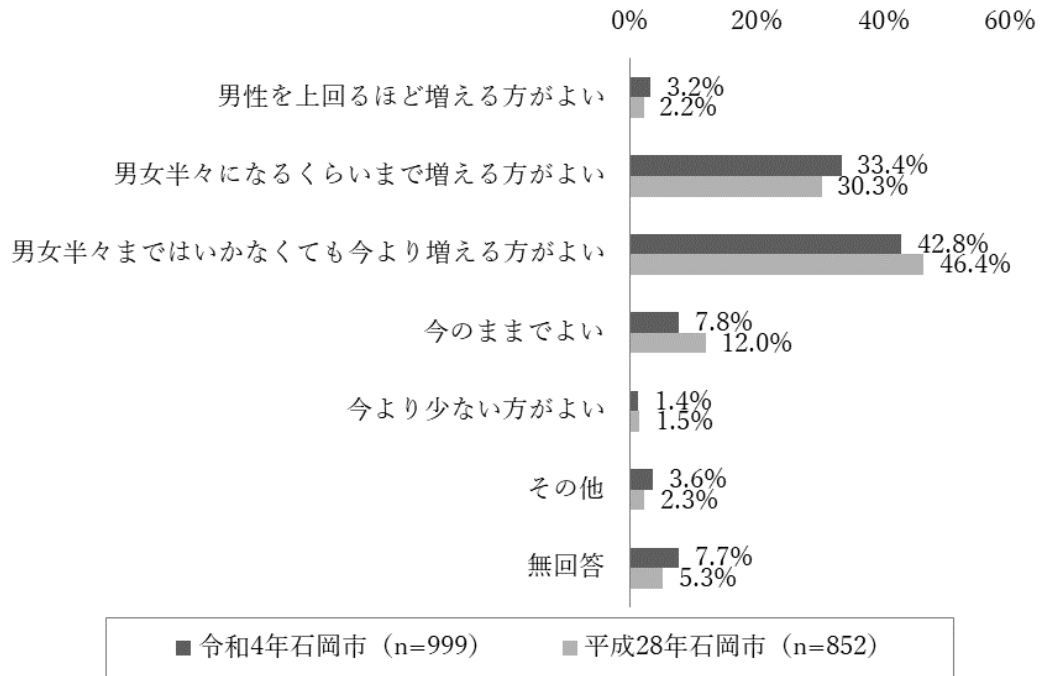
### 【年代クロス集計】

年代で比較すると、若い年代で「男女半々になるくらいまで増える方がよい」と回答した割合が高い傾向にあり、高い年代で「男女半々まではいかなくても今より増える方がよい」と回答した割合が高い傾向にあります。



【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が3.1ポイント上昇しています。

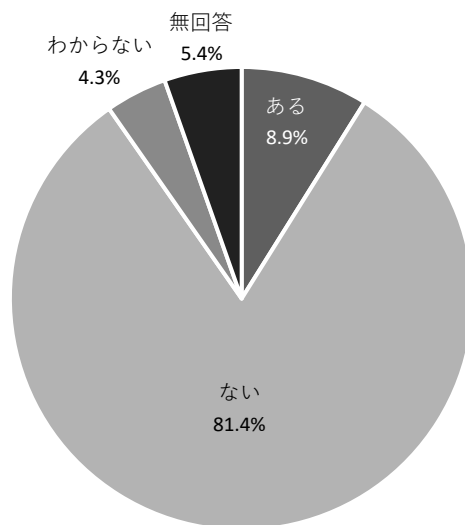


## 6 【ドメスティック・バイオレンス（元配偶者も含む。）や恋人から暴力（身体・精神）を受けた経験】

問 14-1 配偶者（元配偶者も含む。）や恋人から暴力（身体・精神）を受けた経験はありますか。（○は1つ）

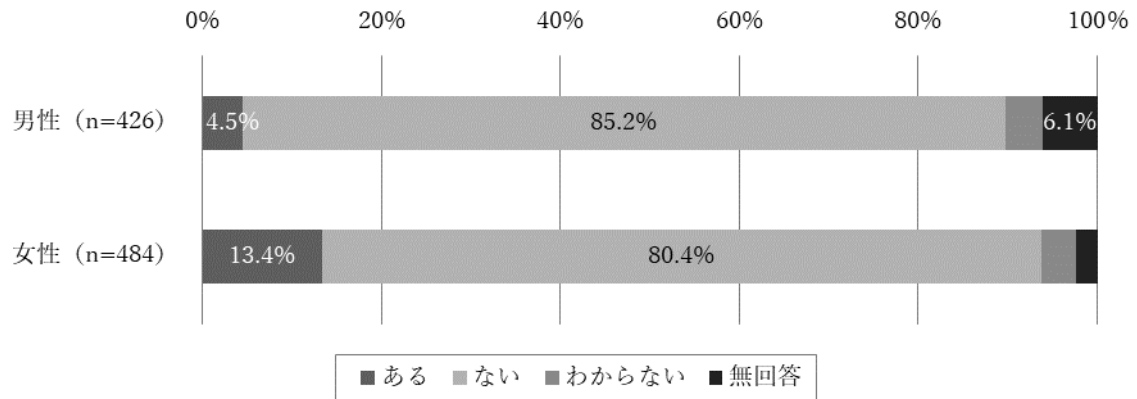
「ある」が8.9%、「ない」が81.4%となっています。

項目	回答数	構成比
ある	89	8.9%
ない	813	81.4%
わからない	43	4.3%
無回答	54	5.4%
回答者数	999	100.0%



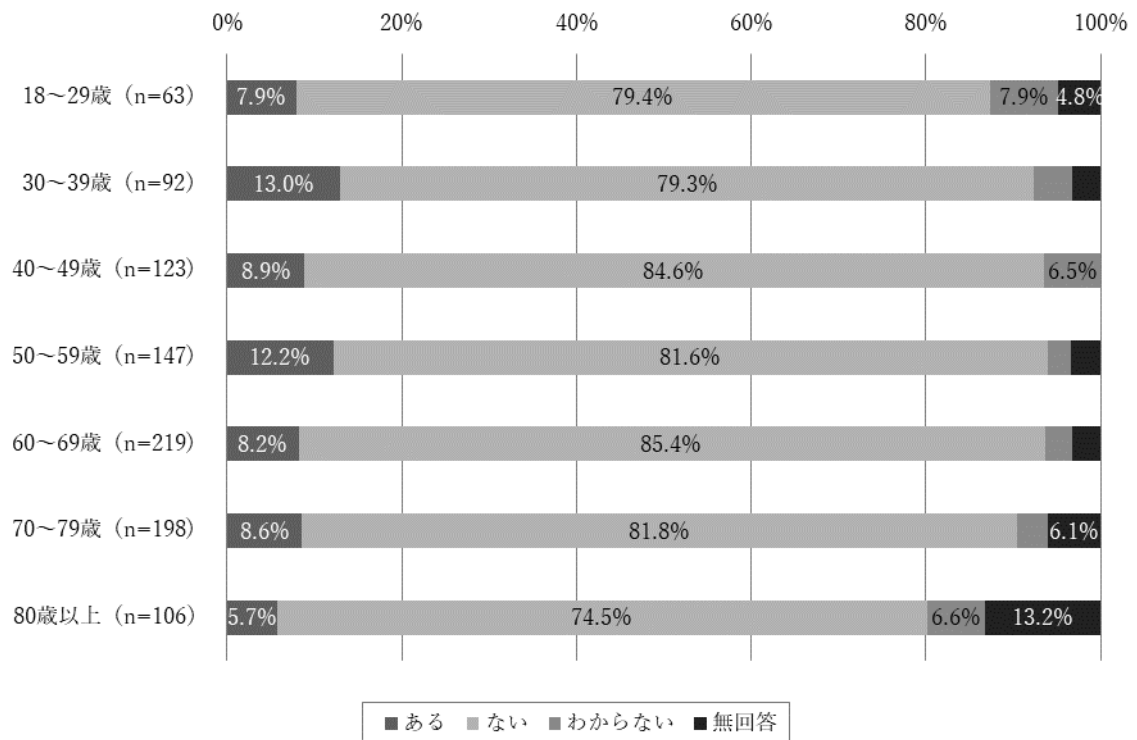
【性別クロス集計】

性別で比較すると、「ある」と回答した割合は、男性では 4.5%、女性では 13.4%となっています。



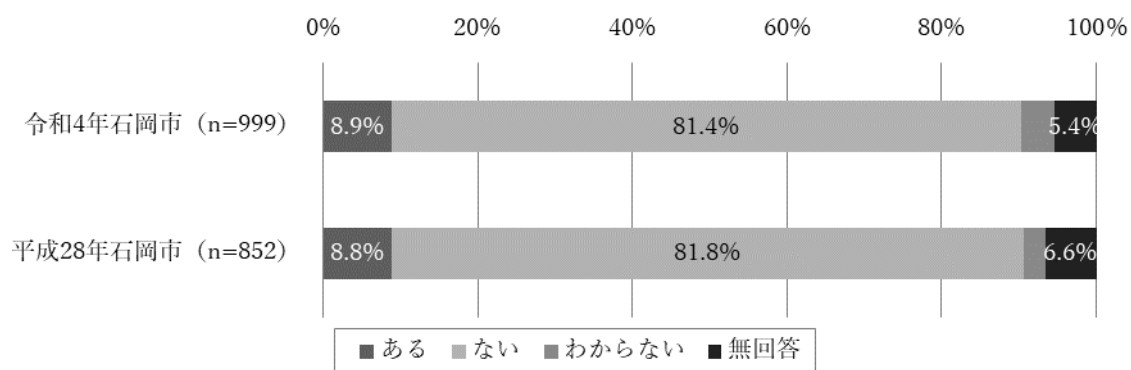
【年代クロス集計】

年代で比較すると、「ある」と回答した割合が最も高いのは「30～39歳」で 13.0%、次いで「50～59歳」が 12.2%となっています。



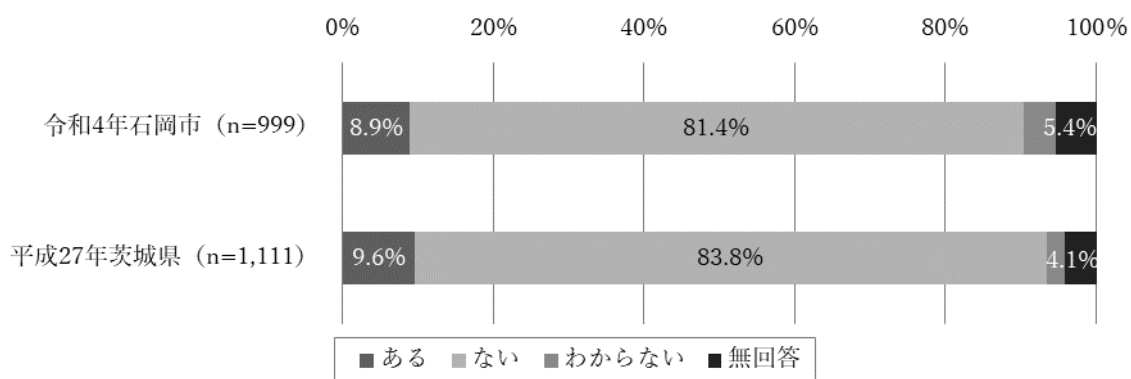
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、大きな変化はありません。



【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、大きな違いはありません。

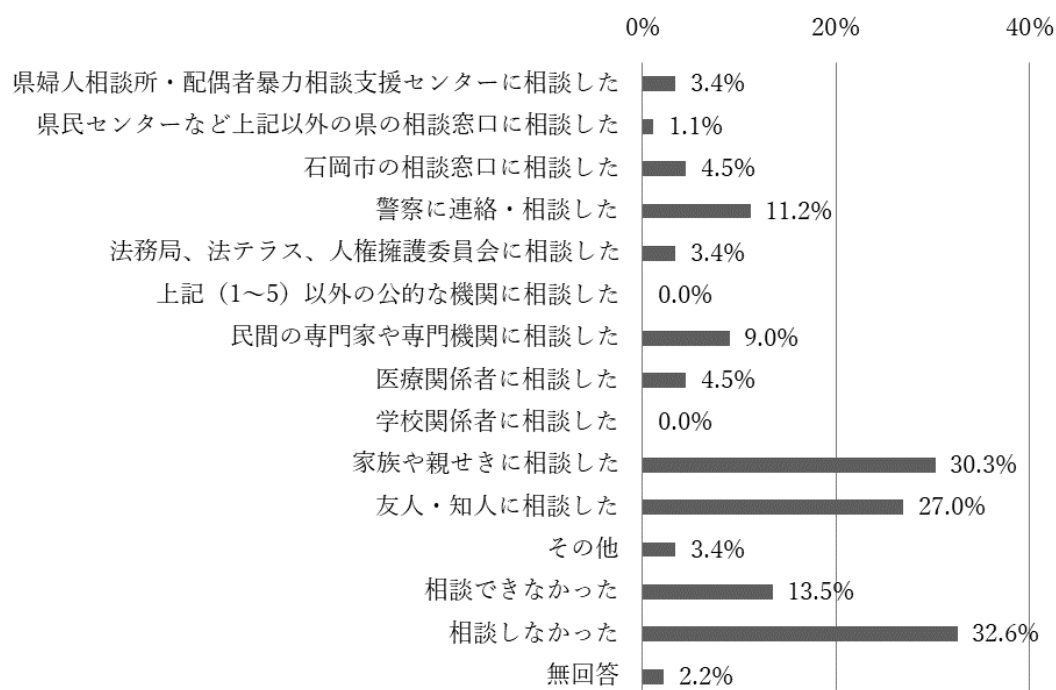


問 14-2 問 14-1 で、1 の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(○はいくつでも)

「相談しなかった」が最も多く、「相談できなかった」と合わせると 46.1%となっています。次いで、「家族や親せきに相談した」が 30.3%、「友人・知人に相談した」が 27.0%となっています。

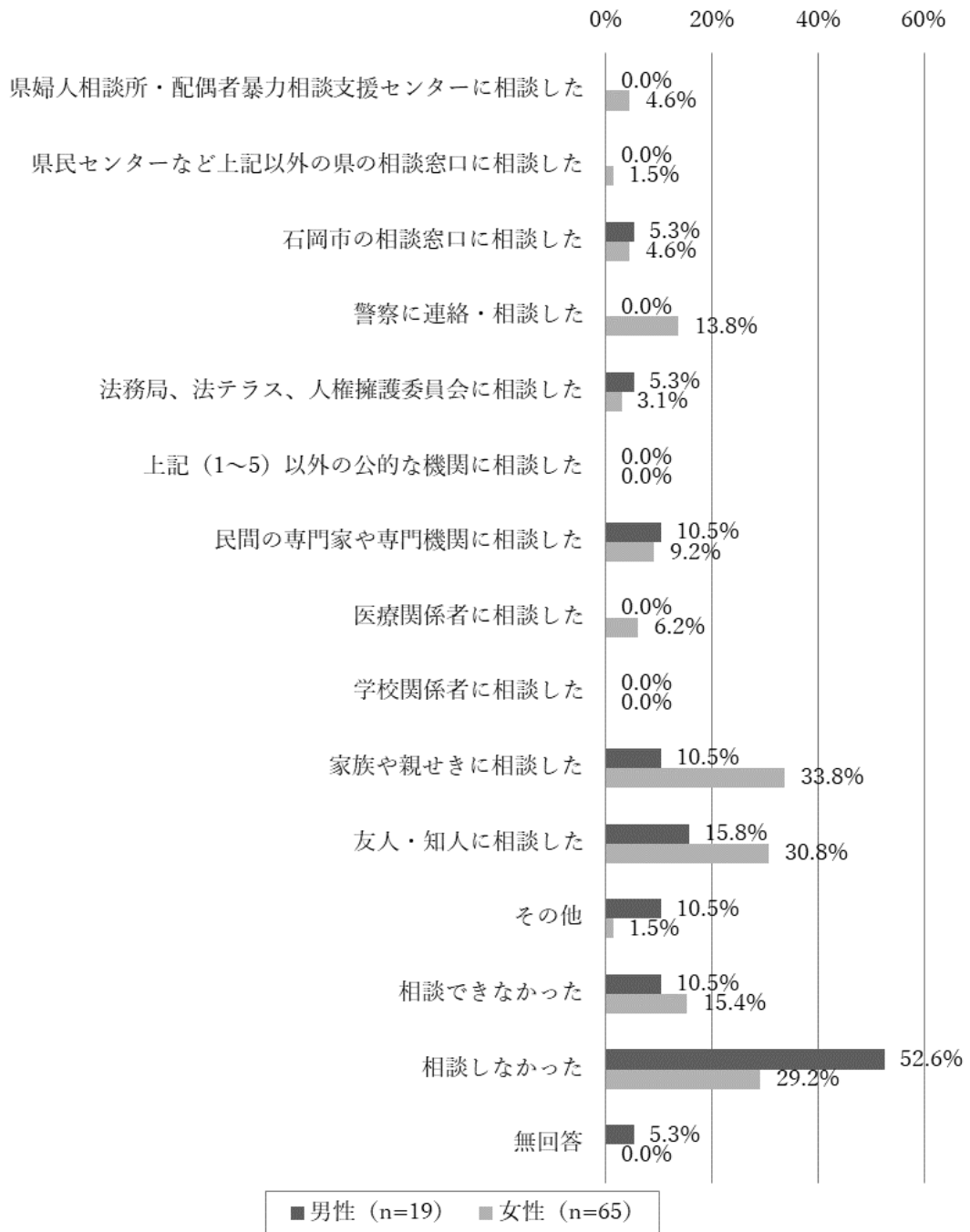
項目	回答数	構成比
県婦人相談所・配偶者暴力相談支援センターに相談した	3	3.4%
県民センターなど上記以外の県の相談窓口相談した	1	1.1%
石岡市の相談窓口相談した	4	4.5%
警察に連絡・相談した	10	11.2%
法務局、法テラス、人権擁護委員会に相談した	3	3.4%
上記（1～5）以外の公的な機関に相談した	0	0.0%
民間の専門家や専門機関に相談した	8	9.0%
医療関係者に相談した	4	4.5%
学校関係者に相談した	0	0.0%
家族や親せきに相談した	27	30.3%
友人・知人に相談した	24	27.0%
その他	3	3.4%
相談できなかった	12	13.5%
相談しなかった	29	32.6%
無回答	2	2.2%
回答者数	89	





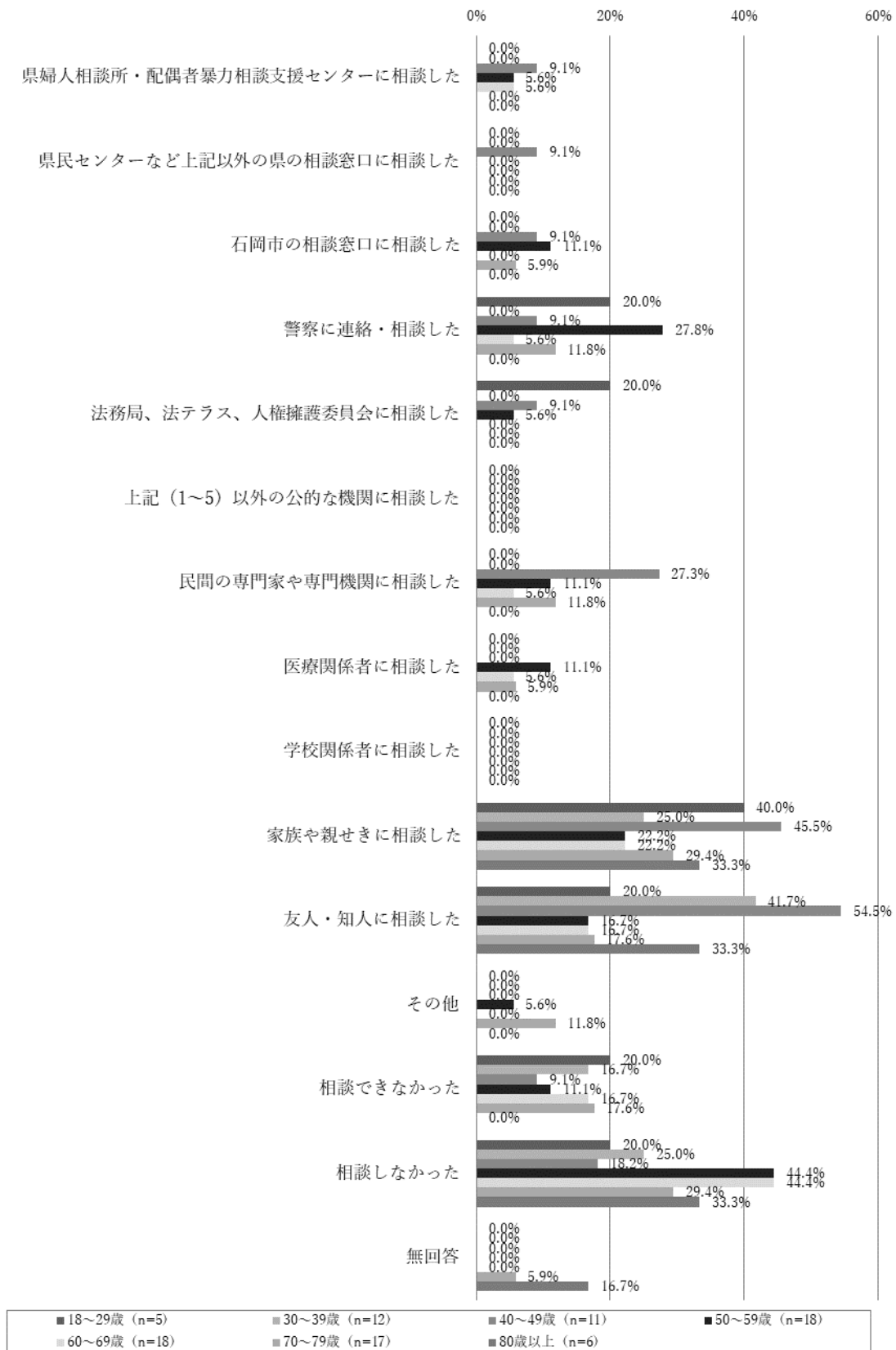
【性別クロス集計】

性別で比較すると、「相談しなかった」と回答した割合が、男性では52.6%、女性では29.2%となっています。



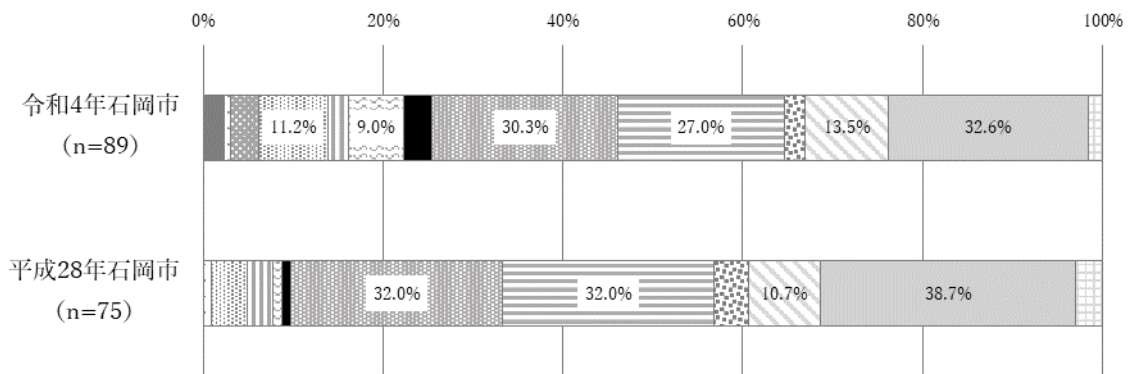
【年代クロス集計】

年代で比較すると、「相談しなかった」と回答した割合は、「50～59歳」「60～69歳」で44.4%と、ほかの年代よりも高くなっています。



【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「相談しなかった」が6.1ポイント減少しています。



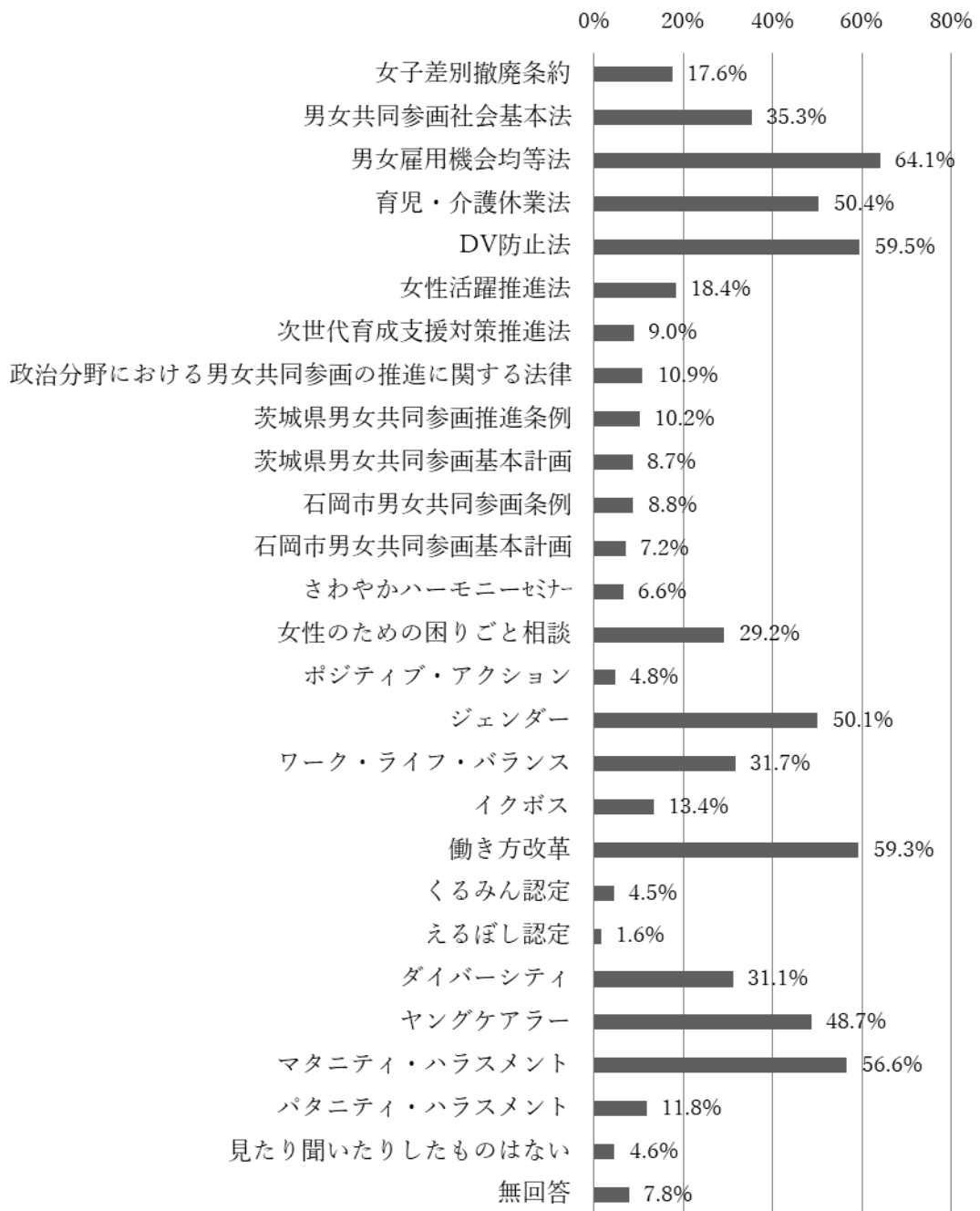
- 県婦人相談所・配偶者暴力相談支援センターに相談した
- 石岡市の相談窓口相談した
- 法務局、法テラス、人権擁護委員会に相談した
- 民間の専門家や専門機関に相談した
- 学校関係者に相談した
- 友人・知人に相談した
- 相談できなかった
- 無回答
- 県民センターなど上記以外の県の相談窓口相談した
- ▨ 警察に連絡・相談した
- 上記（1～5）以外の公的な機関に相談した
- 医療関係者に相談した
- ▨ 家族や親せきに相談した
- その他
- 相談しなかった

## 7 【男女共同参画社会について】

問 15-1 次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

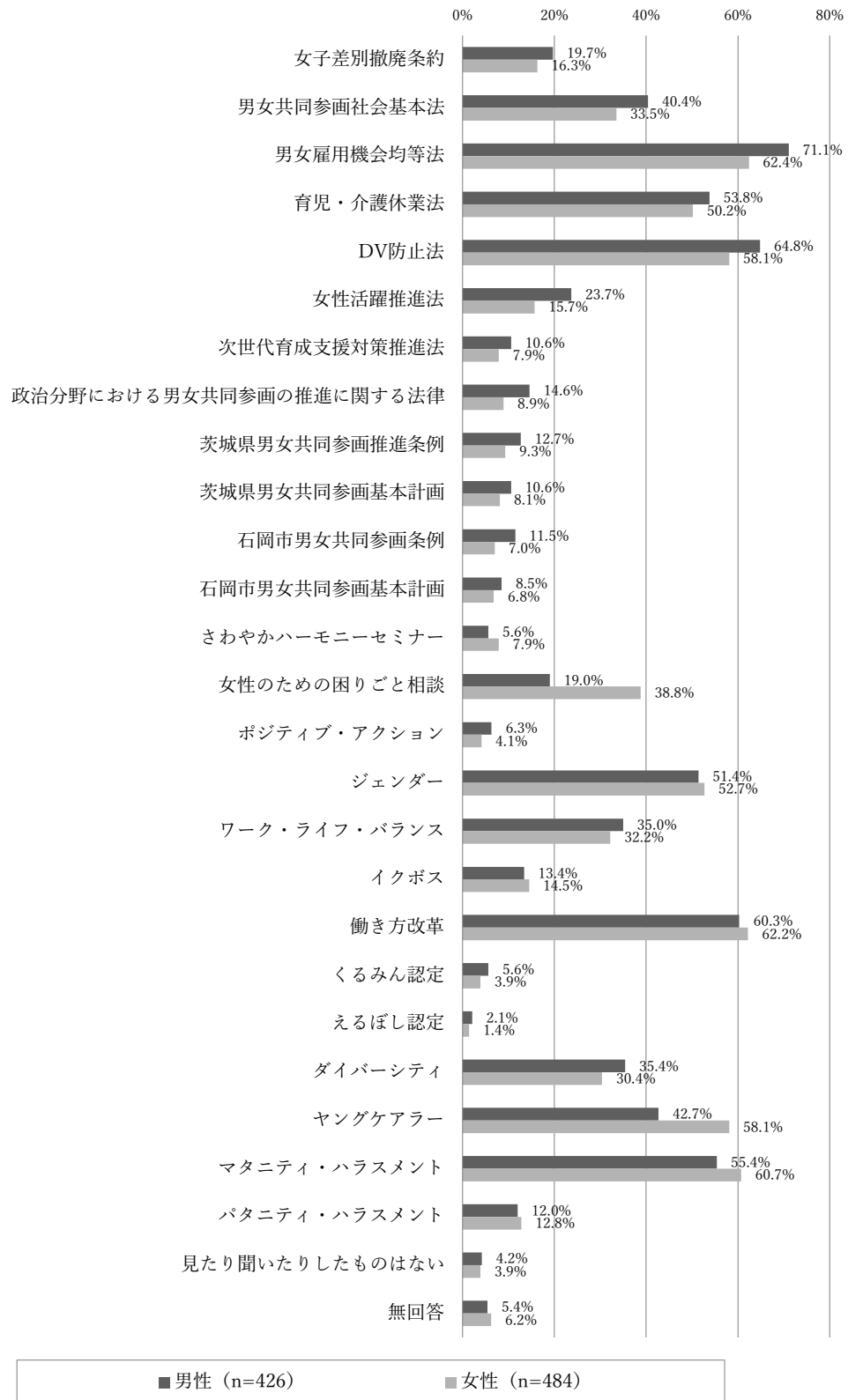
「男女雇用機会均等法」が最も多く 64.1%、次いで「DV 防止法」が 59.5%、「働き方改革」が 59.3%となっています。

項目	回答数	構成比
女子差別撤廃条約	176	17.6%
男女共同参画社会基本法	353	35.3%
男女雇用機会均等法	640	64.1%
育児・介護休業法	503	50.4%
DV 防止法	594	59.5%
女性活躍推進法	184	18.4%
次世代育成支援対策推進法	90	9.0%
政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	109	10.9%
茨城県男女共同参画推進条例	102	10.2%
茨城県男女共同参画基本計画	87	8.7%
石岡市男女共同参画条例	88	8.8%
石岡市男女共同参画基本計画	72	7.2%
さわやかハーモニーセミナー	66	6.6%
女性のための困りごと相談	292	29.2%
ポジティブ・アクション	48	4.8%
ジェンダー	500	50.1%
ワーク・ライフ・バランス	317	31.7%
イクボス	134	13.4%
働き方改革	592	59.3%
くるみん認定	45	4.5%
えるぼし認定	16	1.6%
ダイバーシティ	311	31.1%
ヤングケアラー	487	48.7%
マタニティ・ハラスメント	565	56.6%
パタニティ・ハラスメント	118	11.8%
見たり聞いたりしたものはなし	46	4.6%
無回答	78	7.8%
回答数	999	



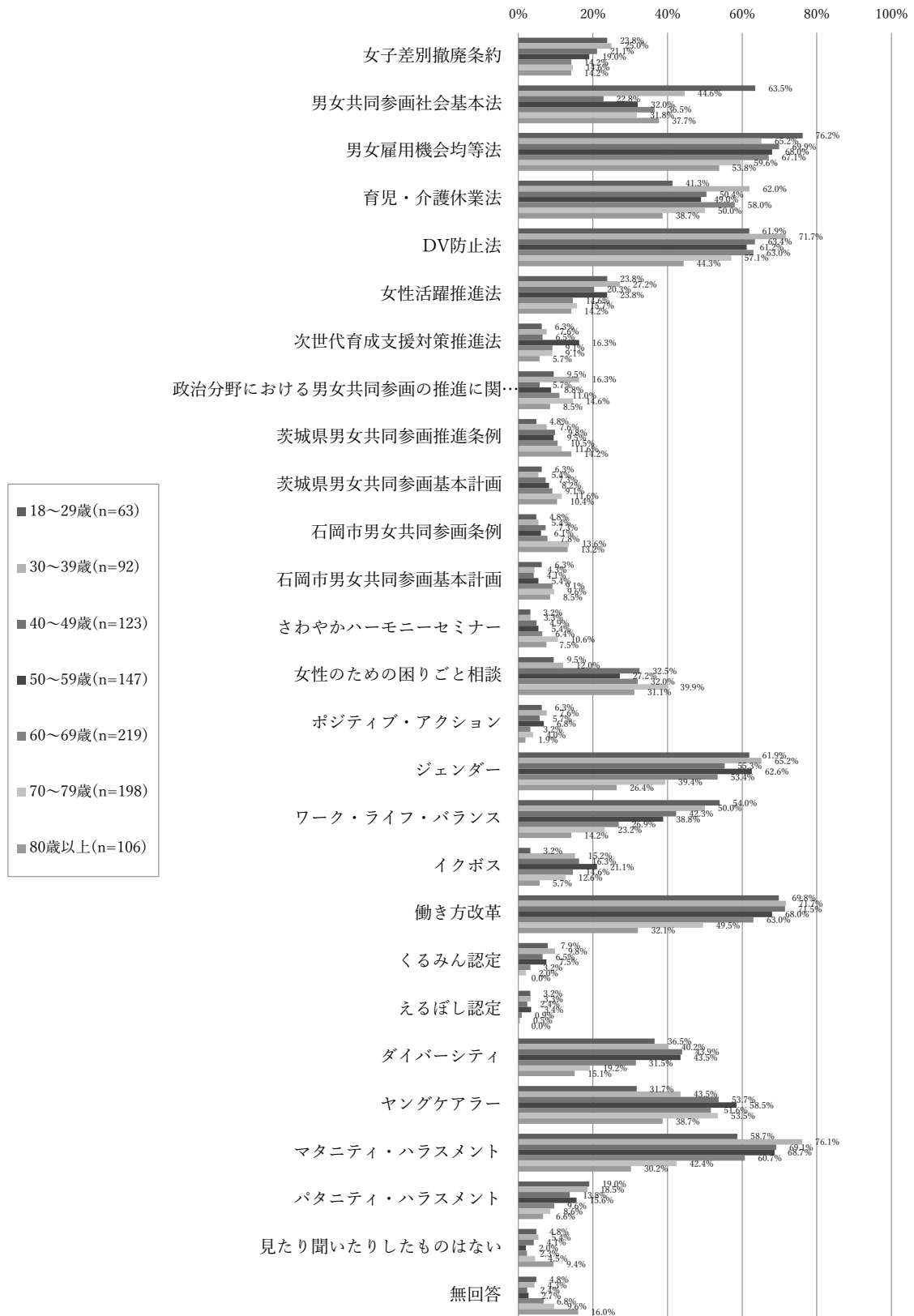
【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「男女雇用機会均等法」が最も多く、次いで、男性では「DV防止法」、女性では「働き方改革」となっています。



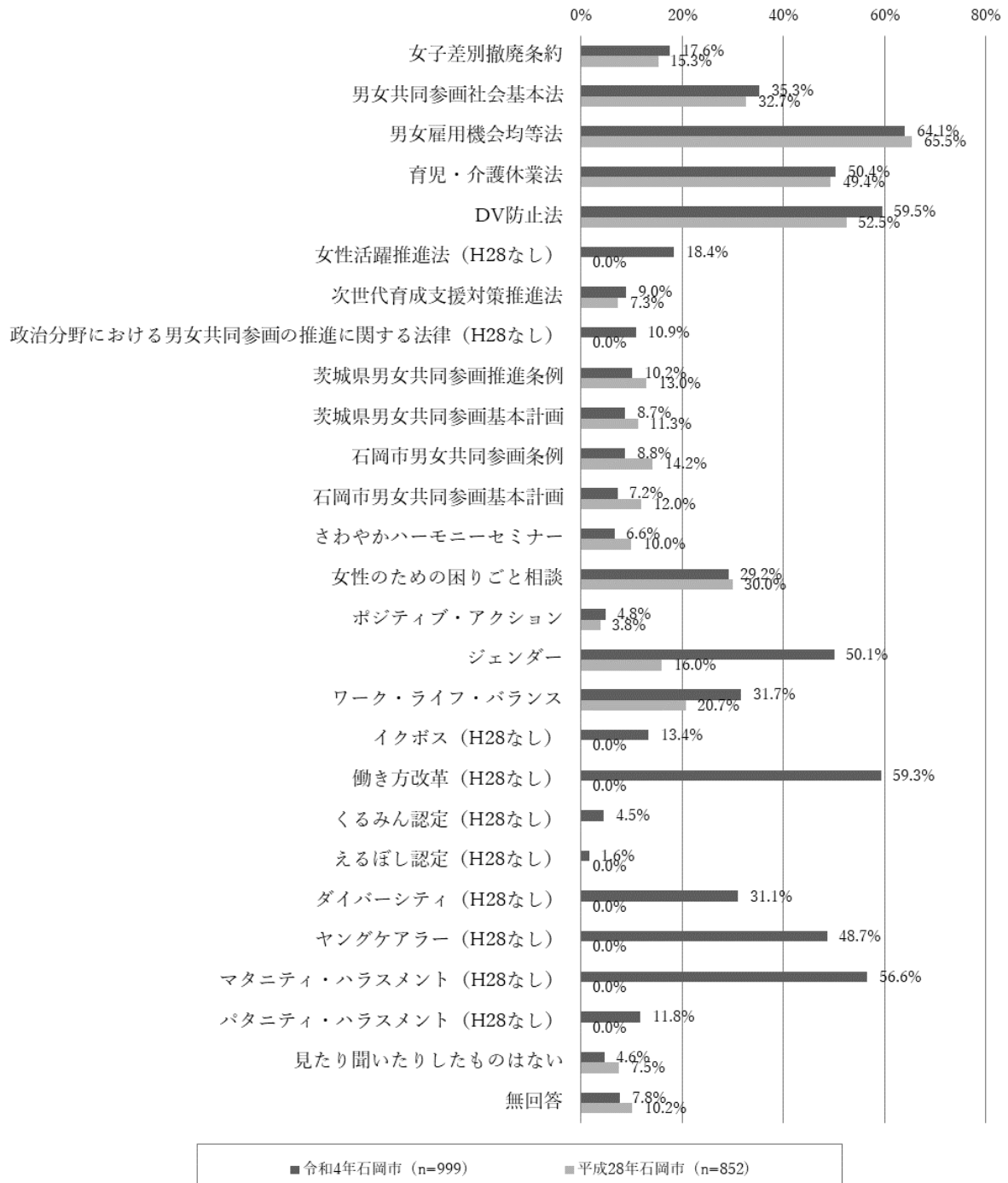
【年代クロス集計】

年代で比較すると、「ジェンダー」や「ワーク・ライフ・バランス」「働き方改革」「マタニティ・ハラスメント」などの項目で、若い世代の方が見たり聞いたりしたことがある割合が高く、若い世代と高齢の世代の差が大きくなっています。



【経年クロス集計】

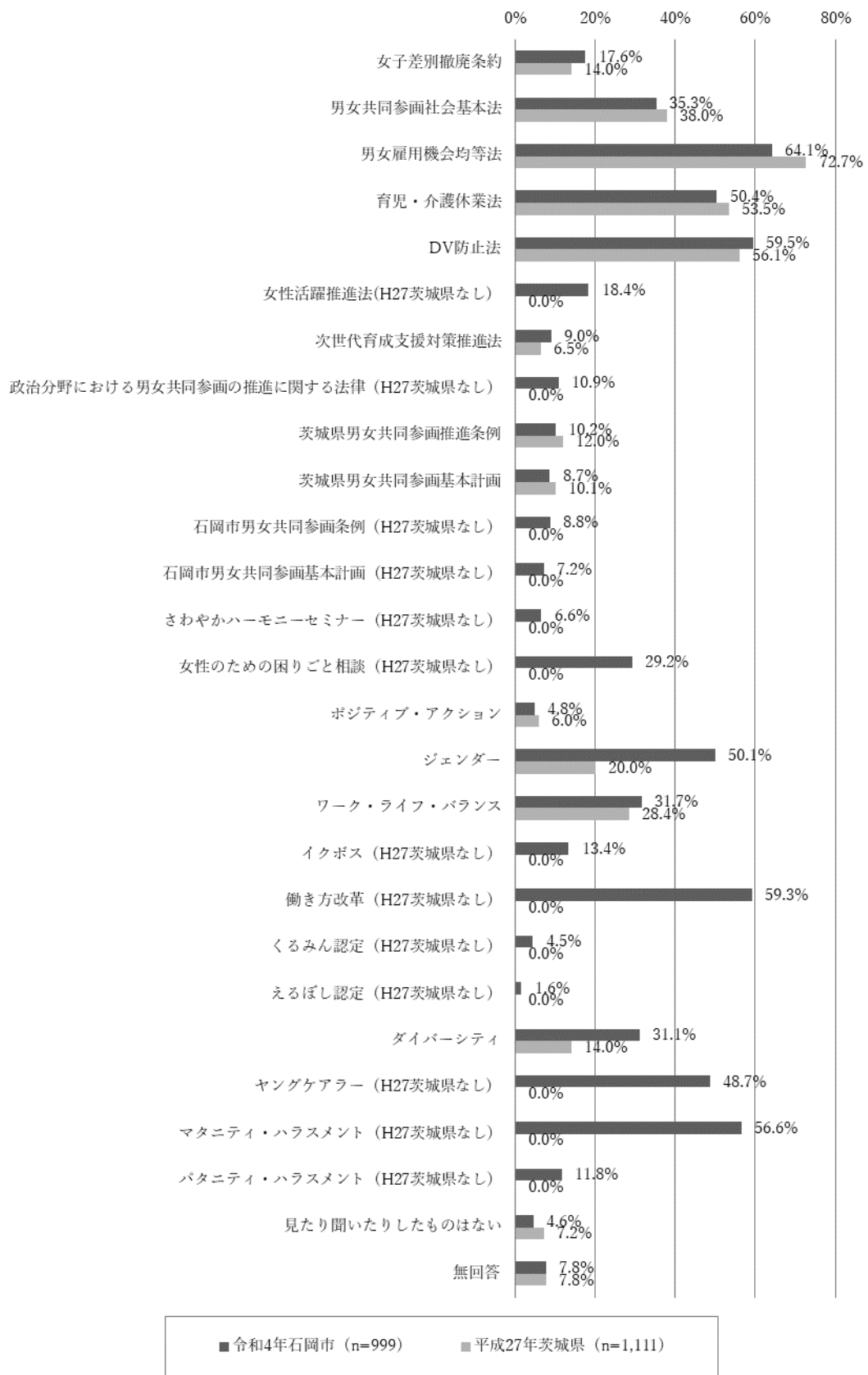
前回調査（H28）と比較すると、「ジェンダー」が34.1ポイント上昇しています。





【茨城県クロス集計】

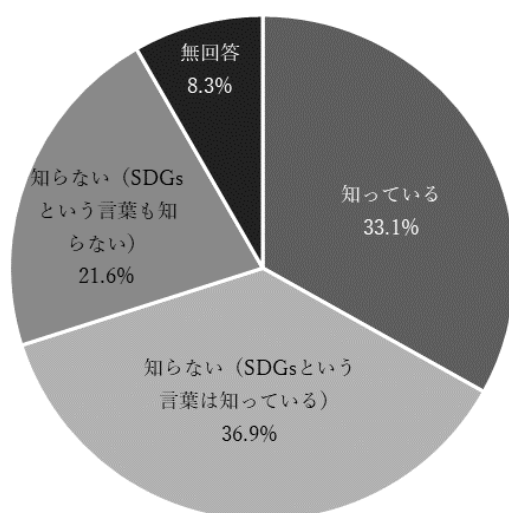
茨城県調査（H27）と比較すると、「ジェンダー」が30.1ポイント、「ダイバーシティ」が17.1ポイント高くなっています。



問 15-2 SDGsの中に「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が盛り込まれていることをご存じですか。

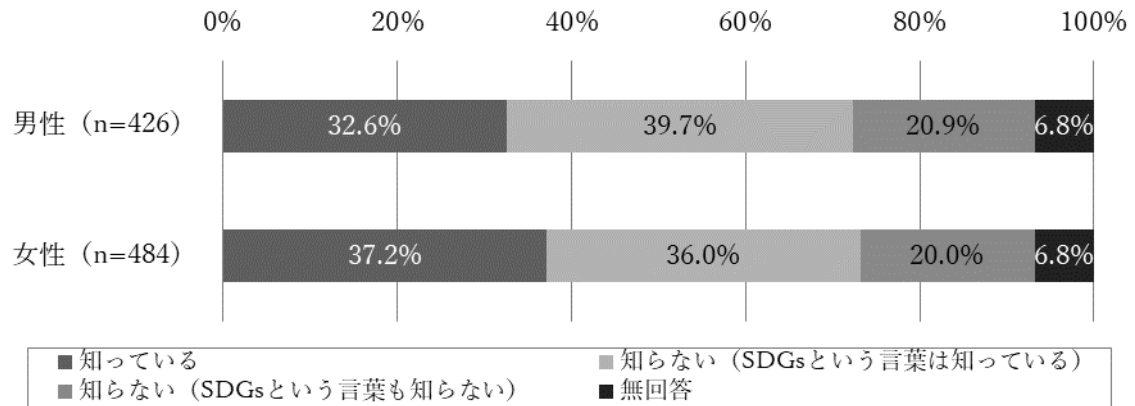
「知らない(SDGsという言葉は知っている)」が最も多く36.9%、次いで「知っている」が33.1%となっています。

項目	回答数	構成比
知っている	331	33.1%
知らない(SDGsという言葉は知っている)	369	36.9%
知らない(SDGsという言葉も知らない)	216	21.6%
無回答	83	8.3%
回答者数	999	100.0%



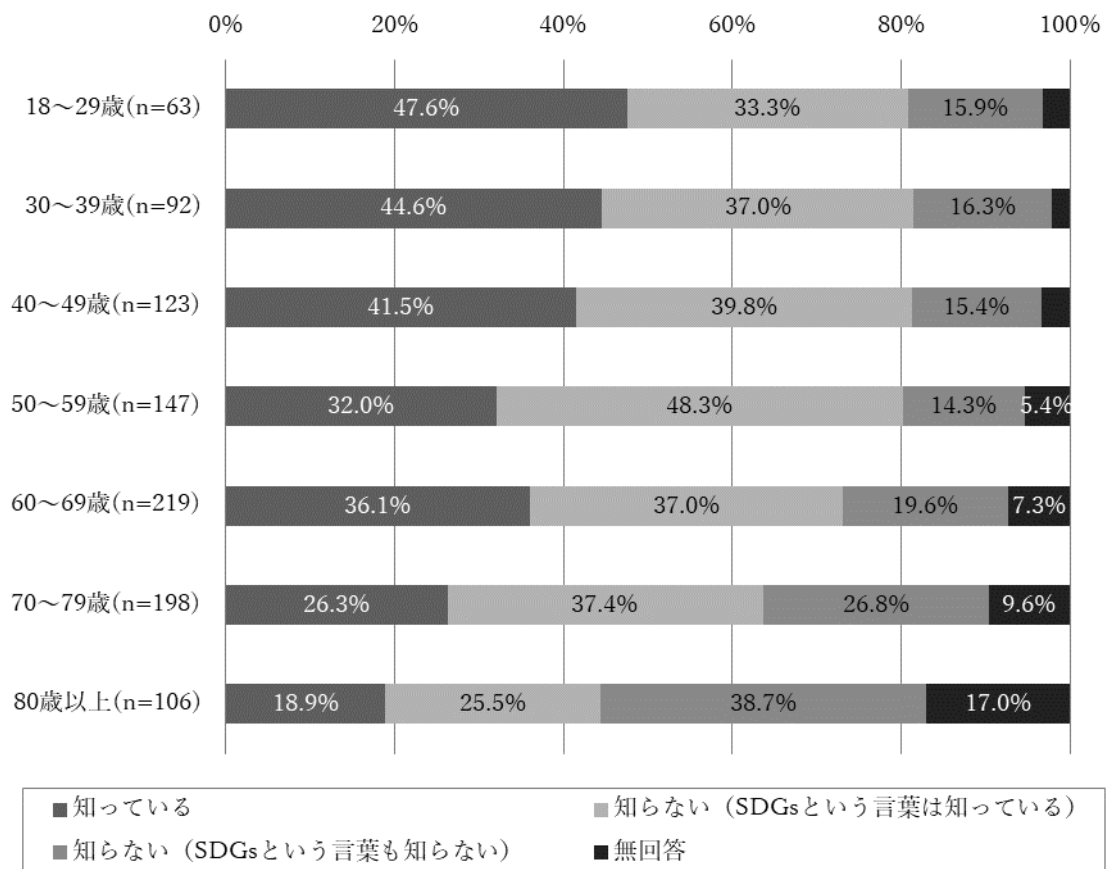
【性別クロス集計】

性別で比較すると、「知っている」と回答した割合は、女性の方が5.4ポイント高くなっています。



【年代クロス集計】

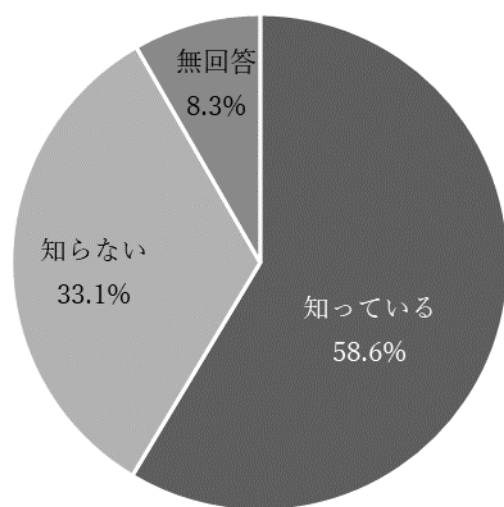
年代で比較すると、年代が高くなると、「知っている」と回答した割合が低くなる傾向にあります。



問 15-3 性的少数者（セクシャルマイノリティ）（LGBTQ）について社会的な取組みが必要とされていますが、あなたは性的少数者（セクシャルマイノリティ）（LGBTQ）という言葉の意味をご存じですか。

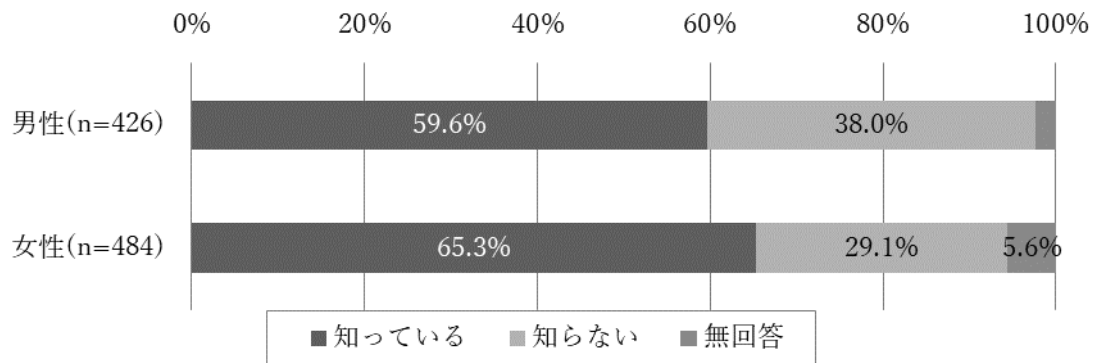
「知っている」が 58.6%となっています。

項目	回答数	構成比
知っている	585	58.6%
知らない	331	33.1%
無回答	83	8.3%
回答者数	999	100.0%



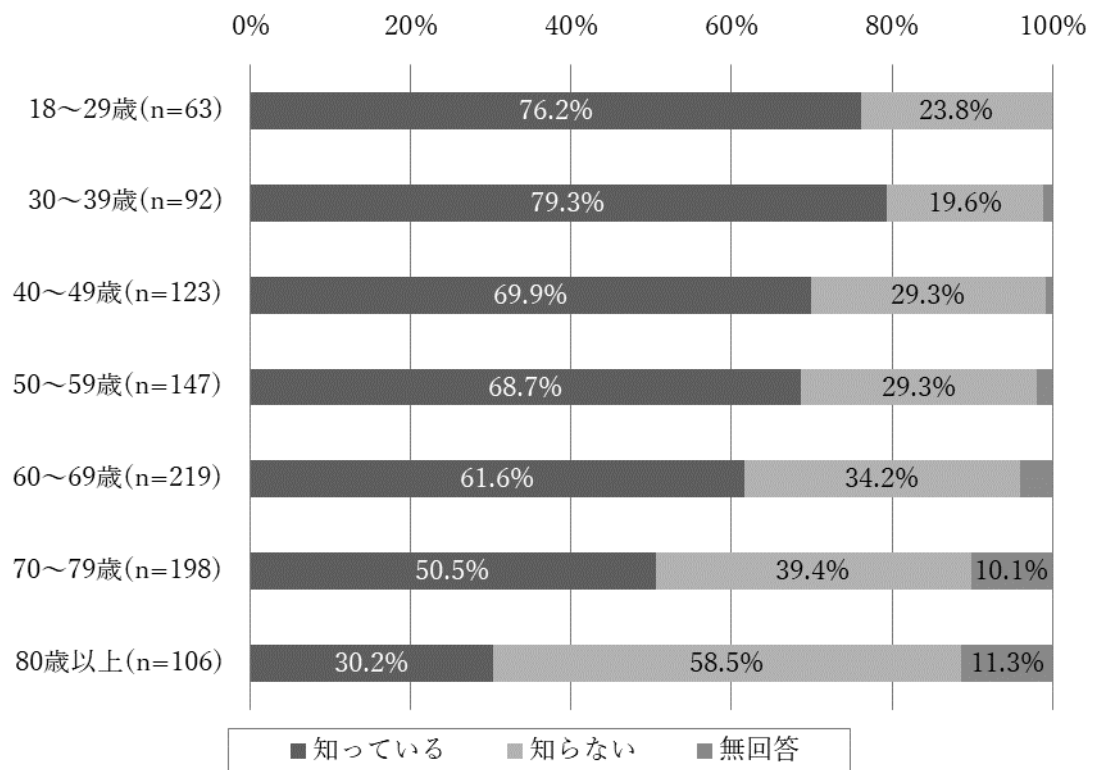
### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、「知っている」と回答した割合は、女性の方が5.7ポイント高くなっています。



### 【年代クロス集計】

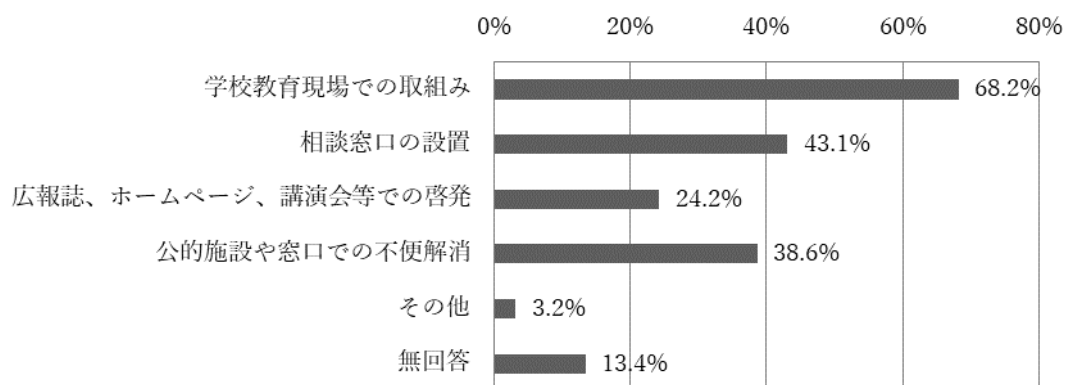
年代で比較すると、年代が高くなると、「知っている」と回答した割合が低くなる傾向にあります。



問 15-4 性的少数者（LGBTQ）の人権を守るため、こういった取組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

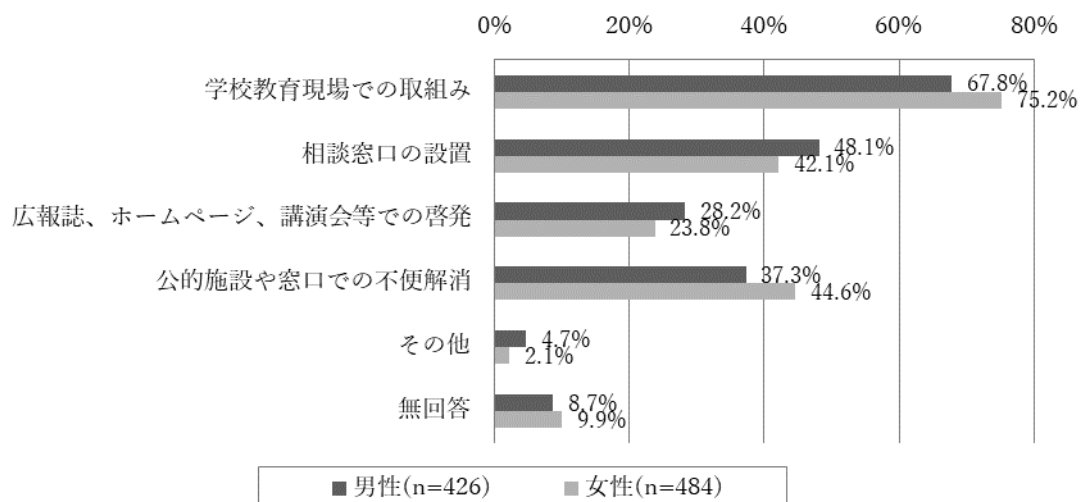
「学校教育現場での取組み」が最も多く 68.2%、次いで「相談窓口の設置」が 43.1%となっています。

項目	回答数	構成比
学校教育現場での取組み	681	68.2%
相談窓口の設置	431	43.1%
広報誌、ホームページ、講演会等での啓発	242	24.2%
公的施設や窓口での不便解消	386	38.6%
その他	32	3.2%
無回答	134	13.4%
回答者数	999	



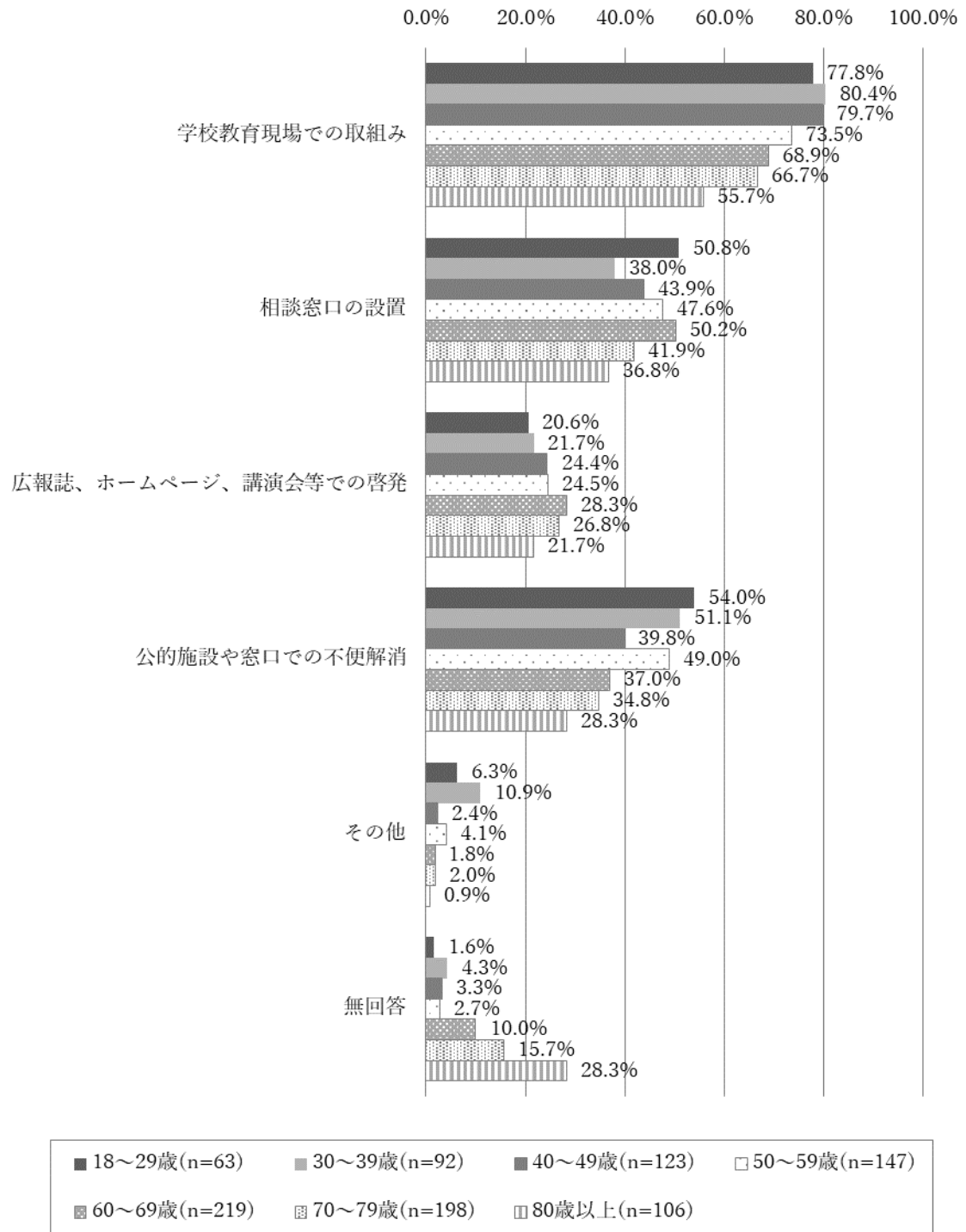
#### 【性別クロス集計】

性別で比較すると、男女ともに「学校教育現場での取組み」が最も多く、次いで、男性では「相談窓口の設置」、女性では「公的施設や窓口での不便解消」となっています。



【年代クロス集計】

年代で比較すると、全ての年代で「学校教育現場での取組み」が最も多くなっています。

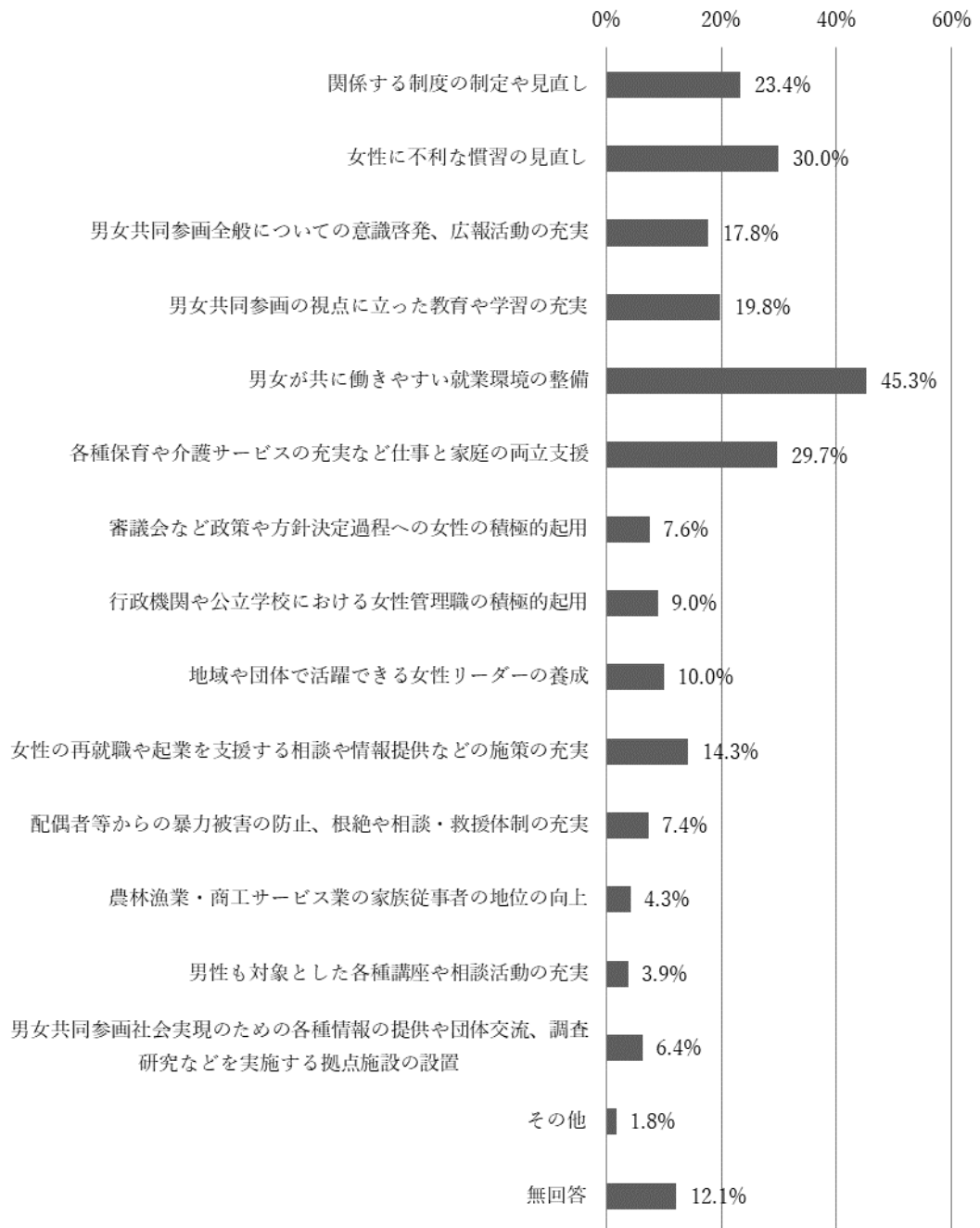


問 16 男女共同参画社会を実現するためには、市は今後、主にどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。（○は3つまで）

「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が最も多く 45.3%、次いで「女性に不利な慣習の見直し」が 30.0%となっています。

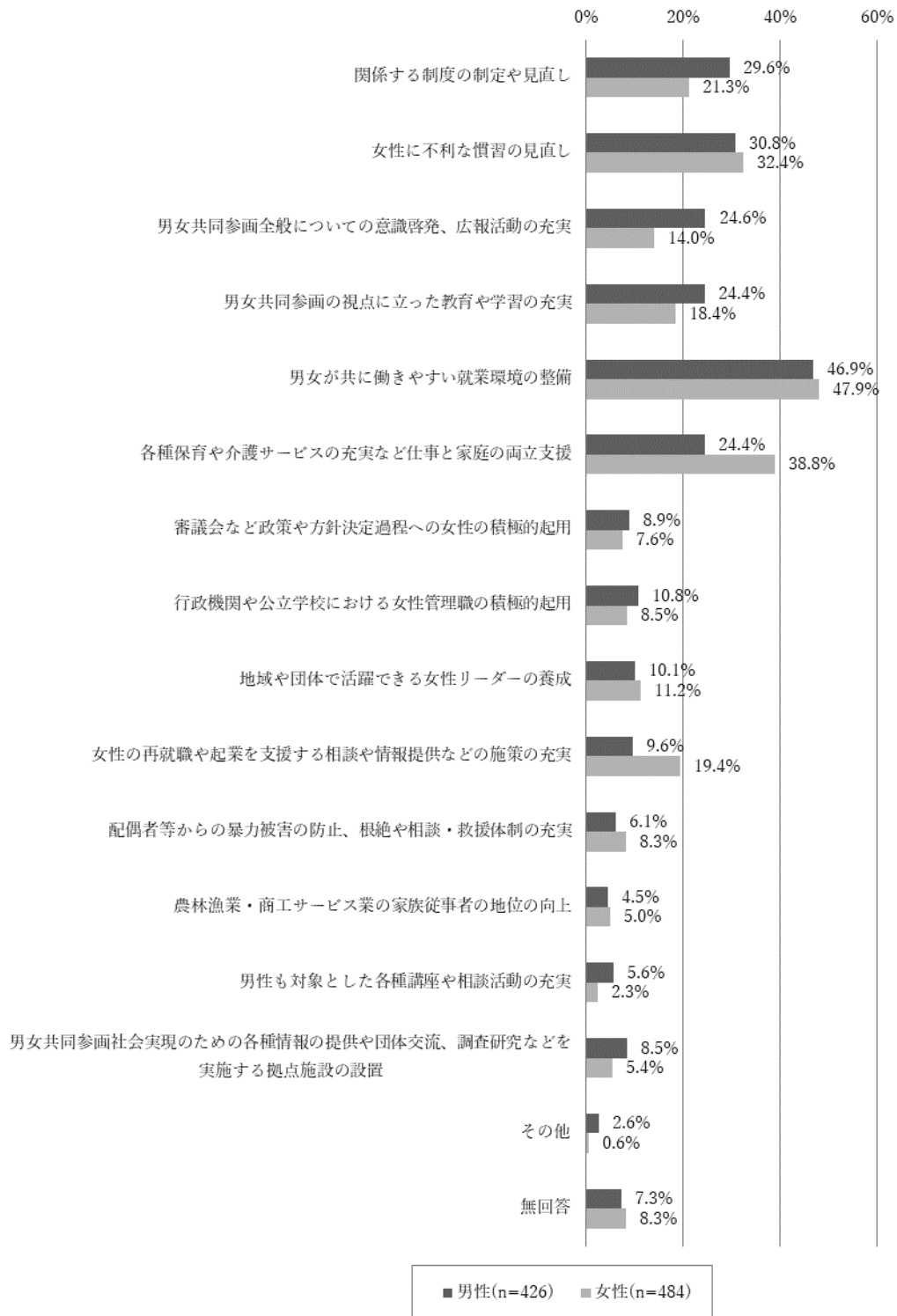
項目	回答数	構成比
関係する制度の制定や見直し	234	23.4%
女性に不利な慣習の見直し	300	30.0%
男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実	178	17.8%
男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	198	19.8%
男女が共に働きやすい就業環境の整備	453	45.3%
各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援	297	29.7%
審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用	76	7.6%
行政機関や公立学校における女性管理職の積極的起用	90	9.0%
地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成	100	10.0%
女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実	143	14.3%
配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実	74	7.4%
農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上	43	4.3%
男性も対象とした各種講座や相談活動の充実	39	3.9%
男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点施設の設置	64	6.4%
その他	18	1.8%
無回答	121	12.1%
回答数	999	





【性別クロス集計】

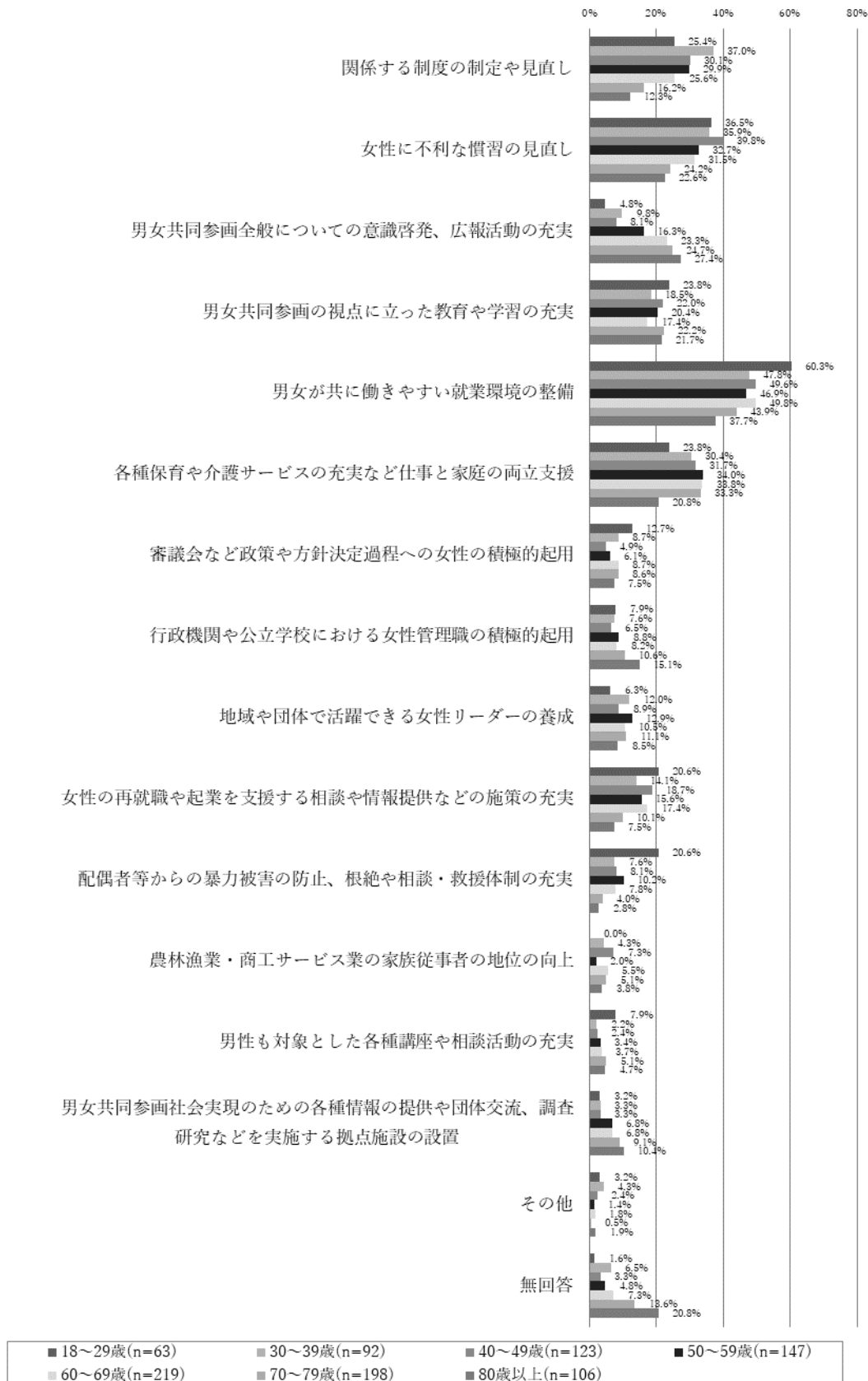
性別で比較すると、男女共に「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が最も多くなっています。また、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」と回答した割合は、女性の方が14.4ポイント高くなっています。





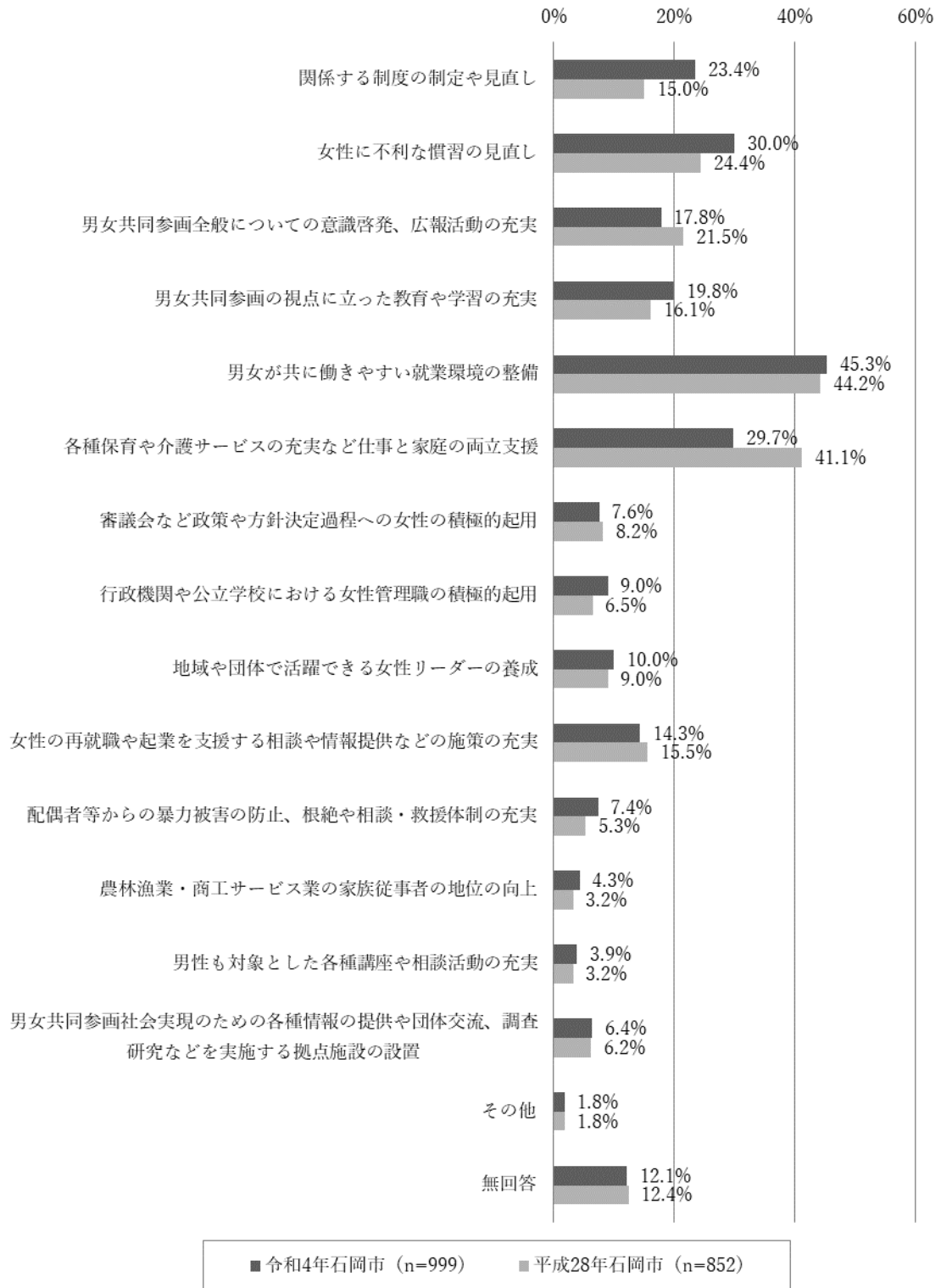
【年代クロス集計】

年代で比較すると、全ての年代で「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が最も多くなっています。



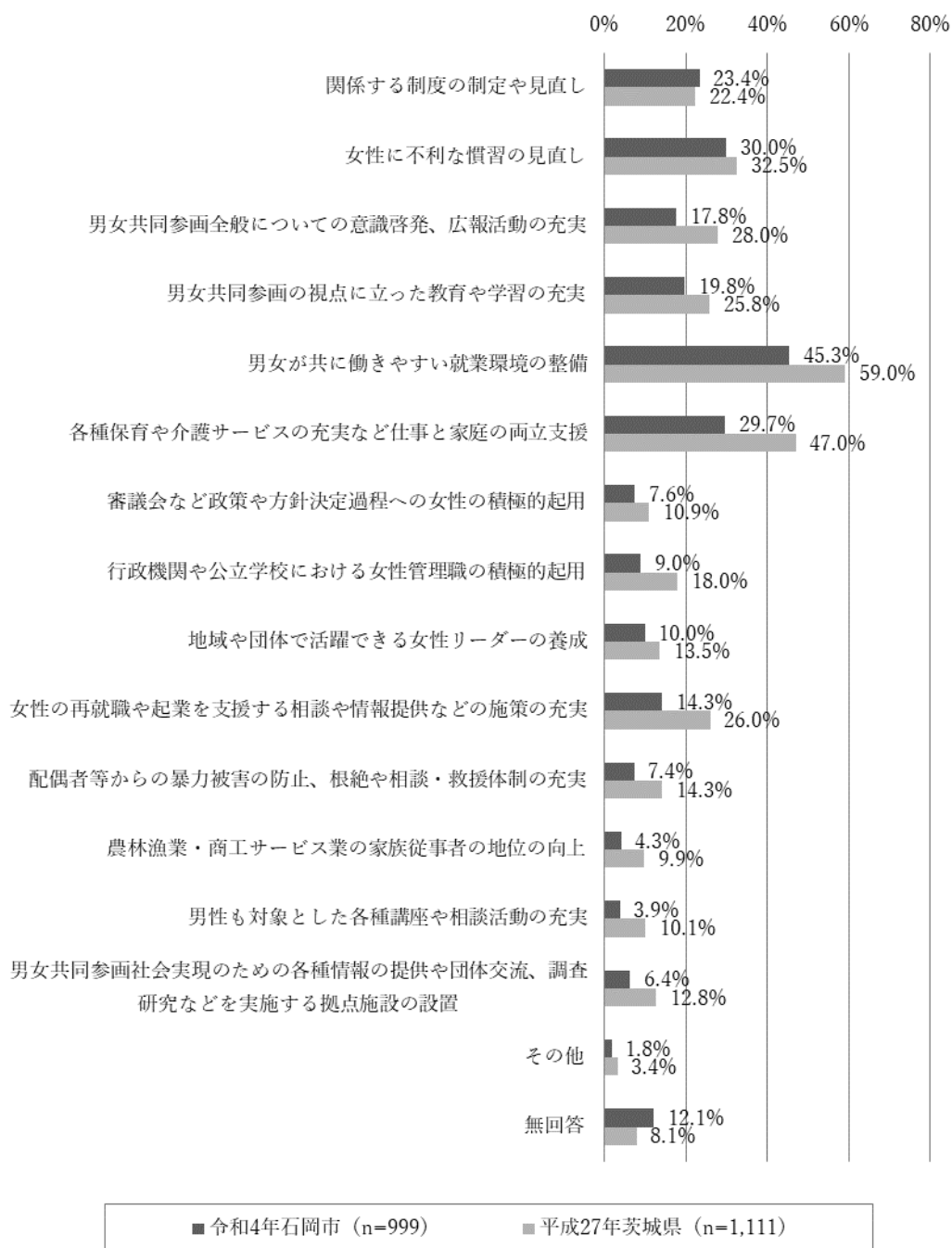
【経年クロス集計】

前回調査（H28）と比較すると、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」が11.4ポイント減少し、「関係する制度の制定や見直し」が8.4ポイント上昇しています。



【茨城県クロス集計】

茨城県調査（H27）と比較すると、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が13.7ポイント、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」が17.3ポイント低くなっています。



**【その他記述・自由記述】**

## 問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要だと思う事は何でもしょうか。その他（具体的に：）

- 「男女平等」の条件を設けず評価できる制度
- 5について、一定の数ではなく、真に実力のある方を正当に評価する必要がある。
- 5について、ただ登用すればいいわけではない！男性の育児休暇の推進（有給と同じように強制的に！）アンケートは内容によって欲しい答えが導き出せる。
- お互いが性別の特徴をもっと尊重すべき。今は水掛け論だと思う。
- 機会の平等と結果の平等どちらを求めるのでしょうか？
- 研修会・学会・その他等は当然に「男女格差をなくした」研鑽をすべき。
- 差別と区別は違うと思うので、あまり考えすぎない事。
- 女性自身が男性と同等の収入を持つこと。妊娠出産を想定した人生プランを期待されないこと。
- 女性自身が目的を持って進む方向性を自分で決めて努力する事
- 性別をなくしたらどうでしょうか
- 戦後不平等社会で40数年働いて来ています。それを思っ母（働く女性）の時代から努力し、考え方を合わせて社会的に女性の立場が認められてきたのです。人から与えられただけでは、ここまで良い社会環境は出来なかったと思っています。若い人達がこの後自分達の必要を感じた中で協力し合っやっていっ欲しい。その認識の中で始めて国会、地方？議員も女性の割合を規定することも考えてよいと思う。
- 男子家庭より、母子家庭、他いろいろ優遇が多い
- 男女が同じ状況（条件）下で生きていくことは、能力からみてもできないと思う。男性は理性的、女性は感情的なのでリーダー（司令塔）が女性の場合、働く上で苦痛を感じる事がある。主が男性、従が女性で、あらゆる分野で平等となるためには、役職（司令塔を含む）は、男性学士であるべきだと思う。
- 男女にかかわらず、意識を変えなければ変化はない。
- 男女の平等を行政に求めるのではなく、家庭の中で男女平等を意識して生活する人が増えること
- 男女を問わず、この種の学習と教育が取り組める場の設定
- 男性・女性による差異は必ずある上で差別と区別をはっきりさとさせる。過剰な平等を求めない（差別をなくした上で区別を認める）
- 男性が女性を下に見ていることが、そもそもの始まりで、昔の男性上位と考えが変わらない限り、平等になることはまずないと思う。
- 男性も家事に協力するよう、特に50代以上の人々に伝えるべき。
- 男性も不平等は有ります。石岡市がわからないだけです。上記は女性の事ばかり言っている。男性も差別や不平等にあっってますよ。
- 男尊女卑を改める
- 天皇陛下を中心とした社会に戻すべき
- とにかく男性・女性を区別しない



- 日本的な男女平等を再確認する。生まれかわりを再度女性でよいと思っている女性も多いはず。アンケート実施など
- 日本の文化・歴史を尊重かつ、グローバル社会通念に向うかによる。
- 早い内の学校教育、家庭教育と社会の教育から
- 平等を望まない人に、教育していく必要がある
- 無理矢理男女平等にする必要はないと思う
- 役職に一定の割合で登用するのではなく、機会を平等にすること「女性が」「女性が」ではなく「女性も男性も」となること

**問8 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。その他（具体的に：）**

- 家事、趣味（園芸）、菜園等
- 国や市からの金銭的な援助してもらえ制度の確立
- 経済の安定
- 個人差が大きいと思う。
- 個人として、相手を意識して実行する
- 女性が家事を守る。男性は働く
- 女性の平均収入を男性と同等にすること
- 女尊〇〇と実際はなるから
- 男性が、女性が...という事が差別で、できる方が行えば良し。子育てにしても、適正という事を考えれば、女性という方もいれば、男性という方もいて、家庭状況によってさまざまだと思う
- 男性女性だからどうあるべきと規定はしなくなかったので夫・子供共に休日は、地域の子供達と共に運動をすることも良い、それを生きがいとしている人に家事を強いることはできなかったが必要に迫られると自主的に協力する人間になってました
- 男性の育児休暇がとりやすい職場環境
- 独身
- 特に子育てにおいて男は「手伝う」のではなく「子育てをする」ことが強制でも必要もある
- 日本はやさしい国だと言われますが、本当はどうでしょうか。子育ても介護も心のあり方が大切だと思います。
- 本人の意識改革が必要。その為には、社会・経済の構造改革、賃金規程などの変更が必要。また、子育てに関しては、子育てのしやすい環境づくりが必要！流山おおたかの森のように！！
- 労働しなくとも生活できるようにする
- 労働短縮、休暇に対する金銭的保証

**問9-2 問9-1で、1、2、4、5とお答えいただいた方にお伺いします。その具体的な内容などのご様子ですか。その他（具体的に：）**

■（男性は自由無）（女性はかなり自由です）男性自由度 15%～20%、女性自由度 60%～70%？

■3K労働のため

■育児・家事との両立を考えると退勤時刻の厳守が求められる

■学生なので

■子育てによる、離職

■仕事に接する態度

■シフトの優遇

■社会的に子育ては女性（母親）ということから、仕事をする時間が短い。そうすると女性（母親）には責任ある仕事をまかせられないので、昇進しない。どうして、育休をとるのは母親なのでしょう？父親は育休がとりづらい。

■消防職ですが、130名以上の中で、女性は2名のみ。

■職種的に女性には出来ない職種

■女性が多い職種である

■女性の管理職へのハードルの高さ

■体力（力）、安全ケガ、汚れ等

■男性が働くことを前提とした労働環境になっている

■男性社員の一人が仕事中にスマホのゲームをコーヒーを飲み、おかしを食べていても誰も注意もできず、やりたい放題でパワハラもしているからそれがもし女性だったら、そうならないと強く思う

■男性の立場が上という潜在的な意識

■年金生活 75 才

■評価が男性が規準になっていると思う

■世論に応じて見せかけだけの女性の人選・参加のみで意見は全く反映されない。

**問10-2 問10-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。仕事を辞めた理由はなんですか。**

**家族の反対や無理解のため（具体的に誰からですか？）**

■夫

■夫の母親

**問10-2 問10-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。仕事を辞めた理由はなんですか。その他（具体的に：）**

■3.11 被災のため

■40年以上仕事をしていると何度も都度の理由で辞めている

■育休中に復帰をしようと相談したら、転職の話を出され、それが理由で退職をしました。

■いじめ

■以前は都内まで通勤していたが、遠すぎたから

■一身上の都合

■夫が早く亡くなった為

■夫の仕事場迄の送迎、次自分会社へと仕事続けたかったが限界

■親が仕事を決めていたため

■開業

■開業の為

■解雇

■外資系企業に吸収合併された為。

■会社が福島県に行った

■会社設立の為

■会社都合による退職（年齢制限による）

■会社都合による募集

■会社の事

■会社の契り、定年前でした

■会社の都合

■会社の都合、規模縮小、売却など

■会社の倒産

■起業したため

■急なりストラ

■サービス残業（未払い）

■自営業へ。

■事業縮小

■自己都合

■仕事が自分に合ってなかった。引っ越し

■仕事がへった

■地元に帰る

■将来的な収入ややりがいを考えて

■職業補導所に行くため（昔のよび名です）

■職場が楽しくない

■職場の人間関係

■自立の為

■スキルアップ

■早期退職

■つわりがひどかった為

- 定年退職
- 適応障害になった際の職場、上司の無理解と不当な対応のため
- 転職のため
- 年齢的に続けるのが厳しかったため
- 農業
- パートナーの体調を最優先したため
- パワハラ
- 引越しの為
- 病気
- 勉強とバイトの両立が難しくなったため
- 他にやりたい事があったから
- やりたい事があった為
- やりたい仕事があった為
- やりたい仕事が見つかったから
- やりたい仕事を行う為
- 離婚して実家近くに帰った為
- 離婚のため
- リストラ
- 留学のため
- 私が難病になりましたが復帰を会社と話し合いを続けてきたのに、何かあった時のリスクがあるためなのか退職しました。
- 私の場合は自主的にやめた。日本の地方や外国などに興味をもったから。

**問11 女性が働きやすい環境にするためには主にどんなことが必要だと思いますか。**

**その他（具体的に：）**

- 20才台の男性が働きやすい環境が整うと、自分も働きやすくなると思う。今から出産をひかえている方や子供たちが過ごしやすくなると思う。先人の知恵もたくさんもつ若い男性学士の方々のご意見を伺いたい。
- おじさんの私にはわからない
- 結婚しない人、子供を産みたくない人が増えているとの事ですが、気になっています。
- 自営者への産休、育休保障が少しでもあると嬉しい
- 女性の賃金を上げ労働時間を減らす
- 女性は働かないで家事を守り、子育てに専念する。女性が収入があるから結婚しない、子供は多く生めない、少子化につながってしまう
- 製造業での能力の向上が必要である
- そもそも女性は働く気がない
- 男女の差をなくす
- 男性、女性共に働きやすい環境が必要

■評価基準の見直し（成果に責任）

**問12-2問12-1で、1の「している」とお答えいただいた方にお伺いします。それはどのような活動内容（分野）ですか。その他（具体的に：）**

■健康増身が目的

■講師

■コロナ禍の前まで介護施設にて、研修会などの参加をしていました。

■自治会、国勢調査

■日赤茨城県支部アマ無線奉仕団

■フラワーパークボランティア

**問13 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたはどのように思いますか。その他（具体的に：）**

■10：0、0：10 はまずいと思うが、民意で選ばれるべき人数・比率をいじくるのはおかしいと思う。性に関係なく有能な人になるべき

■有

■男・女こだわりなく実力のある人が参画するべき

■数より資質（個人の）の問題だと思います。どちらが多いからよくなる...ということになるかが疑問です。

■数を平等にするか増やすかにこだわるのではなく、政治の場に積極的に参加したい女性を少しでも多く登用してほしい

■議員や委員となる機会が平等であるならば、数や割合は関係ない

■機材適所であれば男女の比率などは関係ないと思う

■ことばがわからない

■才能に溢れる方なら何人でも可

■質問が？選挙＝民意

■性別ではなく、平等な能力・目的の評価で必要と思われる数。

■性別にかかわらず、なる人がなればいい

■選挙で行われる為、分からないと考える。

■選任や選挙にあたって不正や性別等の属性を理由とする不当な扱いがない限り、基本的にその結果や人事に従って進められるべきだと考えるので、男女の人数比でのみ語るべきではないと思います。選挙で男8：女2になろうとも（またはその逆であろうとも）、選ばれた以上そのバランスであるべきであり、あらかじめ決められた数値に合わせるために結果を調整することは不自然と考えます。仮に男女同数にしたとしても、社会的な慣習・慣行により実質的に男性優位となったり、結論が出るまでに過剰に時間を要するようになってしまっは意味がなく、また、女性でなければ意見を理解できないということはないはずです。結局のところ、男女どちらを選任するかではなく、選任されたその人がそれぞれの意見をどう吸い上げて形にするか次第だろうと思います。※企業や公的機関において管

理職に女性を起用することは進められてもいいと思いますが、委員や議員においてはあまり適さないと考えます。

- 男女共に能力重視でよい
- 男女問わず能力のある方
- 男性や女性の割合よりも能力で決めてほしい
- 能力の有る人は、男女に関わらず増える方がよい
- 平等
- 不要。感情で決定してほしくない。

**問14-2 問14-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。その他（具体的に：）**

- 言葉の暴力なので時間が過ぎると他人は理解してくれない
- 主人が精神病の為、その後死亡している
- 相談してもだめだった
- 元恋人に、泥酔しているほぼ酩酊状態の私は避妊なしで無理矢理犯されましたが、とてもみじめで恥ずかしくて親にも友人にも話せませんでした。（幸い妊娠はしてなかった）

**問15-4 性的少数者（LGBTQ）の人権を守るため、こういった取組みが必要だと思いますか。その他（具体的に：）**

- 「実態の周知徹底」と「偏見・差別の排除」をめざす。
- 「性的少数者」等の言葉で区別している時点で、とてもその存在を強調しているように捉えられると思うので、まずはより啓発して認知度を高めることから取り組み、認知度が高まったら、徐々に一般化する運びにしていき、その区別するような言葉自体を失くすまたは薄くしていく。
- LGBTQというくりにせず、普通の人として尊重すべき
- 男の私にはよくわからない
- 家庭内での会話
- 急な休みな子供は、市の職員と警察で確認する。
- この問の主旨がわからない
- 差別意識をなくす
- 社会的教育
- 事由申告なので行政がするのがおかしい。
- 他排的な考え方はダメだと全年齢を対象に教える事
- 男性専門家のご意見を伺いたい。
- 地域の協力、理解
- テレビ等のマスコミ媒体での定期的取り上げ
- 同性婚にも、異性婚と同等の権利を保障する

- 必要なし
- 偏見を無くせるよう継続的に周知していく
- まず少数者以外の人から意識改革をする。性的少数者の意見を聴いた上で再検討し取組む

**問16 男女共同参画社会を実現するためには、市は今後、主にどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。その他（具体的に：）**

- 公立高校の制服廃止
- 参加したことがないので分からない
- 市の窓口で困っている人がいたら、しっかり分かりやすい説明をする。
- 社会資本整備、設備投資
- 女性全体に「男に伍す」心がまえを育てる。
- 女性の積極的起用と書いている事事態平等ではない。人間的に優れている方をどんどん参画して下さい。
- 男性学士のご意見を伺いたい。理性的に決定してほしい。
- 立候補し、研修会を経て登用する制度を作る

**問17 男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望がございましたら、自由にご記入下さい。**

- 「男」だから、「女」だからではなく、ひとりの「人間」として見てほしい。1回やってみて、できた・できないではじめて、その人ができるか決めてほしい。
- ・現代の今なのに、今さら男女平等云々といっていることに対して、時代遅れを感じます。・家内が20年近く前、男女共同参画の一人となったが、重箱のすみをつつくような内容ばかりで、暴力や差別に関することはなにひとつ出てこなかったそう。名刺の順番で男が先というのはおかしいよりも、「女性が能力があってもリーダーになれない方がおかしい」と話して、会から出されたという話がありました。
- ・小学校のハーフパンツの男女色が違う。兄弟で使えるようにしてほしい。性別違いの兄弟の場合。・保育園で使わなくなった園服などを寄付できたり、再び使えるようにしてほしい。
- ・体育館（イベント）があれば。・大学校の誘致。・企業の誘致
- 1.女性市長を立てる
- ①男の有給は取りにくい。②女性は、午後4時頃の仕事を終わりにして子供のお迎えに行きたい。
- 2年前まで正職員として40年間働いてきました。就職した頃は、女性の管理職は5%いるかいないかだったと思います。40年の間に女性の管理職も50%位になってきたと思います。私も退職のときは係長で終わりました。ジェンダー（男性役割、女性役割）を考えたときに、どうしても平等になれるかという無理があります。男性は子供は産めないし、女性は男性よりも力が弱いので。1つ思うことは男性らしく、女性らしくではなく、

あなたらしく私らしく、いろいろな生き方を選択できる、皆と同じでなくても良いという、世の中そういう教育をしてもらえると、もっと、気が楽になるのかなと思います。

■40才前後で独身の方がたくさんいる事におどろいています。結婚相談所をたくさん作り活動する事によって結ばれる子供も増えると思います（石岡市はいい所です）

■SDG s など流行語が多すぎ→関心ない

■あなたの職業の中で今大変な業務の介護職がないのでは？

■石岡市は男女共同参画のみならず、総ての分野で平均以下の進ちょく状況と思われ、活生を願っている。このままでは沈んでしまう。

■石岡市は地域から、まだまだ男尊女卑を感じる事が多い。それでもここ数年の小学校のPTA 広報紙等で女性役員の名前を見る事が多くなった。少しずつ変化していると思う。活気ある石岡市にするためには「保育・介護サービス」を充実させ、若い人達が働きやすく、住み心地の良い環境を整備する事が重要と考える。30 数年前に都市部から U ターンしてきた当時は、保育園の育児時間が短く、送迎してくれる祖父母がいなければとても預けられない状況に驚愕した。核家族ではとても無理な状態でした。現在はずいぶん改善されたのですが、子供を預けられない限り女性の仕事の両立は無理。若い夫婦世帯が魅力を感じる環境整備や支援を望みます。

■以前、職場に市の男女共同参画担当者 2 名が協力をお願いに来ていましたが、市の担当者も私の職場のトップも全員男性で笑った！

■うちの地区は男女平等ではないと思います。女が地区の事をしようとすると反対みたいな感じです。とにかく住みづらい地区です。それから、となりに頭のおかしい人が住んでいてすごく困っています。何とかしてほしいです？

■お互いに何事も協力的になること。お互いに支えられるようになること。

■大人になって社会に出た後、社会への参画の仕方として「男女平等」という言葉が出てくるのではなく、生まれた時から学生の中に男女それぞれに期待される役割や格差・差別があることに 1 人 1 人が自覚的になるための教育が必要だと思う。社会に出て就職した後や妊娠出産した後に初めてその状況に置かれてみて格差や不平等さを感じる事のない社会を望みます。

■お祭りや催事等で女性が食事の支度をするなど、一般家庭でしている事の延長のような女性だからやるべきだ、というような風潮が残っている。苦手な人、嫌な人だっているのだから当然だと決めつけて欲しくない。

■思う事。育児終了後就業した方と子育てしながら働いている方との平等とは？年齢が同じ仕事内容時間等が一緒でも、給料賃金の相違に平等ではないというが、それは違うと思った事があった。

■会議や計画で男女平等を訴えることは大切だと思いますが、会議の委員や計画策定に携わる人は、社会生活の中で自らが男女平等な立場で生活しているのでしょうか？まず、一人一人が自分の意識をみなおすという意識が大切だと思います。なにごと、自分の家族が社会の縮図なんだけどなあ～と思ったりします。



- 介護、家事、保育など充実していれば女性ももっと仕事に力がだせるのではないのでしょうか？
- 教育現場において、性教育が難しい状況でLGBTQの話が出来る？大人も同様
- 結婚しない人達が増えている。1人親への理解と厚遇を広げるべき
- 県内で小・中学校等で教員が不足している。採用試験では成績順の採用の様ですが、男性人、女性人と同数ずつ採用は平等では？教室も女性が多く、産休・育休で代わりの先生見つければ良いが。
- こういう会議を夜や土日の集まり安い時間帯に行っている地域があります。ボランティアを頼み、参加者とボランティアの活用も？
- 公共交通機関に勤めているが、勤務時間（労働時間）が長く、休憩施設、トイレの数等男性用が圧倒的に多い。男女平等の観点からは不平等だと感じるし、平等化を実現するには高くない投資も必要と思う。それだけの体力がある会社ばかりではない。男女平等を実現できるだけの下地（地域活性化・働き口の多さ・多様性等）が無いと、女性の就職先も限られる為、男性優位な事は変わらないと思う
- 国府地区にある児童公園ですが、いろんな年齢層の人が利用していますが安心して遊べる公園なので、幼稚園・保育園に行っていないお子さんが気軽に遊べるように近くに駐車場があると良いと思います。そんなに広くなくて良いと思いますががあると便利だと思うので是非考えて下さい。欲しいと思っている方はいると思います。
- ここに書く問題ではありませんが書かせて頂きます。一言申し上げます。お産の病院が石岡にない事がどうかと思います。その様な事で子供を産む事も大変と思う人がいるとかです。この問題は大変とは思いますがどの様にしたら、人口を多くする事が出来るか。この問題は日本の問題としても良い程だと感じた事を延べさせていただきました。他にも問題ありと思いますが。
- 言葉にしなくても、普通に平等である事が望ましい
- 言葉は知っている方は沢山いると思いますが、企画課を離れたり、他の課の方々も実際に「男女平等」に対して同じ方向を目指しているのかが疑問です。言っている事は立派でも中味がともなっていないのではないのでしょうか？とても難しいとは思いますが...
- このアンケートはいくつの人が答えればよいのですか？80近くの私が答えるものではないでしょうか。むずかしいことを対応しなければならぬので、正しい答えではありません。年齢を考えてアンケートをとって下さい。
- 困り事など一定条件、市役所は相談に乗ってくれていると思います。しかし、法的根拠などアフターフォローなど抜けているのではないかと？担当者の能力とかもありますが、男子女子共に人としてむくわれる社会に限りなく近づけてもらいたい。
- 婚姻（法律婚）と同等における市条例の制定があると、男女平等（LGBTを含）に相応しいと思う。
- 今回、答えたアンケートの結果の公表は、どのようにおこなわれますか？また、何がどう実行されるかを、どう発表されますか？なぜ、今回のアンケートは3000人なのです

か？3000人は市民の何パーセントですか？その結果が、どのような信ぴょう性があるのですか？

■ ささやかな事でも男女不利にならないようにと思っております

■ 市長・役所職員、部長クラスまで、市議員の☆意識改革☆近くの例として小美玉市を見習え！！毎年9/17茨城新聞コラム支局員次の日ダレも歩いていない、石岡市コレで良いのか！書いている。まつりに銭出すな石岡市予算総社宮にまかせろ！。茨城県で石岡市だけで有る6号混んでます電ケイジ板。茨城東高校付近とかかすみがうら市表示、ハズかしいと思え！歴代石岡市長！！バカ者！！

■ 市は何もしないからなし

■ 社会進出するのは個人の考え方だと思いますので、それを市、県、国にどうこう言うのは考え方が違うと思う

■ 職場・家庭での男女格差をなくす

■ 女性が...とか男性が...とかじゃないよなあとか。数や割合を一定にする、平等にするとバカが増えるんじゃないかと思っている。重要なのは機会を平等にすることだと思う

■ 女性活躍推進法→101人以上ではなく、企業として101人以下でも推進していくべき。介護支援の強化を望む（子育てばかりではなくて）

■ 女性側の改革ではなく、男性側の働き方に取り組むべきと考えます。なぜなら、「男は仕事」「女は家事・育児」という固定観念があるからです。そのような考え方を改めることから始めるべきだと思います。

■ 女性管理職に起用もいいですが、管理職になりたい職員を育てることが大切だと思います。

■ 女性だけではなく男性の方も「育児や介護」を少しでも協力できるようにした方がいいと思う。その為にそういう事を学ぶ機会を増やした方がいいと思います（勉強会など）

■ 女性の賃金アップを望みます

■ 新採時は若いんだから、数年経つと中堅だから、できるんだから（慣れているから）等の理由で仕事を増やされたり任されたりした。又、妊娠中、職場で男性や一部の女性がサボっている等心ない言葉をかけられたり、仕事をする中で理不尽さを感じる事があった。みんながおだやかな気持ちで仕事ができればいいと思う。考え方が古い人が多いうちは、仕事や出産、子育てが難しくなるのでは？

■ ずっと都内で勤務してましたが、都市部と地方では、生活形態からして、まだ温度差があると思います。まだまだ時間が必要かと....。設問F8、最近来た者には意味不明。アンケートに入れるなら細かい説明がないと答えられません

■ すべて男女平等にする事は物理的に無理があると思われる

■ たくさんのことが見えていない者が発案し決定となってしまうと、今までのくりかえしとなってしまう。経験豊富で有能（理性的）な男性学士の方々に決定していただくとストレスがなくなると思う。

■ 他県からの移転で石岡の住人とはなったものの、仕事に就いて居ることもあって地域の関りは皆無の状態。73才になるとはいえ現実の生活には不可欠の労働。しかも週に5日～

6日の業務では、具体的に地域との繋がりなど出来ようはずも無し。たとえば休日についての取り組み等が実現できるならば、可能性は有るかな？

- 男女が心おきなく働ける環境を作ることが必要。意識改革も求められると思う
- 男女共同参画重視の弊害の一環として、管理職登用等で女性に甘い傾向が有る。実際この結果失敗した例が多々みられたことが有る。この辺も充々配慮する必要がある
- 男女平等そのものが存在しない。男女同権は存在する。自由・平等・博愛も存在しない。民主主義とか多数決も不要で、真実が重要（多数決は力の世界になる）
- 男女平等だと思います。差が出るのは各自の能力の違いであると思います。女性の方が出産、子育て、家事等々で苦勞は多いと思いますが、男性には出来ない事があるのも事実
- 男女平等とはいえ、そもそもの生物としての役割が違うのでそんなに是正が必要とは思いません
- 男女平等などの前に差別をなくす。大なり小なりたくさんの差別が今だにある。差別をなくせば男女平等の問題も少なくなると思う。
- 男女平等について。実際あまり、平等とは感じない
- 男女平等は「教育」が必要。財政（市税）はの使い方を見直す。教育に力を入れてほしい。
- 男女平等や男女共同参画について、現在最も重要なことは、男女ともに意識の変化、向上が必要であり、市はこの啓蒙に努力すべきと思う。
- 男性が育休を取得した際、会社から手当てが支給される場合がありますが、市の方からも給付金のような金銭的な支給があれば良いと思います。
- 男性しか参加できない、大相撲、歌舞伎等に関しては国が税金や人間国宝等と国自体が応援している。それをなくせとはいかないが、声高に男女平等や男女共同参画を述べる人は、自身の立場、利益の為に述べている様にしか感じない
- 男性にやりづらい仕事、女性にやりづらい仕事があるように、お互いリスペクトすることが大切かと。女性も男性に対しての差別されているというのが過剰、男性も未だに差別している人間も多い。本当に互いの意見に興味がないとしか思えない。
- 地域のコミュニティ（区長など）の役員に女性がもっと増える様な環境整備をお願いしたいです。
- 手配者（70才以上）の方々への意識改革（考え方）する広報活動が重要と思います。全ての人ではないが昔の考え方を持っている人が多いように感じます。
- 問1までは回答しましたが本人が問2から最後まで意識調査に関して回答したくないとのことで問1で終了します。
- 道路の歩道に対する取り組みが石岡市は遅れている。高齢者に対する思いやりがない。
- 特に感じてませんが、市からの情報が少ない、今回の調査で遅れてるかな！
- 特に男女平等については家庭で親が子供に教えていくべきだと思う。家庭でも男女平等に家事分担を行って子供に見せていく
- 取り立てて問題にせず、普通、それがあたりまえという考え方が大切では？いろいろな人がいるのだから。F1～F8のような設問は、さまざまな要素で結果的に未婚の私には大

変不愉快です。公務員は男女平等だと言われていますが、在職中はいろいろありました。夫婦のうち夫が亡くなった場合は妻に遺族年金がおりると思いますが、妻が亡くなっても夫には遺族年金がおりないのはなぜでしょう。(間違っているかもしれませんが...)

■なんでもすぐセクハラとかならない、環境づくりが大事だと思う。昔のが男女ともにきをつかわなかったと思う。今、このようなアンケート事態がまさにそうだと思う。

■日本の長い慣習でなかなか男性がお勝手に立つという姿、洗たくする姿、掃除する姿が見られませんね。私も主人同様勤めていましたので、一緒にやってくれるといいなあと思ったことが多々ありました。勤めているうちに趣味、その他のことで仲間づくりをしておくことは大切ですね。私は長く書道をしていたので、今でも地域の人とつながっていてありがたいです。〈市へのお願い〉生活保護を受けている世帯、父子・母子家庭の世帯一市や県、国からの補助を受けている世帯の追せき調査などきめ細かく行っていただきたい。※税金のむだ使いがないように。

■日本はまだまだ男女平等の意識が低いので、早く社会・経済その他の分野でも女性が活躍出来るようになればよいと思う。

■年功序列や仲良し登用の廃止

■パートナーいつもありがとう！

■一つだけの施策で課題が解決できるわけではないので、積極的な取組み、施策が必要だと思う。何よりも実行が大切だと考えます。

■人の存在を肯定的に、豊かさの指標を明確にすべき

■平等、平等と言ってきた昭和世代が結局女性は家庭を守るものという考えが植いつているからなにも変わらないしハラスメントがある。

■部落の集まりが強制参加となっており、行けなくても文句を言われたり、どうにかして参加できないのかと聞いてくる。集まりはほとんどというか全員男性しかおらず、まったく女性の意見等聞かない。全て男性の意見によって決まるし、コロナ禍ということもあって参加したくないが強制的に集まりを開かれる。こういったことをやめにしてほしい。

■北欧社会に学ぶべきことは多い。

■息子に届きましたが、回答がめんどくさいとのこと、母親が回答いたしました

■役職の男女比率が議論されますが、単に比率の均等を図るのでは意味はない。仕事に対する意識・やる気の充実度の均等を図ったうえで、平等な教育・研修をほどこし、偏見のない任用を行うべきです。人事こそ市政の要であります。

■谷島洋司市長にお願いです。桜川市とつながる上曽トンネルですが、桜川市側はすでに完成しています。石岡市側も早く完成させ、1日でも早く開通させて下さい。

■レディースデイ等納得できない

■若い世代の方は男女平等など、よく考えていると思うが、40~80代の方達は昔の古い考えのままそれが正しいと思いこんでしまっているため、変わらないと思う。

■私には主題の男女共同参画社会の意味が解りません。今年 88 才となり、68 年間女性の女性による女性のための職業を維持して参りましたが、それ程男女の区別を感じたことはありません。自然界の動植物を見てもオス・メスの役割分担をもつての世界です。基本的

には男は餌を集め（動）メスは子育てが基本であると思っており、これを基準にお互いが努力し、より豊かな生活を目指して社会が無理のない永続性のある社会と思っておりま

す。  
■私は男性です。名前が千秋なので女性と思って、郵送してきたのでは、でもアンケートには回解しました。

■私は石岡市民の方は、人を差別する事が大変好きな住民と思われます。（他県からの移住、江戸時代から住んでいる旧家とよばれる住民）など。まず男女平等も良い事と思いますが、人間の平等の意識を変えていかないと石岡市は良くなれないと思います。

■意識改革のためには教育が必要。

知識として知っているのではなく、  
意識せずに言葉や行動に現れるためには、  
教育の積み重ねが大事だと思います。

■何をもって男女平等とするか。

それが定義できないうちは議論する必要無し。

女性だからという理由だけで、無能でも要職に登用することのないように。

■改正されても、旦那がサービス残業で夜遅くならないと帰ってこない上に給料は上がらないならば、まず、働きに出ることに無理がある、行政に申告する事業主が隠蔽する時点で変わるのは大企業のみ、低所得者は更に低給料になり、サービス残業で身体を壊すことになるだけ。日給の現場仕事でサービス残業、有給ボーナス無し、赤日出勤、家事を負担してもらわないといけない、男女平等は無理。

■共働きでも子育てができる環境整備

■国も市町村も平等にはと言っているが、全く平等になっていかないと思う、男性の役人が女性の役人の政策や考えはわからないと思う。

石岡市は他の市町村に比べると子育て世帯に対する政策も少なく、老人向けの政策とインフラ整備ばかりに予算を使っている割に石岡駅前通りのシャッター街の対策もないため、徐々に増えていってる現実をしっかりと見てほしい。

農業に関しても、年々減っている農家や酪農家などに対しての制度の改訂などや若者の農業、酪農などに対する知識やノウハウを付けさせないと10年先の農家や酪農が残る現実はかなり低いと思う。

周りを見ると石岡市からの若者離れは年々増えているのが現実なのがわかるので、石岡市特有の政策や制度などが必要だと思う。

■今やっているか分かりませんが、少子化対策で市か県で婚活パーティーを催していたと記憶しています。子供を産める、持てる可能性のある人間だけではなく、すべての人が幸せになれるという考え方のもと、イベントを企画してほしいと思います。そうする事で、県が注目され、移住者も増えるかも知れません。結果、子供が増えるという事にもなるかと思っています。東京都がパートナーシップ制度を導入するようですし、茨城県も続いたらいいと思います。

あと、男女の平等については、私は不可能な部分も正直あると思います。仕事自体は、能力のある人間が選ばれるのが妥当だと思っています。男女関係なく、仕事の出来る人が上に行くべきです。女性をただ増やせばいいわけではありません。ただ、すべてを平等に出来るかといえば、女性はやはり妊娠するし、生理もあるし、体調管理で済まされない不調をきたすものです。思い通りに仕事が出来ない場面は必ずあります。そういった部分で、100%男女平等というのは難しいと現実的に思います。その面では、やはり男性が優位です。難しいですが、女性特有の不利な部分を、どう補えるかは会社にかかって来るでしょうね。これは、持病を持っている人がいかに社会で働いていけるか、という問題とも一致すると思います。助け合いの気持ち、どんな人でも個性と捕らえて平等の意識で生きていく。一人ひとりの意識づけがいちばん重要なのかも知れません。そうなると、教育の中でそのような考え方を持つ子供を育てていく方法を探るのがいいのかなと思いました。とりとめなく書いてしまい、すみません。

■歳をとっている人ほど根本的に平等にする気がないように思います。平等にされたら困るの？と思うような時があります。

■社会は、男女にこだわりすぎている。男女の割合を決めるのではなく、単純に能力等で評価していけばよいと思う。(男女ともに支援制度は必要。)

■女性がパートや時短で働くのに

保育園に預ける際、「月15日以上就業」や「月の労働時間」によって預けられないことがあります。

保育園に預けるのに、ある程度の労働時間の規定を設けるのは不必要な保育を予防するために必要なことであるし、保育士さんの負担緩和になるため必要なのは理解できます。

しかし、昔ながらの専業主婦など家事、育児を行う時代ではなく、女性の社会進出、男女の共同参画を促進していくのであれば、保育を委託しやすい環境・サービスの充実（施設の充実や保育士の確保に向けた処遇改善）、保育所に預けることへの社会的理解・偏見の緩和に向けた取り組みを充実させていただきたいです。

いまだ親や社会の上層部50歳代、60歳代の方々の偏見が目立つことがあります。

「仕事が休みの日に子供を預けるなんて育児放棄だ」

「女性が育児の中心であるべきだ」

「男性が育児休暇を取るなんて昇進を諦めてる」

など、私が職場や社会で実際聞いた意見です。

その年齢層の方々でも理解がある方もいらっしゃいますが、どうしても上記のような方々の意見、偏見が目立ってしまいます。

偏見や元来の考え方を変えるには多くの時間と多方面からの介入が必要であるため、簡単なことではないと思いますが、私の子供が育児をする世代になったときに、同じような思いをさせたくありません。

石岡市の男女参画への政策を祈念致しております。

■女性に平等を・・・とよくいう人の方が、男女平等に見ずに、女を武器に戦っているイメージが強い。

またよくニュースでも耳にする女性議員の数を増やすや、役員を増やすというものは女性の働いている総数から役員や議員を無理に増やすという事は、出世や当選率が高く、無能が役員や議員になってしまうのではないだろうが。

働きたい奴が働けばいいし、がんばったやつが評価されればよい。

男女平等ならば、トイレや更衣室も同じでよい。それを分けるという事は平等ではないし、やはり同じではない

仕事内容や体力、体のつくりも違うので無理やり平等にする必要はない

本当に平等であるのであれば、なぜオリンピックなどスポーツは分かれているのか？

■小さな規模の会社が、従業員に育休を取らせたくても人件費の問題で難しい現実がある。そのため企業が妊娠後の退職を望んでしまったり、妊娠適齢期の女性の採用を控えたりしているのを感じる。いくら法律で妊娠を理由にした解雇はダメと言われても企業の負担が増えるのは事実であるため、法律だけでは改善できないと感じる。自治体を含めて根本から改善していかなければ、出生率は下がる一方で自治体自体の持続可能性がなくなると思う。

■少子高齢化について給与をもっと上げていかないと何も始まらないと感じる。育児手当ひとつとっても段々減らされている感じがします。反面、税金ばかり増える。

■全てにおいて男女平等は難しいと考えます。お互いがリスペクトし認め合ってからと思います。

■担当者の方、頑張ってください。

■現状、世間一般に謂われている「男女平等社会」は「女性に都合の良い社会」を目指すものになっているのもよく無い傾向だと感じております。

平等を無理やり押し付けるものではなく、性別に関係無く個人の望む生き方を支援できるような社会を望みます。

■男女平等という考え方が片寄っている。

どうせ石岡の男は女の言うことなんて聞かない。委員とか役員に女性を起用すればそれで良しと思っていることがみえみえ。毎日子育てや家事をしている女性の邪魔を男性がしないようにして欲しい。男性が考える制度ではムリ。

■男女平等と謳いながら、女性の話ばかりなのがいけないと思う。もともと意識の高い男性以外の一般的な男性はシラけると思う。

世帯のある女性が社会進出すれば、必ずその影響はパートナー（男性）に来る。

そのため、女性進出の話は女性だけでなく、常に男性もセットでなければならぬと思う。

■都会と違って子育て、特に学校の送り迎えが必要となり、特に母親の就業が制限、限定的になる状況があるので平等な立場(フルタイム)で仕事を出来る環境にない方が多いと感じる。

公共の交通機関の拡充か高校生までは格安に利用出来る環境などの行政サービスがあると好ましい。

■問 16、答え 15 に同じ

■問一は「男女の地位は平等になっていると思いますか」という質問でしたが、たとえば育児の優遇とは、「子供に多く関わること」なのか、「子供の面倒を見ず自分の自由時間が多いこと」なのか、どちらを意図しているのかわかりにくかったので「わからない」にしました。

どちらが「優遇されている」状態ですか？